岩手県内遺跡発掘調査報告書

（平成23年度）

岩手県教育委員会

序

埋蔵文化財は先人の残した国民共有の貴重な歴史的財産です。文化財保護法の理念にもとづき、埋蔵文化財を保護し後世に伝えていくことは、現代に生きる私たちの責務です。

本県沿岸市町村に甚大な被害をもたらした東日本大震災津波から２年が経過し、「復興道路」として位置づけられた三陸自動車道建設、集団移転地の造成、被災した道路や農用地の復旧等、被災地住民の生活再建と向上のための種々の大規模開発事業が動き出す中、これら事業に係る埋蔵文化財調査への迅速な対応が求められています。また被災地では、個人住宅再建や企業の店舗・施設再建等、民間の開発行為にともなう埋蔵文化財調査が増加しており、マンパワーの不足も相まって、地元教育委員会がその対応に追われる状況も生じています。

このような情勢の中、文化財保護行政は、復興事業の推進と埋蔵文化財の保護とをいかにして両立させていくべきかという困難な課題に直面しています。当教育委員会では文化庁の調整の下、本年度、10道府県から専門職員の派遣をいただいて、復興事業にともなって生じる膨大な埋蔵文化財調査の実施や沿岸市町村の埋蔵文化財調査への支援等、対応を図ってまいりました。復興は未だその途上にあり、今後も国・他都道府県の御支援をいただきながら、課題克服にあたってまいる所存であります。

『岩手県内遺跡発掘調査報告書』は、県内に所在する遺跡の周知と、開発事業との調整の中で行った諸調査の記録提示とを目的として、平成元年度から当教育委員会が年次発刊してきたものです。本書には、平成23年度に実施した発掘調査、試掘及び分布調査の成果をまとめております。本書が広く活用され、埋蔵文化財保護に役立てば幸いに存じます。

最後になりましたが、調査および報告書作成にご指導とご協力をいただきました関係機関・関係各位に厚く感謝申し上げます。

平成25年 3月

岩手県教育委員会

教育長　菅　野　洋　樹

目　　次

序
例言
凡例
Ⅰ　発掘調査 …… 1
1　一般県道南笹間黒沢尻線滑田地区歩道設置工事（鳩岡崎下通遺跡） …… 2
2　畑地帯総合整備事業（担い手育成型）男神・米沢・湯田地区（土川Ⅱ遺跡） …… 4
3　津付ダム建設事業（子飼沢高炉跡） …… 6
4　畑地帯総合整備事業（担い手育成型）男神・米沢・湯田地区（上平Ⅲ遺跡） …… 8
5　経営体育成基盤整備事業和賀中部六原地区（可能性あり①～③） …… 10
6　経営体育成基盤整備事業古城２期地区（古城林遺跡） …… 12
7　やさわの園整備事業（中野A遺跡） …… 14
8　稲瀬地区堤防質的整備事業（谷地遺跡） …… 16
9　経営体育成基盤整備事業和賀中部第４地区（八天坂遺跡、久田Ⅱ遺跡） …… 34
遺物観察表（1） …… 49
Ⅱ　試掘調査 …… 53
1　一般国道４号水沢東バイパス（熊之堂遺跡） …… 54
2　東北横断自動車道釜石秋田線（新里間木野遺跡） …… 55
3　北上川中流部治水対策事業二子地区（中村遺跡） …… 56
4　一般国道４号盛岡北道路（穴口遺跡、狼久保Ⅲ遺跡） …… 57
5　一般国道45号高田道路（瓜畑遺跡） …… 58
6　東北横断自動車道釜石秋田線（不動滝遺跡） …… 59
7　地域連携道路整備事業一般国道106号宮古西道路（松山館遺跡） …… 60
8　経営体育成基盤整備事業都鳥３期地区（漆町遺跡） …… 61
9　経営体育成基盤整備事業石山地区（石山遺跡） …… 63
10　経営体育成基盤整備事業和賀中部六原地区（赤石遺跡） …… 64
11　経営体育成基盤整備事業和賀中部第四地区
（久田Ⅱ遺跡、高田坂遺跡、伍大坂Ⅰ遺跡、欠ノ下台地遺跡） …… 65
12　経営体育成基盤整備事業日形地区（石畑遺跡） …… 66
13　中山間地域総合事業西風高瀬地区（下清水遺跡） …… 67
14　県南青少年の家職員公舎売却（揚場遺跡） …… 68
試掘出土遺物 …… 69
遺物観察表（2） …… 71
Ⅲ　市町村支援 …… 72
1　神社社殿移設（本宿館遺跡） …… 73
2　社会資本総合交付金事業村道沼袋田代線改良工事（田代タテ遺跡） …… 74
3　高台移転予定地（新館遺跡） …… 75
4　一般住宅建設（中平遺跡） …… 76

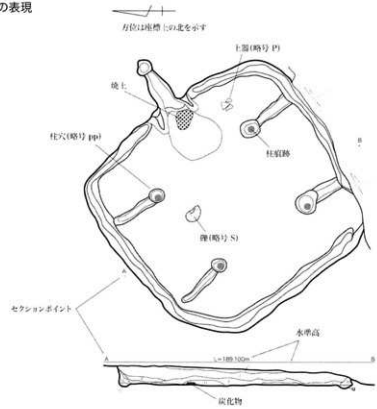
5　保育所建設予定地（大平野遺跡）　77
6　一般住宅建設（荷竹日向Ⅰ遺跡）　79
市町村支援出土遺物、遺物観察表（3）　79
調査一覧　80
1　発掘調査　80
2　試掘調査　80
3　分布調査　82
4　工事立会　87
写真図版　88
検出遺構・調査状況　88
出土遺物　95
報告書抄録

例　言

1　本書は岩手県教育委員会が平成23年度に実施した県内遺跡発掘調査事業に係る調査成果の概要報告である。なお、本事業は埋蔵文化財緊急調査費国庫補助の交付を受けて実施したものである。
2　本事業は岩手県教育委員会が調査主体となり、(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター及び関係市町村教育委員会の協力を得て実施した。
3　遺跡位置図は国土地理院発行の1/25,000地形図を使用し、一部改変したものである。
4　発掘調査の調査区位置図、試掘調査の調査図等は各事業者から提供された工事計画図・地形図等を原図として作成した。
5　遺跡位置図・調査区位置図等においては、遺跡範囲をアミフセ、トレンチ・調査区をシロヌキでそれぞれ示した。
6　発掘調査については調査成果の概要を記載した。なお、平成22年度報告書に掲載できなかった谷地遺跡及び八天坂遺跡・久田Ⅱ遺跡の発掘調査報告を本書に掲載した。また、当教育委員会が実施した市町村支援についても概要を記した。
8　発掘調査の遺物実測図は遺跡別に、試掘調査の遺物実測図は一括して掲載した。また遺物観察表は各章末に一括して掲載した。
9　遺構・遺物実測図の掲載は、遺構については1/40または1/60、遺物については1/3縮尺を原則とした。実測図の表現は凡例のとおりである。
10　写真図版は、紙幅の関係から主な遺構・遺物を選択して掲載した。掲載縮尺は、遺構については任意縮尺、遺物については実測図に概ね準じている。
11　本事業の野外調査・室内整理および報告書作成・編集は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課埋蔵文化財担当が行った。平成23年度の担当職員は次のとおりである。
　文化財専門員（総括）菅 常久 、文化財専門員 千葉正彦・半澤武彦、文化財調査員 佐藤郁哉
12　本事業の調査記録及び出土品は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課が保管している。

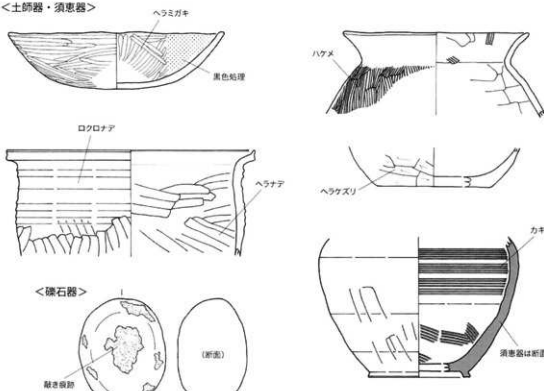
凡　例

遺構図の表現

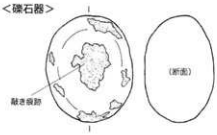


遺物実測図の表現

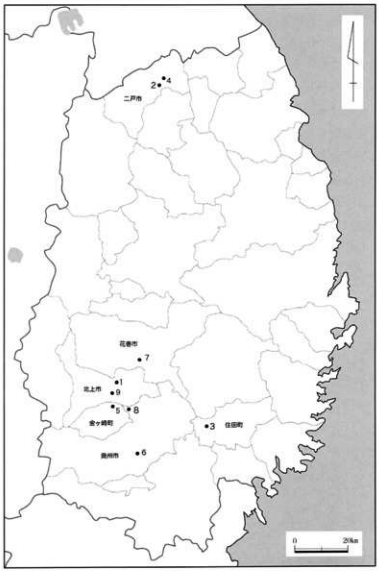
＜土師器・須恵器＞



＜礫石器＞



Ⅰ　発掘調査



発掘調査
1　鳩岡崎下通遺跡（北上市）
2　土川Ⅱ遺跡（二戸市）
3　子飼沢高炉跡（住田町）
4　上平田遺跡（二戸市）
5　可能性あり①～③（金ヶ崎町）
6　古城林遺跡（奥州市前沢区）
7　中野A遺跡（花巻市）

〔平成22年度調査遺跡〕
8　谷地遺跡（奥州市江刺区）
9　八天坂遺跡、久田Ⅱ遺跡（北上市）

1　一般県道南笹間黒沢尻線滑田地区歩道設置工事

鳩岡崎下通遺跡（ME55－1186）

所在地：北上市鳩岡崎３地割地内

事業者：県南広域振興局土木部北上土木センター

調査期日：平成23年4月25日(月)～4月27日(水)

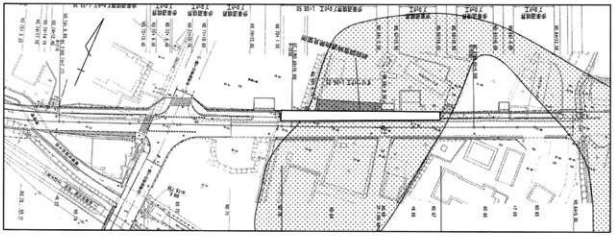
第１図　鳩岡崎下通遺跡位置

鳩岡崎下通遺跡はＪＲ東北線北上駅の北西4.9㎞、黒沢川左岸の低位段丘面に立地している。今回の調査は県道245号の歩道設置工事に伴うものである。調査は昨年度実施した試掘調査で遺構・遺物が検出された範囲を対象としており、周知の遺跡範囲の西端部分にあたるが、一部は遺跡範囲外に延びる形である。調査地の現況は現道北側に隣接する宅地跡である。調査地の基本層序は、Ⅰ層：表土・盛土（層厚20～30㎝）、Ⅱ層：黒褐色土（30～50㎝。遺物を疎らに含む）、Ⅲ層：暗褐色土（10～20㎝。遺物を疎らに含む）、Ⅳ層：黄褐色粘質土（層厚不明。地山。遺構検出面）、である。

調査の結果、土坑３基と柱穴１個が検出され、土師器・須恵器が出土した。

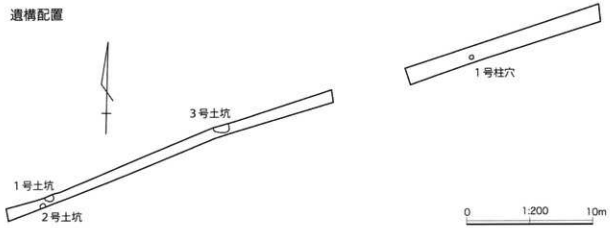
１・２号土坑は調査区西端付近で隣接する形で検出された。ともに一部が調査区外にかかるが、平面が略円形を呈すると推測される。１号土坑の埋土上位には焼土の薄層が形成されており、炭化物粒を含んでいる。３号土坑は調査区中央付近に位置し、埋土に焼土粒・炭化物粒が混入している様相が観察された。北側が調査区外へと広がるため全体の形状は不明であるが、方形平面を呈すると推測される。埋土の様相から、焼成土坑の可能性があるものの確証は得られなかった。これらの土坑の所属時期は、出土遺物から判断して平安時代と考えられる。柱穴は１個のみの検出である。底面で柱アタリと思われる段差が見られることから柱穴と認定した。周辺に組み合う柱穴は確認されなかった。遺物は出土せず、所属時期は不明である。出土遺物は少量で、土師器・須恵器の破片が９号袋で約1/2分出土した。主に土坑埋土から出土したものである。平安時代に属するものである。

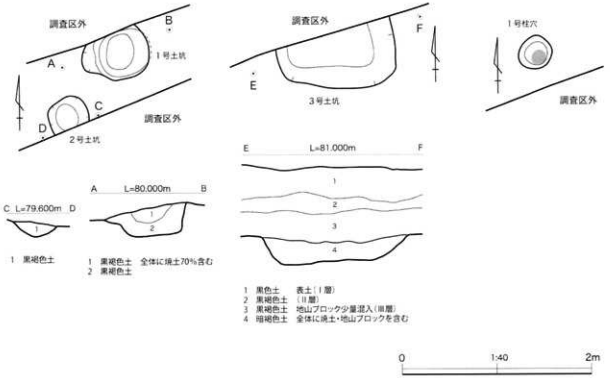
今回の調査地は遺跡範囲の縁辺付近にあたるが、段丘縁まで遺構・遺物が存在していることが判明した。

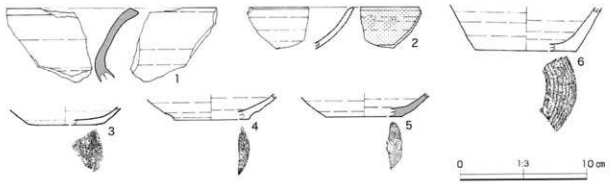


第２図　鳩岡崎下通遺跡調査区

遺構配置







第３図　鳩岡崎下通遺跡検出遺構・出土遺物

2　畑地帯総合整備事業（担い手育成型）男神・米沢・湯田地区

土川Ⅱ遺跡（JE09－1152）

所在地：二戸市石切所　地内

事業者：県北広域振興局農政部

二戸農林振興センター農村整備室

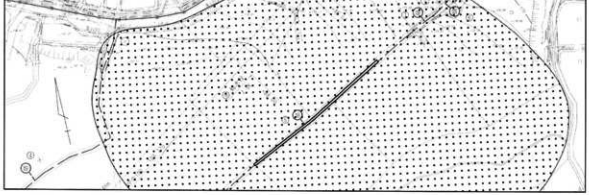
調査期日：平成23年8月3日(水)～5日(金)

第４図　土川Ⅱ遺跡位置

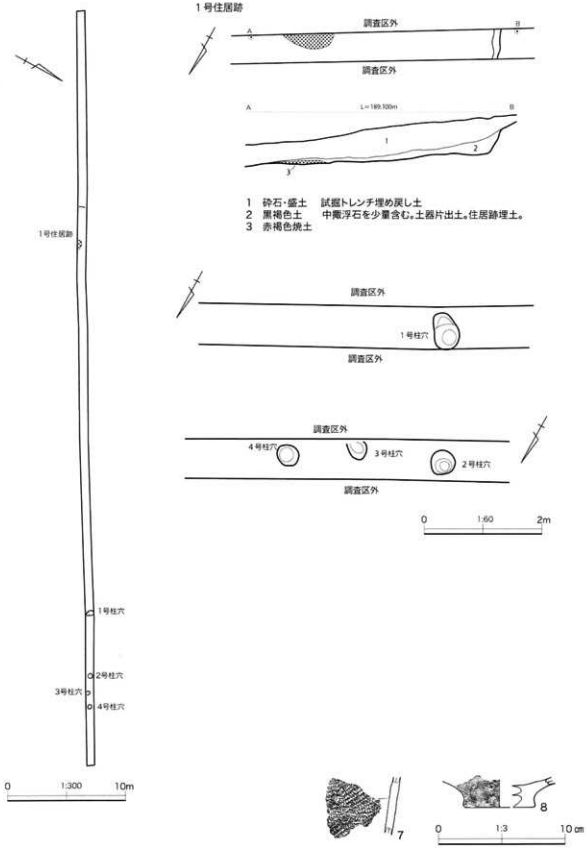
土川Ⅱ遺跡はＪＲ東北新幹線二戸駅の西約1.4㎞の台地上に位置している。遺跡は上里集落西側の北東向き緩斜面に立地し、現況では果樹林となっている。農業用水給水管の埋設工事に係り昨年度試掘調査を実施した結果、一部で遺構が検出されたことから、今回、当該部分について記録保存のための発掘調査を実施した。調査地は遺跡中央付近の作業道部分、延長約64m、幅0.7～0.8mの範囲で、南西から北東方向へと傾斜している。路面は周囲の地形面より一段低く、土層堆積状況から見て旧地形を切り下げて作られているものと思われる。調査地の層序は、Ⅰ層：表土・盛土（層厚15～20㎝）、Ⅱ層：黒褐色～暗褐色土（30～40㎝。中掫浮石微量、南部浮石少量が混入）、Ⅲ層：褐色浮石（5～20㎝。南部浮石層。遺構検出面）、Ⅳ層：褐色粘質土（層厚不明）となっている。

調査の結果、竪穴住居跡と柱穴状ピットが検出された。竪穴住居跡は調査地中央西寄りで１棟検出された。検出層位はⅢ層（南部浮石層）上面である。斜面上方（西側）で壁を検出したが、下方側の壁は確認できなかった。残存する壁高は20～25㎝である。床面はごく緩く北東方向へ傾斜する。西壁から約３ｍ離れた位置に80㎝×25㎝の焼土の広がりが検出されており、住居にともなう炉（地床炉）と推測される。柱穴は検出されていない。埋土はⅡ層起源の黒褐色土で、縄文土器片３点が出土した。深鉢胴部および底部の破片で、縄文時代後期の土器と思われる。このことから、当住居は該期に属する可能性がある。柱穴状ピットは、調査地東側のⅢ層面で４個検出された。開口部径33～61㎝、深さ15～25㎝である。遺物は出土せず、所属時期は不明である。

今回の調査範囲で縄文時代と推測される遺構・遺物が確認された。調査地が狭小であることからその様相は判然としないが、調査地周辺に該期集落が存在しているものと推測される。



第５図　土川Ⅱ遺跡調査区位置



第６図　土川Ⅱ遺跡検出遺構・出土遺物

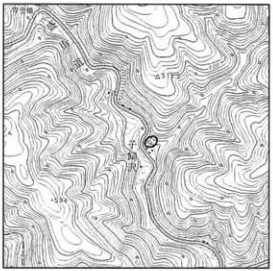
3　津付ダム建設事業

子飼沢高炉跡（NF13－0143）

所在地：気仙郡住田町　地内

事業者：沿岸広域振興局土木部大船渡土木センター
津付ダム建設事務所

調査期日：平成23年8月23日(火)～26日(金)

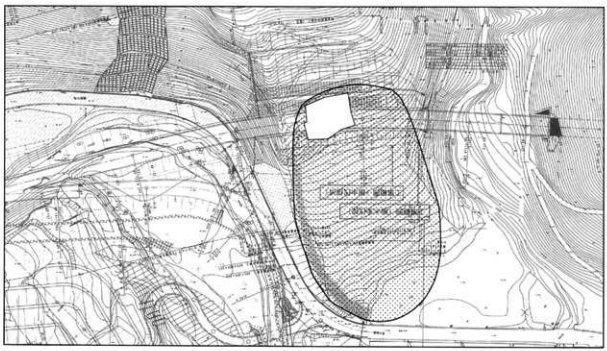


第７図　子飼沢高炉跡位置

子飼沢高炉跡は住田町役場の西11.5㎞、大俣川左岸に面する山稜に立地する。種山高原から発して山間を蛇行しつつ東流する大股川は遺跡付近でクランク状に屈曲してその周辺に狭隘な氾濫低地を形成しているが、それに接する南向き山稜斜面に当遺跡が所在している。斜面は一部段々に造成されて開田されたようだが、現況では放棄されて山林となっている。住田町内には当遺跡同様の製鉄関連遺跡が複数所在しており、当遺跡西側の大股川対岸の緩斜面には子飼沢Ⅰ・Ⅱ遺跡、西北西2.6㎞の大股川上流には県指定史跡・栗木鉄山跡がある。今回の調査はダム建設に伴う道路改築工事に係るもので、平成22年度に実施した試掘調査において遺構が検出された範囲について実施したものである。調査地は遺跡の北東端付近にあたる。

調査地の堆積土の層序は、Ⅰ層：表土（層厚15～20㎝。腐植土）、Ⅱ層：黒褐色土（20～50㎝。小礫を多く含む）、Ⅲ層：黄橙色粘土（20～30㎝。地山。亜角礫を含む。遺構検出面）、Ⅳ層：淡黄色砂質土（層厚不明。地山。粘板岩破砕礫を多量に含む）である。

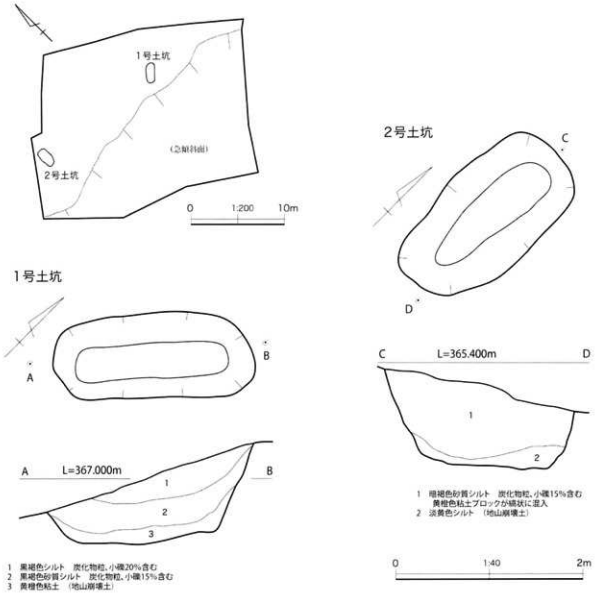
調査地は緩やかな南向き斜面であるが、調査の結果、斜面下方側は傾斜がきつい急斜面となる状況が確認された。この部分では遺構は検出されなかった。一方、斜面上部の平場状の部分において、中央付近で１号土坑、西側で２号土坑を検出した。２基ともに平面形は隅丸方形、断面形は台形状を呈しており、形状・規模が似通っている。規模はそれぞれ、１号土坑：開口部長軸2.2m×短軸0.9m、



第８図　子飼沢高炉跡調査区

深さ0.4～0.8m、２号土坑：長軸2.1m×短軸1.1m、深さ0.7～0.9mである。埋土は、１号土坑では黒～黒褐色土が主体、２号土坑は汚れた暗褐色土という差異はあるが、ともに中～下位に壁の崩落による地山土が多量に見られる。遺物は全く出土しなかった。当土坑の用途は明確ではないが、埋土中に炭化物粒が多量に見られ、壁の一部で被熱による赤変が僅かに認められることから考えれば、ごく短期間使われた炭窯跡と推測される。また、所属時期については近世以降のものと思われるが、判断材料を欠くためその詳細は不明である。

調査の結果、比較的緩やかな傾斜面に炭窯が設けられていたことが判明したが、その他の遺構・遺物は一切確認されなかった。当該炭窯は製鉄に関連する可能性はあるが、今回の調査結果のみからは判断できない。



第９図　子銅沢高炉跡遺構配置・検出遺構

4　畑地帯総合整備事業（担い手育成型）男神・米沢・湯田地区

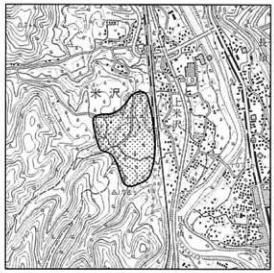
上平Ⅲ遺跡（IE99－2218）

所在地：二戸市米沢地内ほか

事業者：県北広域振興局農政部

二戸農林振興センター農村整備室

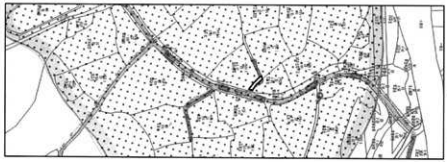
調査期日：平成23年9月26日（月）～28日（水）



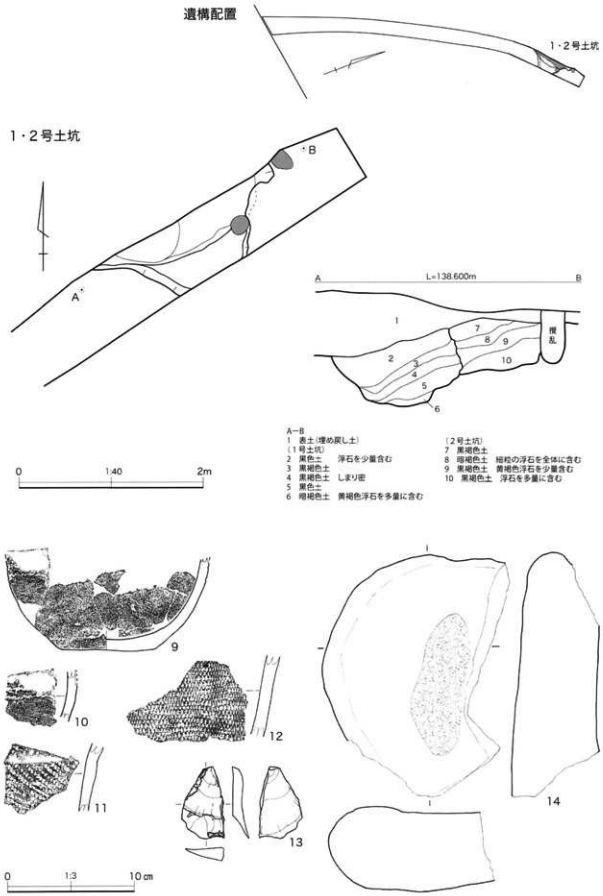
第10図　上平Ⅲ遺跡位置

上平Ⅲ遺跡はＩＧＲいわて銀河鉄道斗米駅の南約600mの丘陵上に立地している。周辺には周知の包蔵地が多く存在しており、東側には下村遺跡、南側には上平Ⅳ遺跡が隣接している。遺跡の大部分が果樹林となっている。米沢地区の農業用水給水管理設工事に係り平成22年度に試掘調査を実施した結果、一部で遺構が検出されたことから、当該部分について記録保存のための発掘調査を実施した。調査地は遺跡範囲の南寄り、丘陵頂部の平坦面にあたり、市道に接続する作業道である。この作業道は周囲の地形と比べて殆ど段差なく、大きな地形改変を被っていないと考えられる。調査地の層序は、Ⅰ層：砕石・盛土（層厚30～60cm）、Ⅱ層：黒色土（20～130cm）、Ⅲ層：暗褐色土〔20～30cm。黄褐色パミス粒（中掫火山灰）を含む〕、Ⅳ層：暗褐色土（20～60cm）、Ⅴ層：黄褐色浮石（15～40cm。南部浮石の純層）、Ⅵ層：にぶい黄褐色粘質土（20～50cm。浮石を含む）、Ⅶ層：明黄褐色粘質土（層厚不明。八戸火山灰）である。

調査の結果、調査地北東隅付近において試掘調査で検出されていた土坑を確認したが、その他の遺構は検出されなかった。調査地の南西側は地山が落ち込んで、埋没沢状の低みとなっていた。土坑は調査区外へと続いており、調査したのは南側の一部である。当初、１基のみと考えて精査したが、埋土断面を検討したところ、埋土の土層に不整合な面があることがわかり、土坑２基が重複している可能性が高いと判断した。西側のもの（１号土坑）が新しく、東側のもの（２号土坑）が古い。１号土坑は、前述の事情から東側壁を把握できず、また壁上部を試掘時のトレンチにより失っているが、断面を参照すれば開口部径1.4m、深さ0.9mである。平面形は円形ないしは楕円形を呈すると思われる。底面はⅥ層面に達している。埋土は主に東側から流入している。断面では東壁の立ち上がりが不明瞭となっているが、埋没過程で崩れたためと推測される。明確ではないが壁が内弯して立ち上がる、いわゆるフラスコピットだった可能性がある。一方、２号土坑は西側を１号土坑に切られており、全体形状が不明確である。底面は１号土坑よりも浅く、Ⅴ層の浮石面である。確認できる範囲では、開口部径1.0m以上、深さ0.6mである。いずれの土坑からも遺物は出土しなかった。時期判断の根拠に乏しいが、形態からみて縄文時代に属する土坑と推測される。なお、出土遺物は調査地南西側の埋没沢状の落込み部分から縄文土器片・石器が少量出土したのみである。出土層位はⅡ層である。



第11図　上平Ⅲ遺跡調査区



第12図　上平Ⅲ遺跡検出遺構・出土遺物

5　経営体育成基盤整備事業

和賀中部六原地区

可能性あり①～③

所在地：胆沢郡金ヶ崎町六原地内

事業者：県南広域振興局農政部農村整備室

調査期日：平成23年10月11日(火)～14日(金)

第13図　調査地位置

調査地は金ヶ崎町北部の六原地区、東北自動車道金ヶ崎IC南西側の水田地帯に位置する３地点である。これらは周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、六原地区のほ場整備工事に係り平成22年度に実施した試掘調査の結果を承けて、発掘調査を実施したものである。現況は各地点ともに水田である。

この地域は現況では高低差が少ない広大な水田地帯であるが、昭和30年代に大規模な開田が行われており、現況地形は大幅な地形改変による人工的なものである。今回の調査地でも、水田耕作土（厚さ20㎝内外）の直下が黄褐色粘質土層となり、著しく削られていた。３地点のうち、「可能性あり②」で溝跡３条（１～３号溝）、「可能性あり③」で同２条（４・５号溝）、合わせて５条の溝跡を検出した。１号溝と２号溝は西側がほぼ重複しており、東側で分岐して１号溝は北東、２号溝は東へとそれぞれ延びている。同時期の連結する溝とも思われたが、分岐点付近の埋土断面を見ると、不明瞭ではあるが時期差があり、２号溝が新しいものと判断される。３号溝は南北方向に延び、重複する溝は無い。４号溝は南端付近が緩く西へ曲がり、J字形を呈する。５号溝は東西方向へ直線的に延びている。いずれの溝からも遺物は出土しなかった。また、周辺からの遺物出土もなかった。

これらの溝跡については、出土遺物を欠き、形態や埋土の様相等を考えて合わせても時期判断の根拠が乏しい。周辺が地山面まで削平されており、層位的な面からの時期推定も困難な状況であり、所属時期不明と判断せざるを得ない。かつてのほ場整備前の水田にともなう水路跡である可能性も考えられる。これらのことから、これらの溝については、調査結果を踏まえ、積極的に遺構とは認定し難いと判断した。なお「可能性あり①」では遺構・遺物ともに確認されなかった。

可能性あり①

可能性あり②

可能性あり③

第14図　調査範囲

6　経営体育成基盤整備事業古城２期地区

古城林遺跡（LE47－1169）

所在地：奥州市前沢区古城　地内

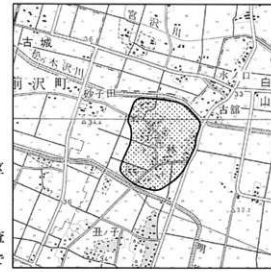
事業者：県南広域振興局農政部農村整備室

調査期日：平成23年11月1日(火)～2日(水)

平成24年2月29日(水)～3月1日(木)

古城林遺跡はＪＲ東北線陸中折居駅の南東約1.3㎞、北上川右岸の中位段丘面上に立地している。古城地区のほ場整備工事に係り実施したものである。

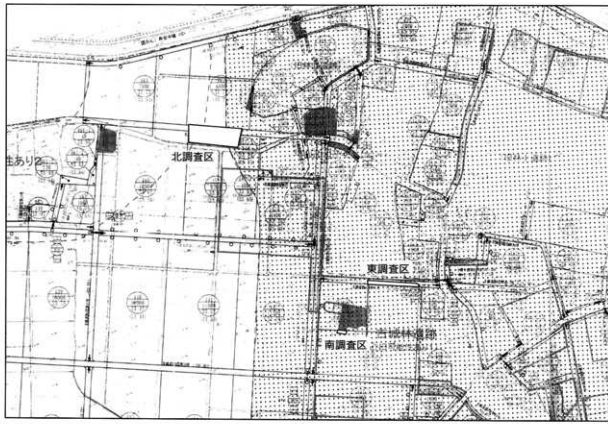
調査対象は、田区465南端部の水田面（北調査区）および田区443－1のリンゴ畑跡地の南端部分（南調査区）、および田区432南西縁辺隣接部分（東調査区）である。



第15図　古城林遺跡位置

北調査区は農道北側に隣接する現水田面である。精査の結果、田面はほぼ全面が削平されており、溝跡１条（１号溝）が検出されたのみであった。１号溝は削平されており、痕跡程度しか残存していない。確認したのが底面付近のみであるため、規模・形状等の詳細は不明で、時期も不明である。当調査区から出土した遺物はない。

南調査区はリンゴ畑として利用されていた微高地の南に張り出す先端部分である。この微高地面には、試掘調査において埋土に土師器片を含む柱穴群が確認されている。堆積土層は、Ⅰ層：耕作土（20～40㎝）、Ⅱ層：黄褐色土（層厚不明。地山）という層序となっており、北と同様に削平されて

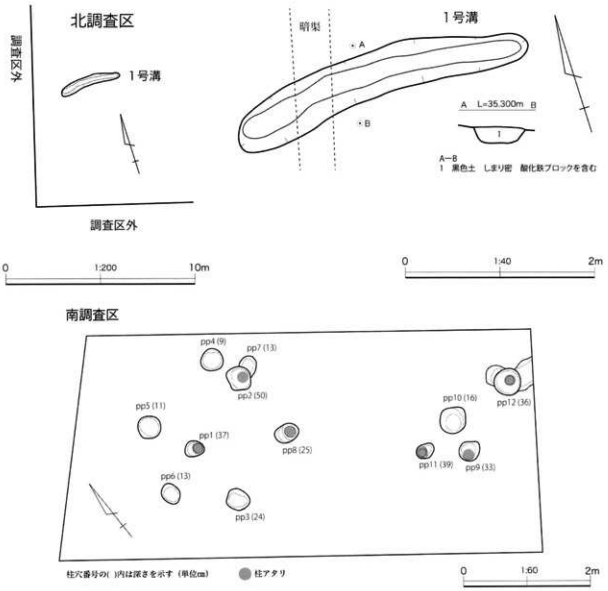


第16図　古城林遺跡調査区・遺構配置

いる。調査の結果、Ⅱ層上面で柱穴12個が検出された。柱穴群は西側で８個、東側で４個、それぞれまとまった形で検出されており何らかの建物を構成している可能性があるものの、調査範囲が狭小であるためその配置を明確に捉えることはできなかった。深さは9～50㎝とバラつきがある。柱痕はpp1・2・8・9・11・12の６個で見られたが、その他の柱穴では明確ではなかった。柱穴の埋土から土師器小片が数点出土しており、平安時代に属する可能性がある。

東調査区は現水田南辺の畔道部分で、農業用水パイプラインが設置予定であることから、その部分についてトレンチ調査を行って遺構・遺物の有無を確認した。結果、表土下で自然堆積と思われる暗褐色土が最大20㎝の厚みで確認されたが、同層から遺物は出土しなかった。地山面で遺構確認を行ったが、検出されなかった。

調査の結果、南調査区において平安時代のものと推測される柱穴群が確認された。遺構は北側隣接地部分に、より高密度に存在していると推測される（当該部分については平成24年度、県埋蔵文化財センターにより発掘調査実施済）。



第17図　古城林遺跡検出遺構

7　やさわの園整備事業

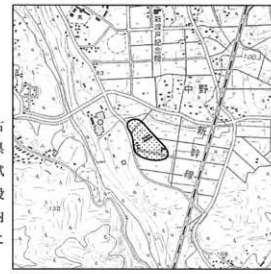
中野A遺跡（NF62－1157）

所在地：花巻市高松第７地割地内

事業者：岩手県保健福祉部障がい保健福祉課

調査期日：平成24年3月12日(月)～14日(水)

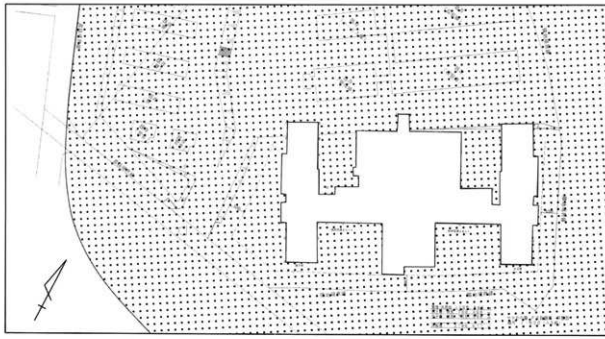
中野A遺跡は花巻市役所の西約3.9㎞、猿ヶ石川の右岸段丘上に立地している。今回の発掘調査は、岩手県立やさわの園施設改築に係り、22年10月に実施した試掘調査で埋蔵文化財が確認されたことから、建物建設部分について行ったものである。調査地は建物敷地内で運動場として利用されていた部分で、ごく緩やかに南へと傾斜している。



第18図　中野A遺跡位置

試掘調査で溝および土坑と推測されるプランが検出されている調査地南西側については、試掘時のトレンチT１を面的に広げて精査を行った。その結果、試掘調査で検出された溝跡は、幅70㎝で深さ30～50㎝に直掘りされており、小型のバックホウによる掘削痕と思われる。この溝は東西方向に直線的に続いており、また同様の溝が等間隔（約1.4m）で８条配置されている状況が確認された。溝はいずれも盛土層に被覆されており、造成前に掘られたものである。性格は不明であるが、耕作にともなう暗渠的なものとも考えられる。また土坑と推測されたものも、精査の結果、埋土に土器片が含まれるものの金属製品等も出土したことから、後世の攪乱と判断された。その他の調査範囲については、トレンチを設定して土層確認したところ、南辺部分を除いて削平されていることが確認された。南辺部分には自然堆積の黒色土層が残存していたが、遺物は含まれていなかった。地山面で遺構確認したが、検出されなかった。

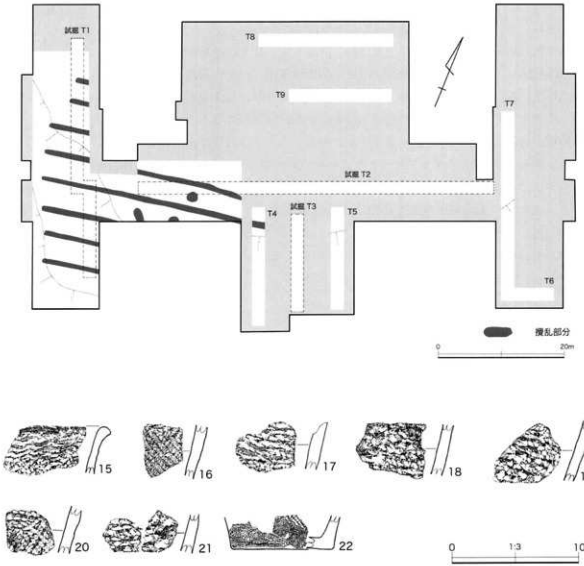
遺物は９号ビニール袋で１袋分の縄文土器破片が、主に調査地西側の攪乱部分の埋土から出土し



第19図　中野A遺跡調査区

た。土器はいずれも小破片であり詳細不明であるが、不整撚糸文が施された深鉢口縁部片が見られることから、縄文時代前期前葉に属するものの可能性がある。

今回の調査では予想よりも遺跡の遺存状態が悪く、遺構は確認されなかった。少量ではあるが縄文土器が出土していることからかつて遺構・遺物が存在していた可能性はあるが、過去の建物建設にともなう地形改変により遺構・遺物の大部分が既に失われたものと推測される。



第20図　中野Ａ遺跡調査区・出土遺物

8　稲瀬地区堤防質的整備事業

谷地遺跡（ME86－2137）

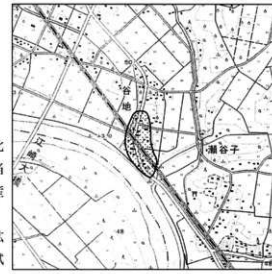
所在地：奥州市江刺区稲瀬字谷地地内

事業者：国土交通省東北地方整備局

岩手河川国道事務所

調査期日：平成23年1月11日(火)～2月1日(火)

谷地遺跡は奥州市役所の北方向約9.0kmに位置し、北上川左岸に形成された自然堤防上に立地している。当遺跡の東側の丘陵には、当地方の代表的な須恵器生産地である瀬谷子窯跡群が所在している。

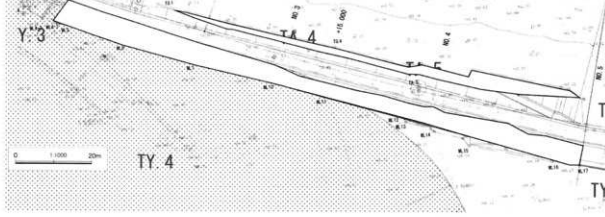


第21図　谷地遺跡位置

今回の工事は北上川築堤工事に伴うもので、堤防拡幅工事予定箇所が対象であり、平成22年に実施した試掘調査で埋蔵文化財が確認された範囲を対象とした。調査地の現況は、主に宅地・水田・畑地である。なお諸般の事情により調査を冬季に実施せざるを得ず、かつ調査期間を通じて天候が悪く断続的に降雪が続き、厳しい条件下での発掘調査だったことは否めなかった。

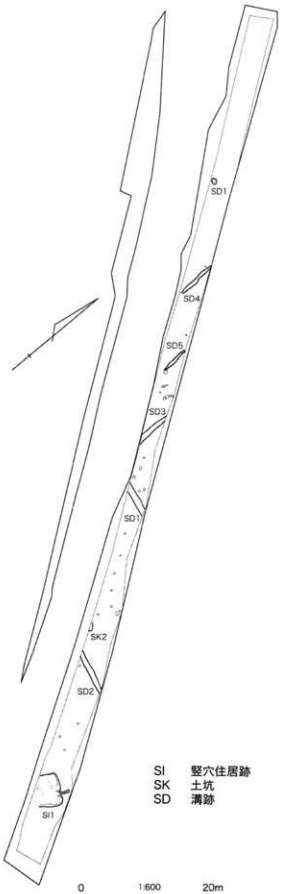
遺構：古代の竪穴住居跡１棟、土坑２基、溝跡５条、柱穴状土坑が検出された。

竪穴住居跡（１号住居跡）は調査区南東端付近で検出された。南西部分が調査区外に延びるため、全体の形状は確認できなかったが、約５m四方の隅丸方形を呈するものと推測される。住居の主軸は北東－南西をとり、北東壁のやや南寄りにカマドが設けられている。カマド側壁は確認できなかったが、側壁が想定される部分で礫が確認され、カマド内および周辺で土師器甕の破片が多数出土した状況から、礫や土師器片をカマド芯材としていたと推測される。ただし土師器片はまとまって出土したという訳ではなく、散在する形だったことから、住居廃絶の際にカマドが破壊された可能性が窺われる。またカマド燃焼部奥側で小型の土師器甕が伏せた形で出土しており、カマド支脚に転用されていたものと思われる。煙道は、カマドから僅かに北側へ弧を描きながら北東へと延びている。煙道の長さは約１mである。北東および南東の壁は床面から緩やかに外傾し、北西壁は床面から急

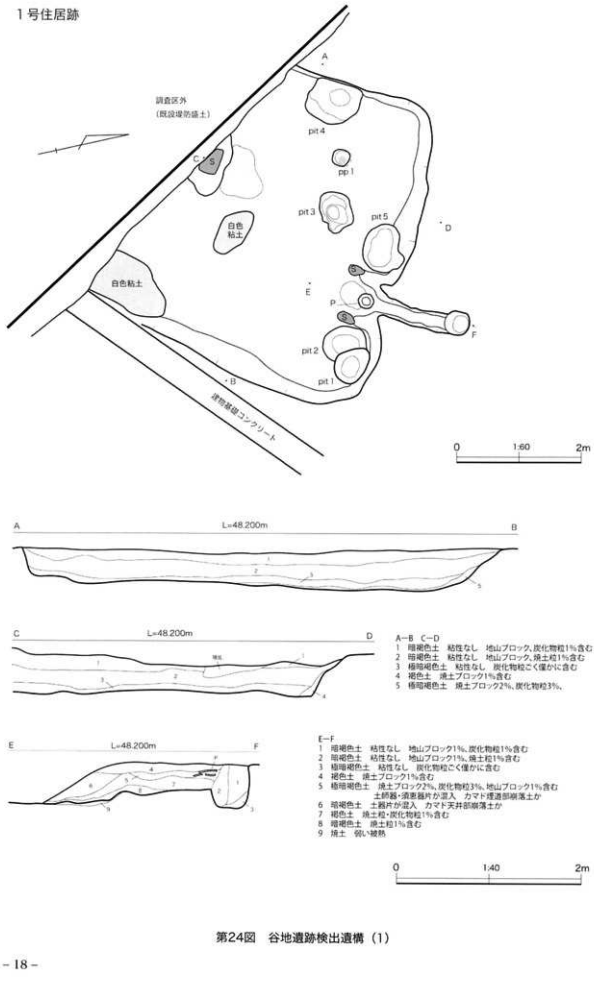


第22図　谷地遺跡調査区

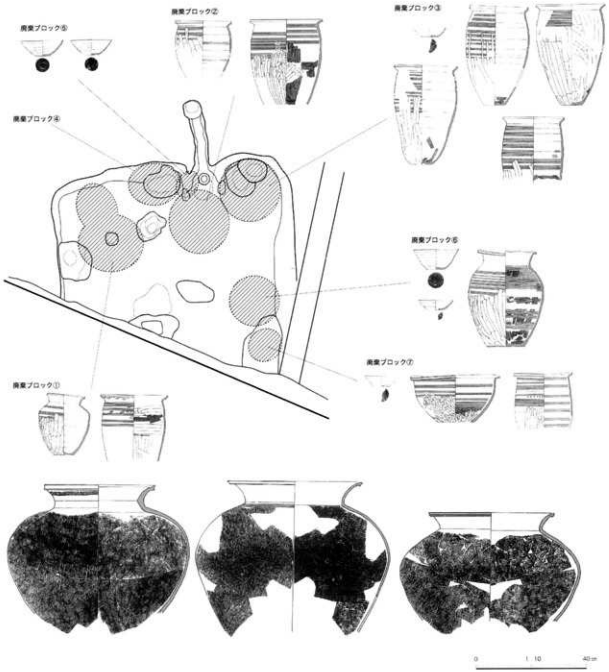
角度で立ち上がり直立ぎみになっている。床面は踏みしめにより締り、貼床はなされていない。床面では土坑５基（pit １～５）、柱穴１個（pp １）が検出された。土坑の埋土から多量の遺物が出土した。柱穴は１個で、組み合う柱穴は確認できなかった。当住居の埋土は暗褐色土を主体とし、埋土上位（１・２層）には黄褐色の地山ブロック、壁際（４・５層）では焼土ブロック・炭化物が少量含まれる。埋土中からは多量の遺物が出土しており、その総量は40ℓコンテナ３箱分である。出土遺物の大部分を平安時代の土師器・須恵器が占めており、埋土下位から床面直上で完形・準完形の須恵器が出土したことは特筆される。土師器・須恵器の出土集中箇所は、概ね７ブロックに分かれている（第25図）。カマド周辺の廃棄ブロック②～⑤では、須恵器坏・甕が出土している出土位置がカマドやカマド脇の貯蔵穴（pit １・２・５）付近であることから、それらについては当住居にともなうものが含まれると考えられる。一方、pit ３・４周辺の床面北寄りにあたる廃棄ブロック①では須恵器大甕が複数個体まとまって出土し、ブロック⑥・⑦ではほぼ完形の須恵器坏・壺・鉢等が出土した。これらの須恵器は本来当住居にともなうものというよりも、住居廃絶後の埋没過程で混入したものと解される。出土した須恵器は、完形のものであっても器形に歪みをもつ個体や器表面に亀裂ある個体が見られる。当然、多数の須恵器が自然に混入した訳はなく、これらの須恵器は人為的に投棄されたと推測される。このことは、当遺跡に近接する瀬谷子窯跡群との関連性を示唆している。なお、床面中央部および南東壁西側で外部から持ち込まれたと思われる白色粘土塊が確認されており、当住居が土器づくり工房的な施設だった可能性もあるが、調査範囲内の床面ではロクロ設置痕（いわゆるロクロピット）は確認できなかった。当住居の埋土からの出土遺物は、土師器（23～59）・須恵器（60～95）、石鏃（96）、土製品（97～99）、石製品（102）、刀子（103）がある。このうち、石鏃は時代が異なり、埋没過程で混入したものと思われる。床面直上で出土した多



第23図　谷地遺跡遺構配置



第24図　谷地遺跡検出遺構（1）



第25図　谷地遺跡検出遺構（2）

量の土師器・須恵器の特徴から、住居の廃絶時期は概ね９世紀前半と推測される。

溝跡は５条検出された（１～５号溝）。そのうち、１号溝と３号溝は開口部幅0.9～１m、深さ50cm、断面形が逆台形を呈しており、規模及び形状が似通っている。この溝２条は直交する形で位置しており、L字形に屈曲する同一の溝跡である可能性が高いと推測される。この溝の区画内には大径の柱穴が見られる。埋土からは石器が出土しているが、埋没時の混入と思われる。２条ともに所属時期は不明であるが、中世～近世の環濠屋敷の堀跡である可能性が考えられる。２・４号溝は断面形U字形で深さ20～30cmを測り、５号溝は痕跡程度のごく浅い溝である。これら３条も前述の１・３号溝とほぼ並行ないし直交する軸方向をとっており、それらと関連する溝と思われる。

土坑は２基検出された。１号土坑は調査区北西側で検出された皿状の土坑で、底面で馬の歯と思われる獣骨が出土した。墓壙と推測されるが、時期不明である。２号土坑は平面形が楕円形基調で深さ50cm程の土坑であるが、西側が調査区外にあるため詳細不明である。また、５号溝以南で柱穴30個を検出したが、建物として把握できたものはない。

なお、既設堤防の北上川側についても工事範囲に含まれるため、表土を除去し精査を行った。南東から中央部では表土下で黄褐色土の地山となり、遺構は確認されなかった。一方、北西側では、堤防東側と同様、地山が落込んで洪水堆積層と推測される砂質土層により被覆されており、砂質土層中から弥生土器が疎らに出土している。

遺物：土器（弥生土器・土師器・須恵器）、石器、土製品、石製品、鉄製品が出土している。主体は１号住居跡の埋土から出土した須恵器で、その多くは前述のとおり投棄されたものと捉えられる。なお、出土した土師器・須恵器には、土師器なのか、焼成が不充分で未還元の須恵器なのか判然としないものが多かった。それらについては器形や調整技法等からそれらを焼成不良の須恵器と判断し、便宜的に須恵器として扱うこととしたが、その結果として土師器に分類されたものは甕の一部のみの少数に止まった。

土師器は２点図化した（23・24）。１号住居跡のカマドおよび煙道部から出土した小型の甕で、ロクロ成形されており、底部切り離しは回転糸切、無調整である。口縁部は短く外反し、口唇部付近で「く」字形に屈曲・内湾している。

須恵器（25～82）には、坏・鉢・壺・甕・蓋があり、いずれも１号住居跡から出土したものである。胎土にはφ3～4mm程の小石が混じっている。坏（25～53）は、底部から直線的に立ち上がるものが多く、口縁部には殆ど屈曲は見られない。底部切り離しは回転糸切で無調整である。ヘラ切りのものは見られない。器形に歪みを生じているもの（29・34・39・48）、器表面に亀裂や凹みが生じているもの（30・38・46・52）、焼成不良で十分に還元されていないもの（25・26・31・32・36・37・40～42・44・45・47・53）が見られる。口径は12～18cm、14～15cmのものが主である。底径は5～6cmが殆どであるが、7cm以上のものが少数ある。器高は3cm以下のものや7cmを超えるものがあってばらつきある。平均は概ね5cmである。全体の器形をみると、やや底径が小さい印象を受けるものが目立つ。鉢は２点ある（54・55）。54は、ほぼ完形の個体でpit ２埋土から出土した。体部下半の器表面には焼成時に生じたと思われる亀裂が見られる。55は煙道部で出土した。口縁部に著しい歪みを生じている。ともに体部はカキメ、後にケズリ調整されている。口縁部はともに短く外反した後、内湾して突帯状となる。壺（56～60）は、全体の器形を把握できる４点（56～59）は短頸壺である。いずれも器形に歪みが生じており、特に56は口縁が著しく歪んでいる。57は焼成不良で、器表面の半分が還元されていない。体部外面はカキメ、ヘラケズリ調整されている。60は底部のみで明確ではないが、底部に高台が付いて上げ底となっており、長頸壺と思われる。底部には運弁状の

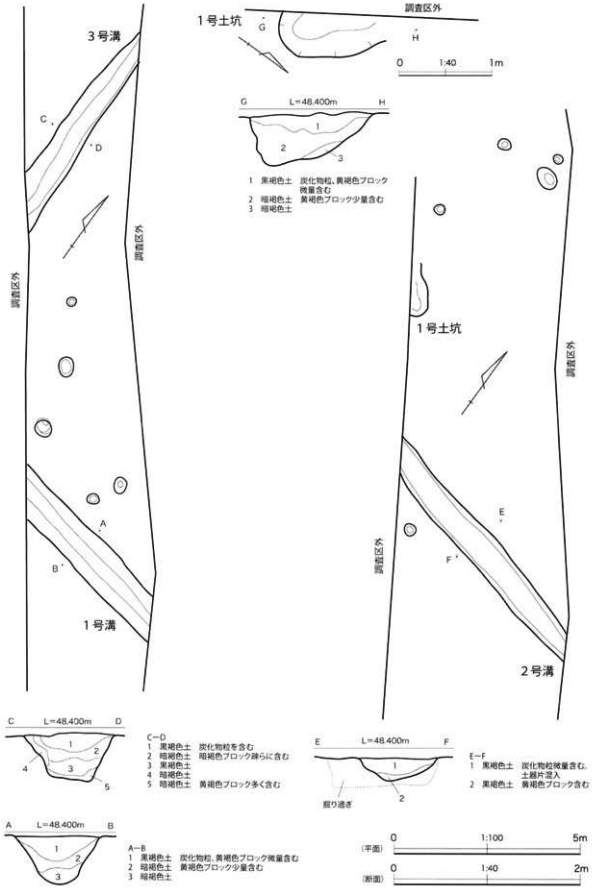
再調整痕が見られる。蓋（81）は1点のみで、頂部に把手状の突起が付く。1/2程度しか復元できなかったため全体の形状は不明であるが、著しい歪みを生じている。甕（89～95）は口縁部が短くかつ強く屈曲するもので、口唇部が突帯状となっている。器表面が白っぽく、質感もやや軟質な印象を受けるものばかりである。前述のとおり土師器とすべきか迷ったが、器面調整はカキメ、ヘラケズリであり、須恵器的なものと考えたものである。大甕（79～82）は、胴部破片の82を除く3点が1号住居跡の廃棄ブロック①で出土した。体部は内外面タタキメが見られ、85・87の内面上部の当て具痕は青海波文である。口縁部は肥厚して強く外反し、口唇部が突帯状となる。これらの須恵器の年代については、坏の底径がやや小さいものが多いことから、9世紀前半代にあたるものと推測される。

弥生土器（96～99）は、調査地北側の砂質土（洪水堆積層）から疎らに出土している。96・97の浅鉢口縁部には、重畳する変形工字文が施される。96は波状口縁で、波頂部は二又となる。欠損により定かではないが、波頂部は5単位と推測される。弥生時代前期に位置付けられるものと思われる。当遺跡が所在する奥州市江刺区の北側に隣接する北上市では、北上川沿いの自然堤防上に縄文時代晩期～弥生時代前期の遺跡が所在していることが知られており、金附遺跡や千苅遺跡・中村遺跡等で該期土器が出土している。今回調査では遺構は確認されなかったが、当遺跡の周辺にも縄文時代晩期末から弥生時代の集落跡が所在している可能性が高いと思われる。

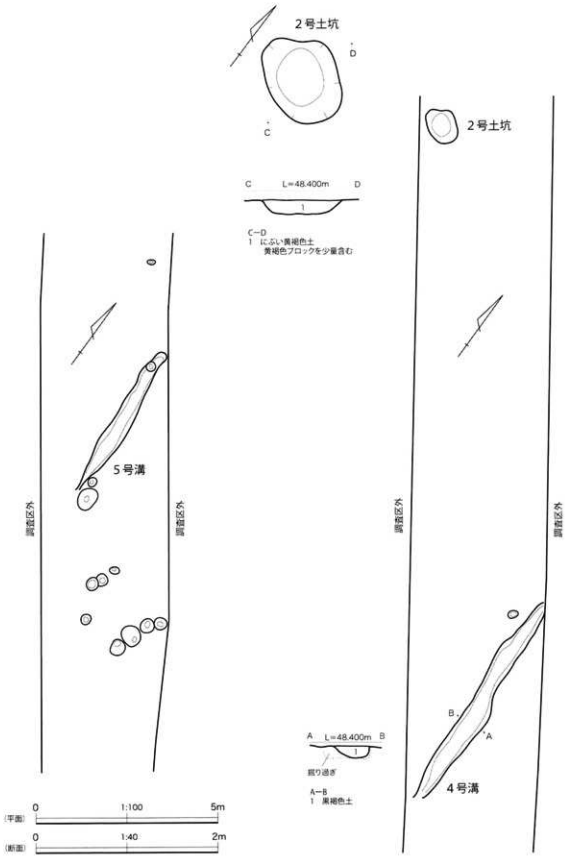
石器は、石鏃（83・94）、削器（93）、石斧（91）、敲磨器（92・95）である。石鏃のうち、96は基部両側に抉りが入るいわゆる「アメリカ式石鏃」であり、弥生時代に特有の石器である。91は磨製石斧の未成品と思われる。製作工程で欠損したものか。これらの石器の所属時期については、96を除いて判然としないが、出土土器を考慮すれば弥生時代に属するものと推測される。

土製品は3点出土した。84は管状の土製品で、土錘である。85・86は土鈴状の土製品で、手づくねで雑に整形されているが、用途不明である。87・88は用途不明の焼成粘土塊である。また石製品102は、垂飾と思われる板状石製品である。長軸の一端に貫通孔1個が穿たれている。鉄製品は刀子（90）のみである。土製品・石製品ともに1号住居跡の埋土から出土しており、平安時代に属する可能性がある。

調査の結果、当遺跡は平安時代（9世紀前半代）の集落跡かつ弥生時代の遺物散布地であることが判明した。1号住居跡において多量に出土した須恵器は、瀬谷子窯跡群から供給されたものと推測され、当遺跡が窯跡群に関連する遺跡であることを示唆している。今回調査は既設堤防沿いの狭い範囲に限られたものであり、今回の調査成果では不明な点も多く、断定できないところではあるが、出土した須恵器の多くに歪みや亀裂等が見られることから、瀬谷子窯で生産され出荷の際に除外された瑕疵ある個体だったとも考えられる。

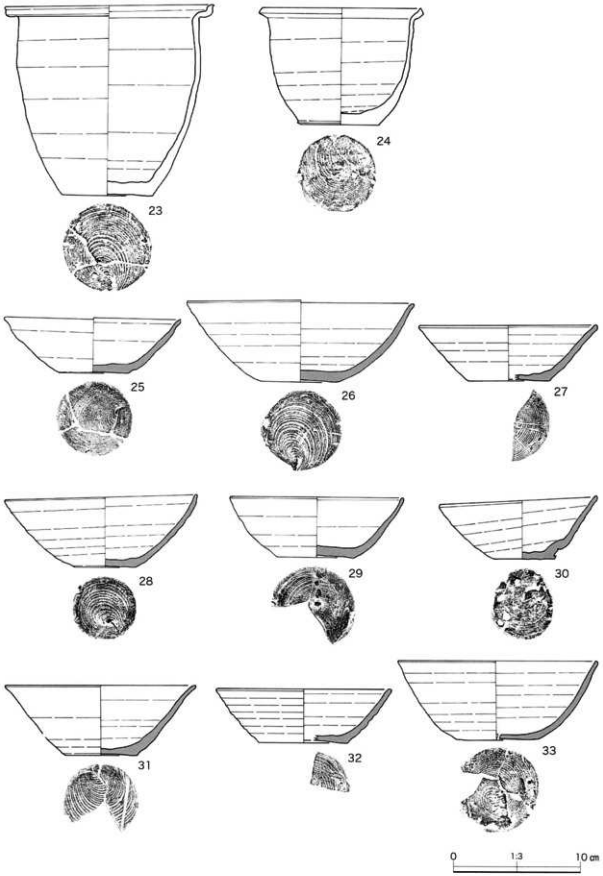


第26図　谷地遺跡検出遺構（3）

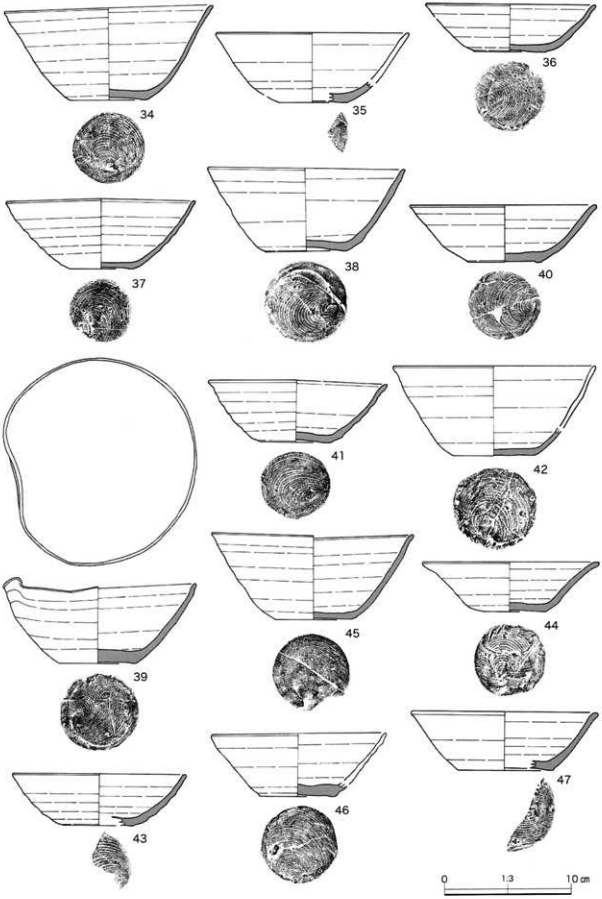


第27図　谷地遺跡検出遺構（4）

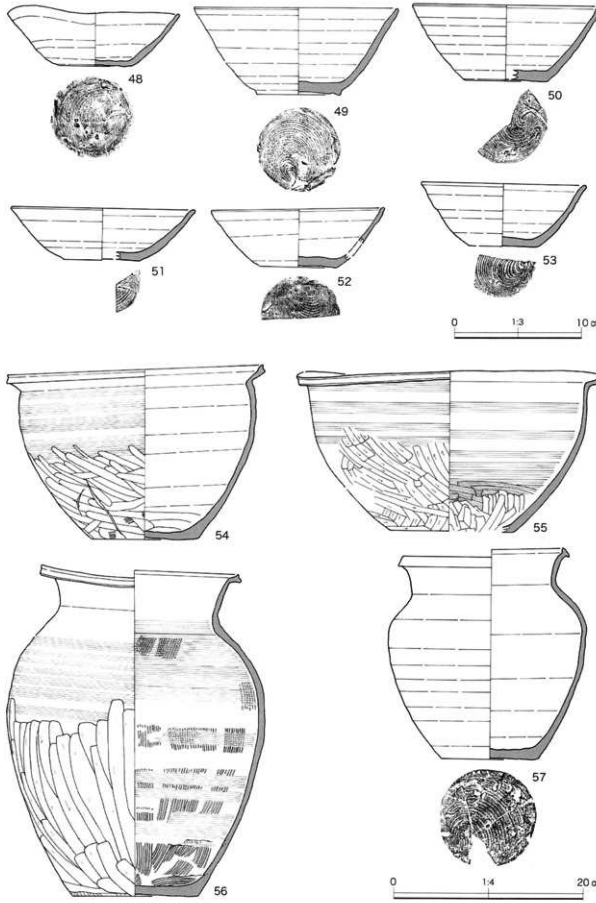
1号住居跡



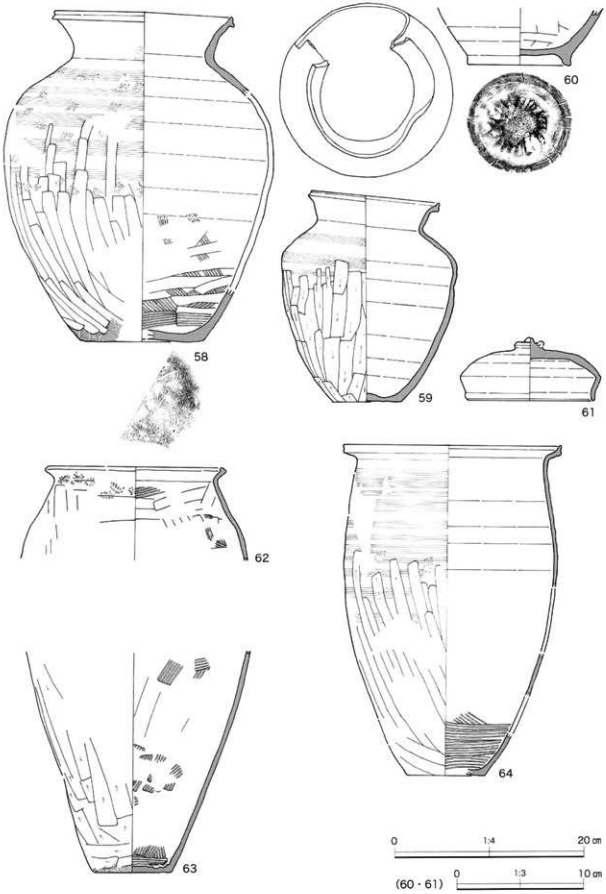
第28図　谷地遺跡出土遺物（1）



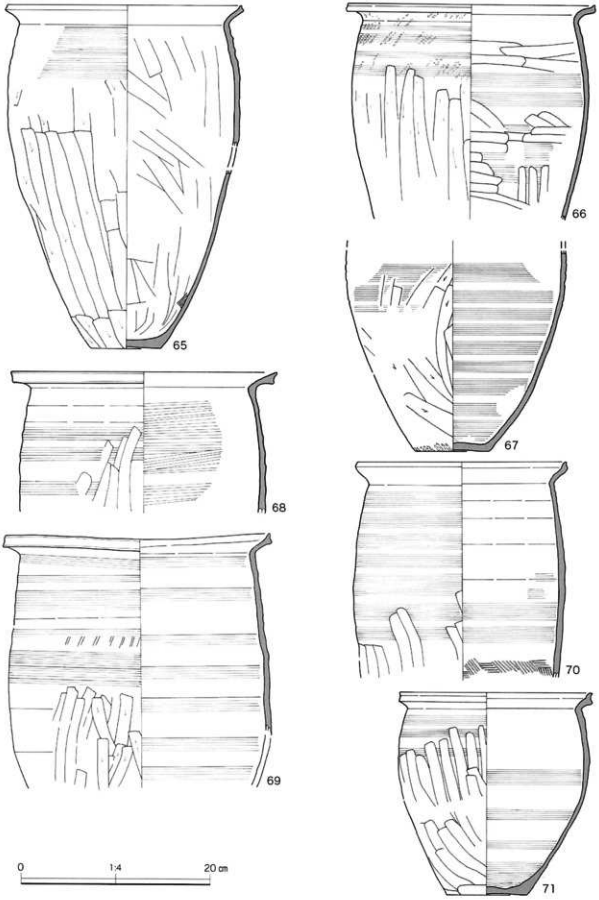
第29図　谷地遺跡出土遺物（2）



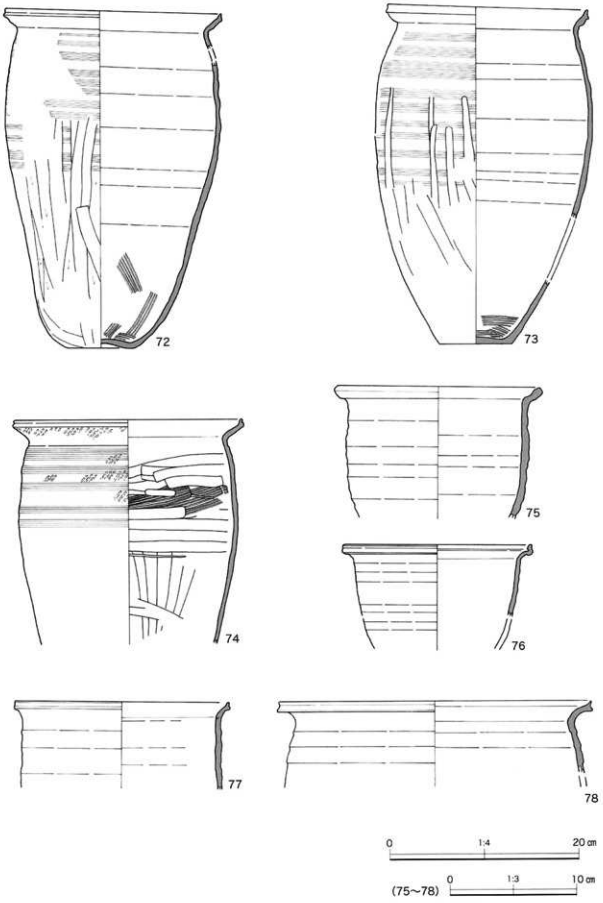
第30図　谷地遺跡出土遺物（3）



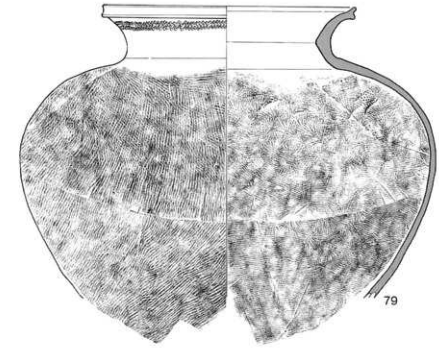
第31図　谷地遺跡出土遺物（4）

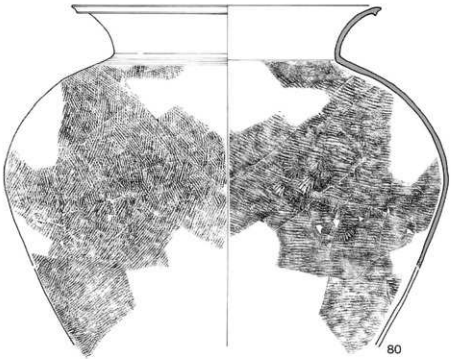


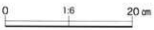
第32図　谷地遺跡出土遺物（5）



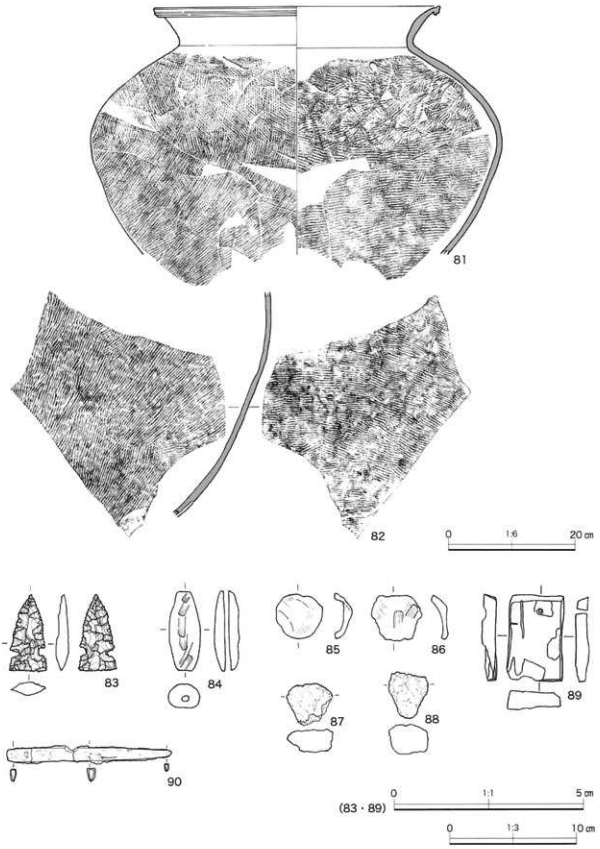
第33図　谷地遺跡出土遺物（6）



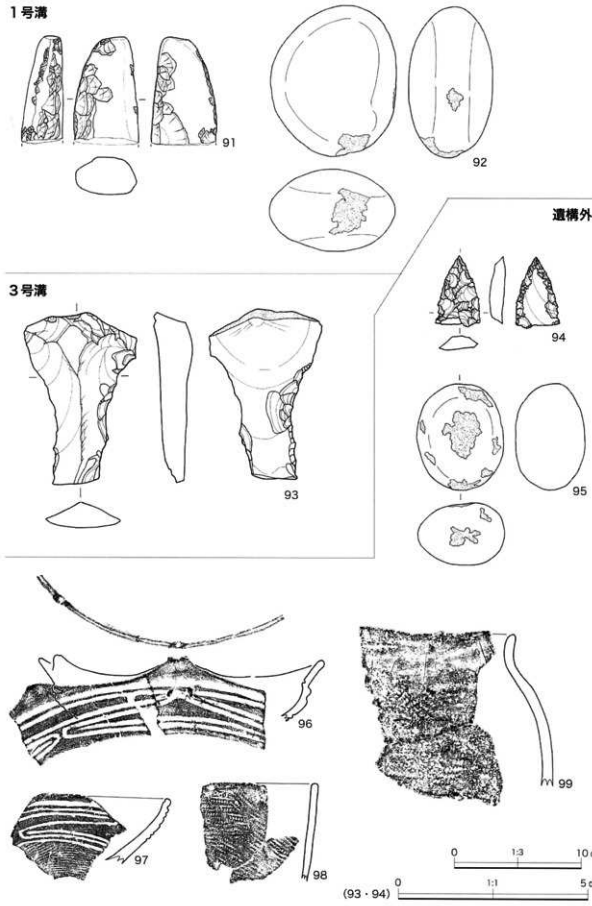




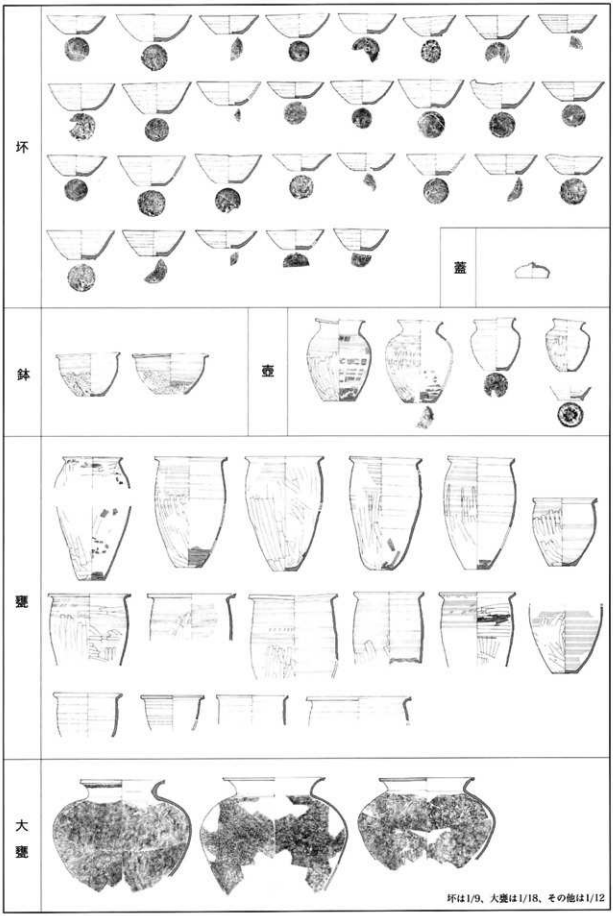
第34図　谷地遺跡出土遺物（7）



第35図　谷地遺跡出土遺物（8）



第36図　谷地遺跡出土遺物（9）



第37図　谷地遺跡1号住居跡出土須恵器集成

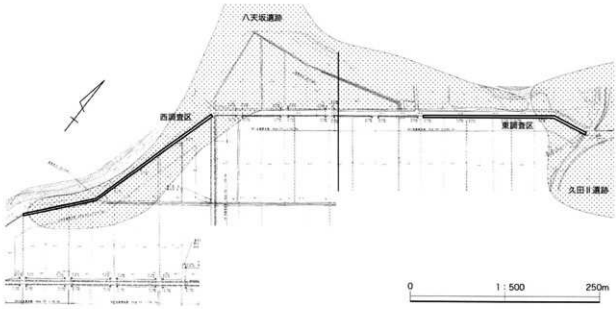
9　経営体育成基盤整備事業和賀中部第４地区
八天坂遺跡（ME74－0252）
久田Ⅱ遺跡（ME74－0207）
所在地：北上市和賀町岩崎久田地内
事業者：県南広域振興局農政部
北上農村整備センター
調査期日：平成23年2月7日(月)～2月18日(金)
平成23年2月28日(月)～3月3日(木)

第38図　八天坂遺跡・久田Ⅱ遺跡位置

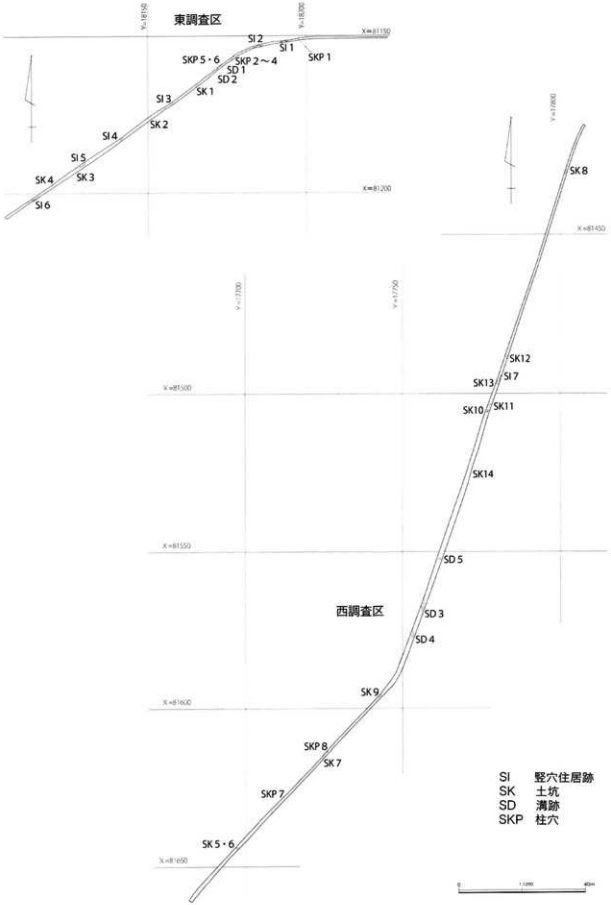
八天坂遺跡と久田Ⅱ遺跡は、北上市役所の西南西約6.6kmに位置し、台地の縁辺部に立地している。今回の調査はパイプライン敷設工事に伴うもので、工事予定範囲のうち試掘調査で埋蔵文化財が確認された区域を対象とした。なお調査地は１号土坑付近を境として久田Ⅱ遺跡と八天坂遺跡に分かれるが、検出された遺構・遺物の年代が共通しており、調査区が幅狭い線的なものであることから、一括して報告する。

調査の結果、古代の竪穴住居跡７棟、土坑14基、溝跡５条、柱穴８個が検出された。

竪穴住居跡は東調査区で６棟（１～６号住居跡）、西調査区で１棟（７号住居跡）が検出された。平安時代に属するものと思われる。調査区の堆積土層は、上部に0.6～２mの盛土（Ⅰ層）が載り、その下位に黒～黒褐色の自然堆積層（Ⅱ層）が見られるが、部分的である。Ⅲ層が黄褐色粘土の地山層となる。遺構はⅡ層面から掘り込まれていると推測されるが、同層では面的な把握が難しく、断面でも掘り込みが判然としない。結果的にⅢ層面で遺構検出している。調査区が幅狭い線状であるため、いずれも全体は把握できず、規模の詳細は不明である。１・２号住居跡は東調査区の東側、久田Ⅱ遺跡の範囲に含まれている。２棟ともに北東－南西の主軸をとるものと推測され、北東壁に設置されたカマドが部分的に確認されている。いずれもカマドの北側袖（側壁）の芯材と思われる礫が検出されているが、大部分が調査区外にあり詳細は不明である。１号住居跡の床面には土坑状の掘り込み



第39図　八天坂遺跡・久田Ⅱ遺跡調査区



第40図　八天坂遺跡・久田Ⅱ遺跡　遺構配置図（1）

が複数見られる。主柱穴と思われるものは確認できなかった。カマド付近から土師器片が多量に出土している。2号住居跡でも同様に、カマド北脇で掘り込み1箇所が確認された。これらの掘り込みは、柱穴というよりも土坑的な様相を示しており、貯蔵穴の可能性がある。3～6号住居跡は東調査区の中央から西側に位置する。八天坂遺跡の範囲に含まれる。3号住居跡は北東－南西の主軸をとると思われ、試掘調査時のトレンチにより北東壁を喪失している。規模は不明であるが、床面の状態から一辺4m程度の方形を呈すると推測される。床面では土坑状の掘り込み4箇所が確認された。カマドは検出されなかった。4号住居跡も、北東壁際には小土坑が3基検出されている。南西壁が確認できず、詳細な規模は不明である。5号住居跡は南西隅付近を検出した。壁際に皿状の掘り込み1基、南西隅に柱穴状の小土坑1個が検出されている。6号住居跡は住居南壁を確認し、カマドの火床部と煙道の一部を検出した。カマド火床部は被熱により赤変して焼土化している。両側壁部分には芯材と思われる礫が見られる。7号住居跡はごく一部分を検出したのみで、詳細不明である。6号住居跡を除く5棟では、床面に貼床（厚さ5～20cm）がなされている。住居跡の埋土からは、土師器の坏・甕、須恵器の坏・大甕が出土している。そのうち6号住居跡では、ロクロ不使用の坏（132）が出土している。ただ、同住居跡からはロクロ使用の甕（133）も出土しているため、住居の時期判断については検討を要する。また3・7号住居跡は時期判断できる遺物を欠くため、所属時期は不明である。その他の4棟については、出土土器の特徴からみて、概ね9世紀後半期に属すると推測される。

土坑は、東調査区で4基（1～4号土坑）、西調査区で10基（5～14号土坑）が検出された。土坑はその形態から、①底部付近が膨らむ袋状のもの、②円筒形のもの、③底部に向かって逆円錐形に窄まるもの、④その他のもの、に分類可能である。①は9・11・13号土坑、②は2・3・7・号土坑、③は8号土坑が該当する。①についてはいわゆるフラスコピットに相当し、貯蔵穴であると思われる。今回は埋土や底面で遺物は確認されなかった。類例から縄文時代のものと推測される。②・③については時期特定ができないが、縄文時代～古代に比定されると思われる。④については、1・4・10号土坑から土師器・須恵器の坏が出土しており、遺構所属時期は平安時代（9世紀前半期）と推測される。1・2号土坑は形態が異なるものの、ともに埋土に多量の焼土が混入しており、土器焼成遺構だった可能性がある。また、14号土坑は径3m程の楕円形基調の土坑で、西側が浅く段差をなし、東側は深さ1m程と深い。羽口の破片（142）が出土しており、製鉄関連遺構の可能性がある。

溝は、東調査区で2条（1・2号溝）、西調査区で3条（3～5号溝）を検出した。1・2号溝は、1.3mの間隔をもって北西－南東方向に並行して延びており、ともに断面形が箱形を呈している。幅・深さに違いはあるが、方向や形状の相似から、関連する溝と推測される。3・4号溝も北東－南西のほぼ同方向に延びる溝で、規模が似通っている。幅40～60cm、深さ15～25cmである。これらの溝からの出土遺物はないため、時期は特定できない。柱穴は疎らで、調査区の狭さもあって、その性格は明らかではない。

出土遺物は土器類（土師器・須恵器）、土製品、石製品、鉄製品があり、主体は土師器である。

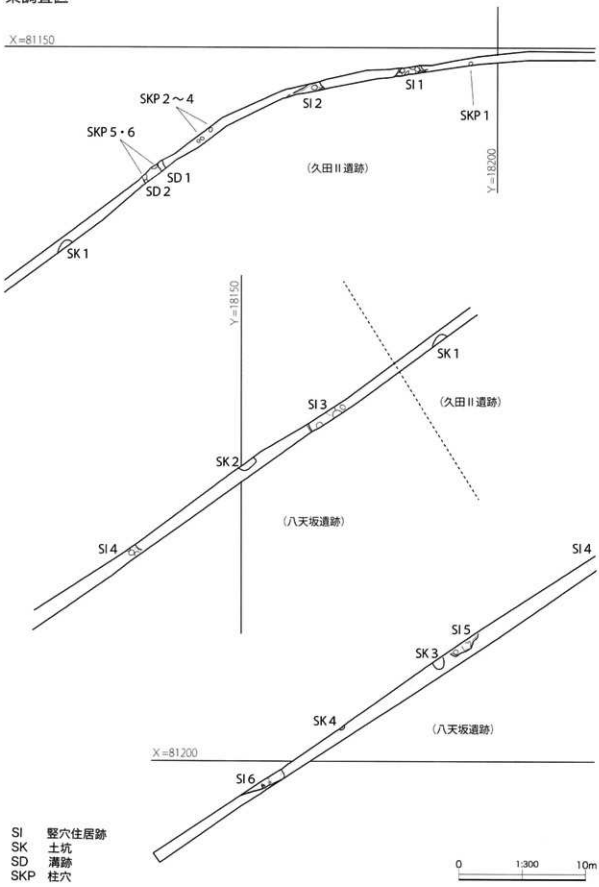
土師器の坏（100～107・120・122・123・127・128・132・135～138・140）は、回転糸切・無調整、内面調整はロクロ痕のみで黒色処理されないものが多い。ロクロ使用の坏は、口径13～15cm、底径4～6cm、器高3.5～5.5cmである。甕は口縁が短く外反し、口唇部で「く」字に屈曲するものが多い。108・109はロクロ成形された小型のものである。130・131は鍔付の甕で、いわゆる「羽釜」である（同一個体か）。須恵器は個体数が少なく、坏（139・141）、鉢（121）、大甕（125）がある。

土製品は１点のみで、前述の14号土坑出土のフイゴの羽口（142）である。石製品は４号住居跡出土の砥石（126）、鉄製品は１号住居跡出土の刀子（118・119）がある。

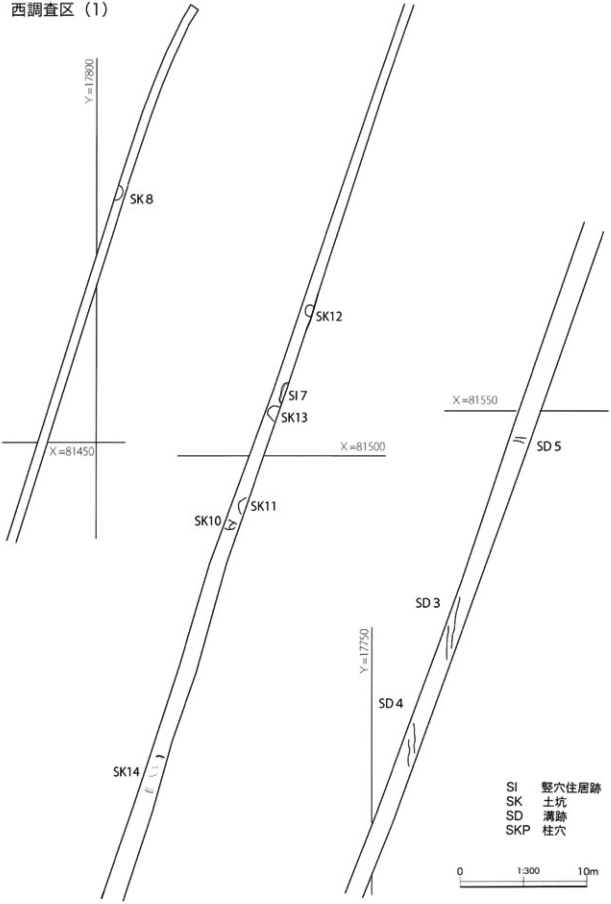
出土遺物のうち、土師器はいわゆる「あかやき土器」・「須恵系土器」と呼称されるものに相当するものと思われる。坏は器高が低く、底径が大きいものが主で、須恵器がごく少ないことから考えて、各遺構において時間差があるとは思われるが、土器の所属時期は概ね９世紀後半代に比定されるものであろう。なお、前述の132の坏については古い様相を示しており、共伴土器からみて混入の可能性を考慮するべきかもしれない。

以上、今回の調査区については、平安時代（９世紀後半代）の集落跡および縄文時代の狩場跡であり、とりわけ平安時代の集落跡は二つの遺跡に亘って連続していることが確認された。調査区が狭隘なことから不明確ではあるが、概ね東側の久田Ⅱ遺跡側には竪穴住居、西側の八天坂遺跡側は土坑・溝が分布している傾向が認められる。

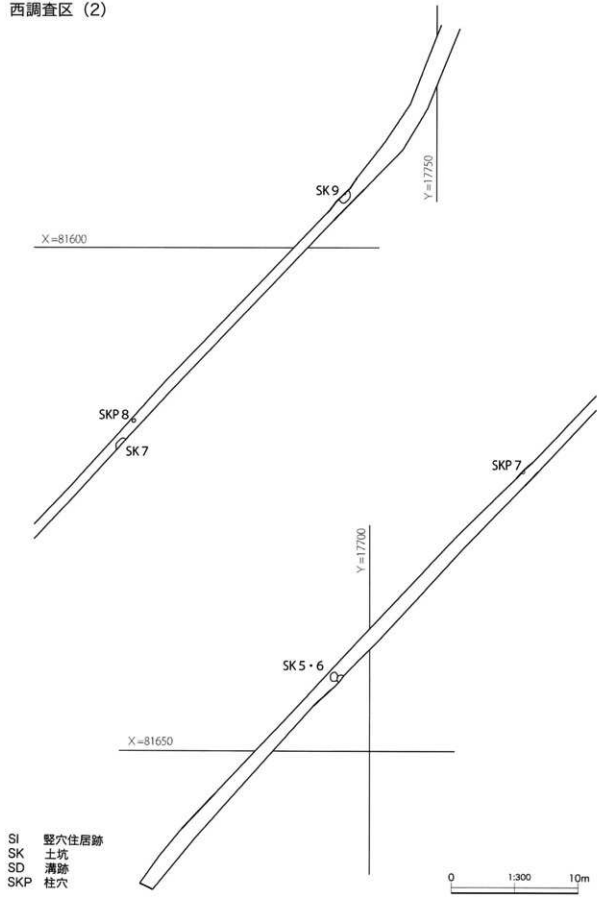
東調査区



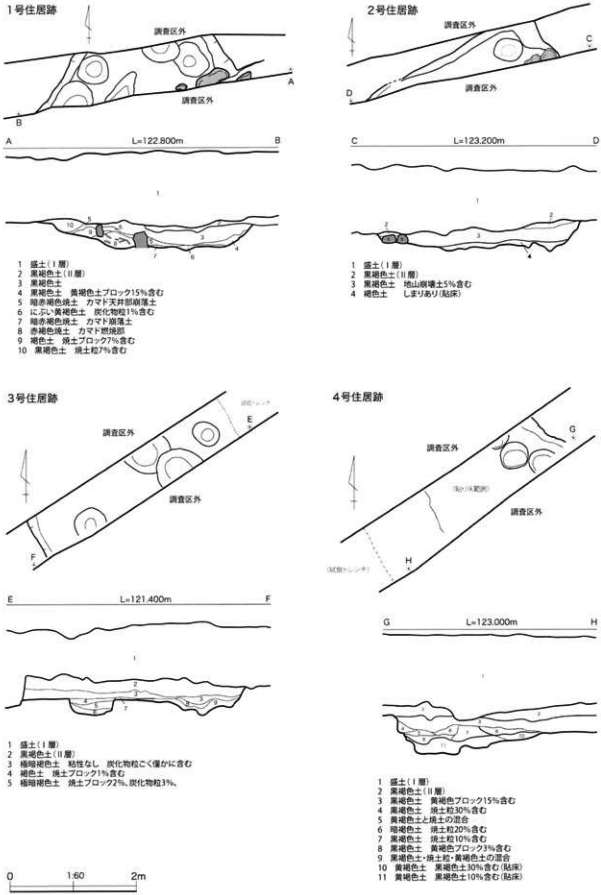
第41図　八天坂遺跡・久田II遺跡　遺構配置図（2）東調査区



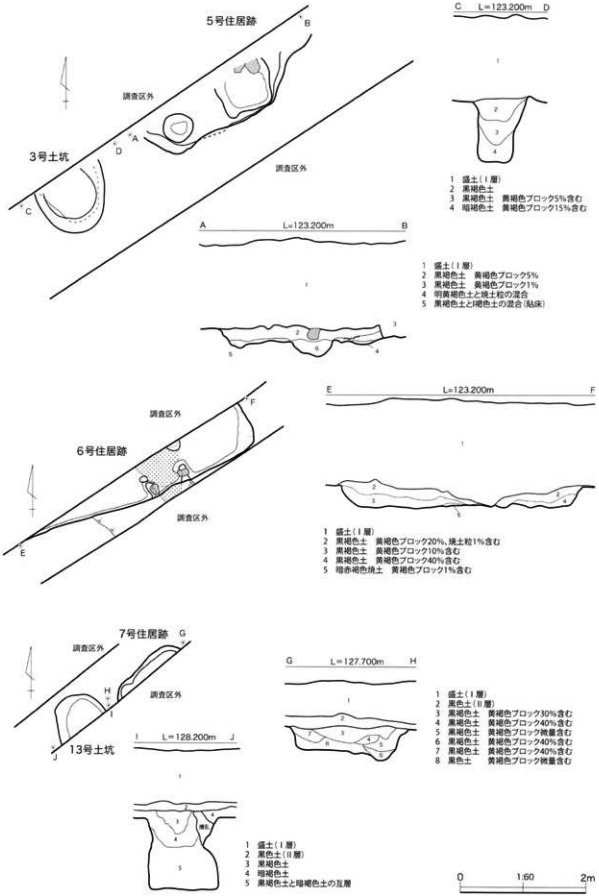
第42図　八天坂遺跡・久田Ⅱ遺跡　遺構配置図（3）西調査区



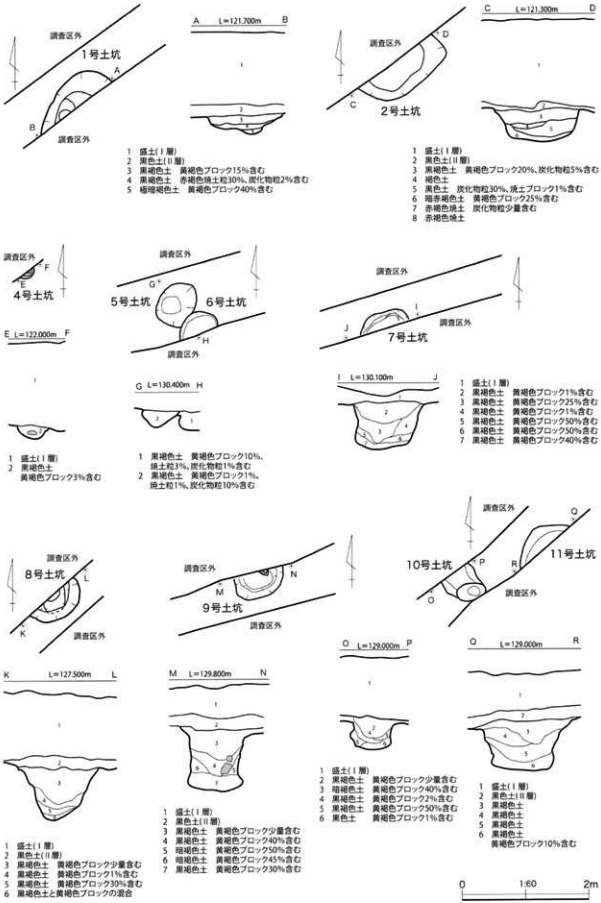
第43図　八天坂遺跡・久田Ⅱ遺跡　遺構配置図（4）西調査区



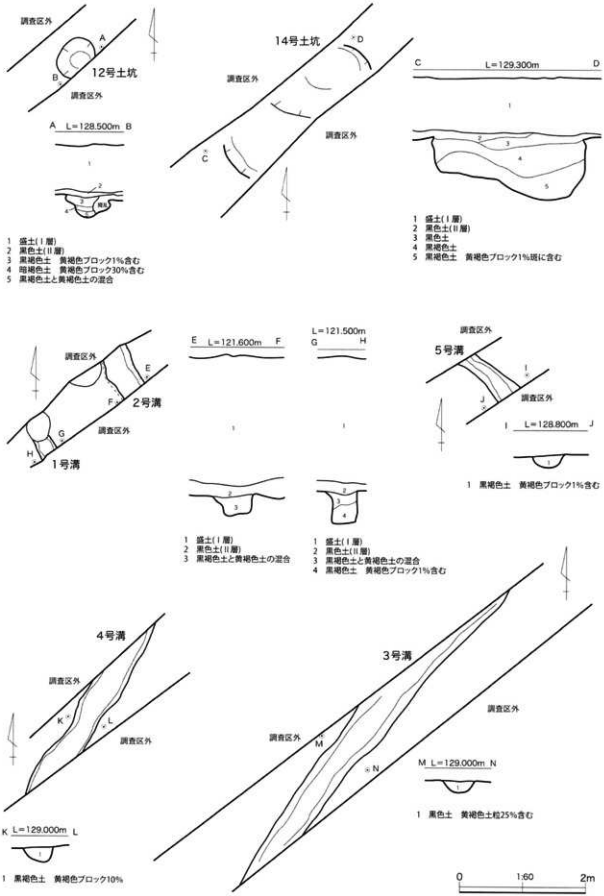
第44図　八天坂遺跡・久田Ⅱ遺跡検出遺構（1）



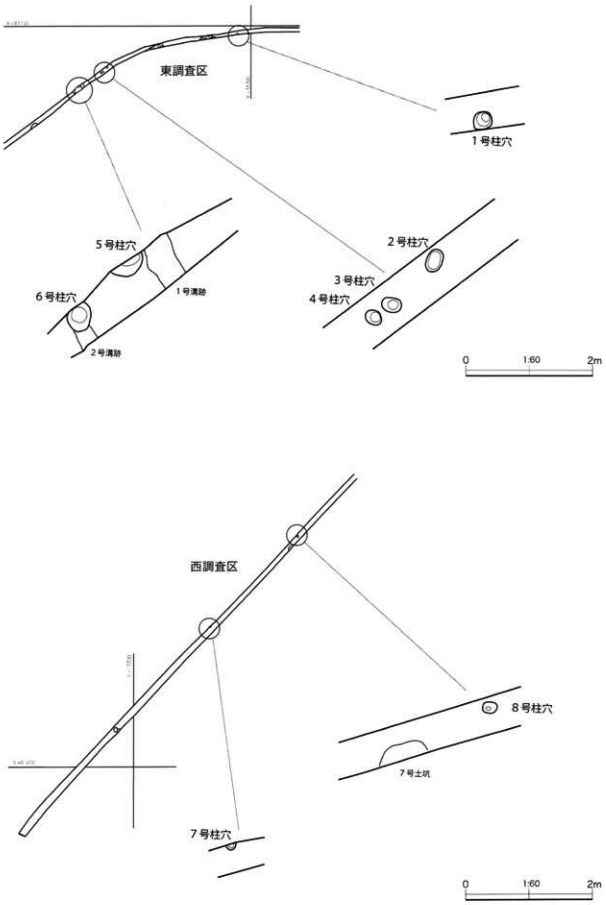
第45図　八天坂遺跡・久田II遺跡検出遺構（2）



第46図　八天坂遺跡・久田Ⅱ遺跡検出遺構（3）

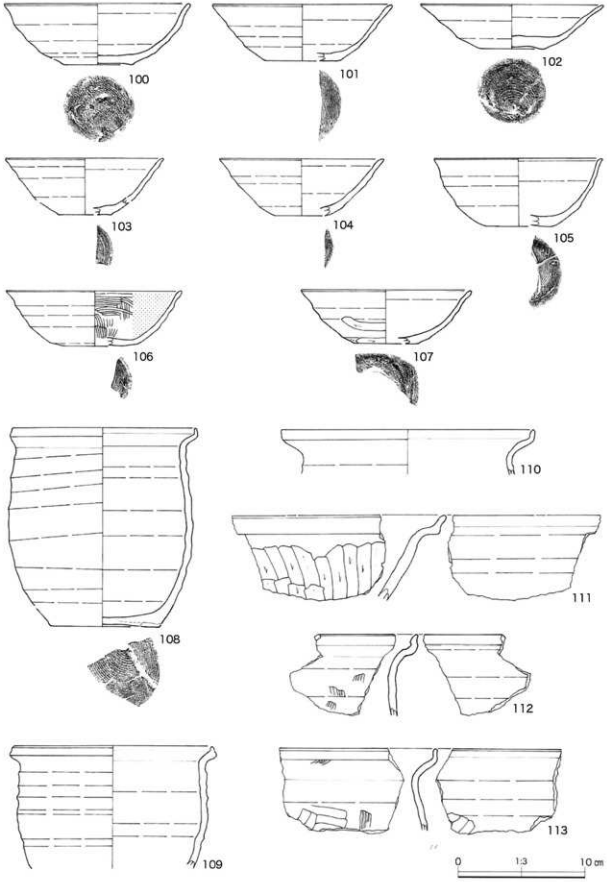


第47図 八天坂遺跡・久田II遺跡検出遺構 (4)

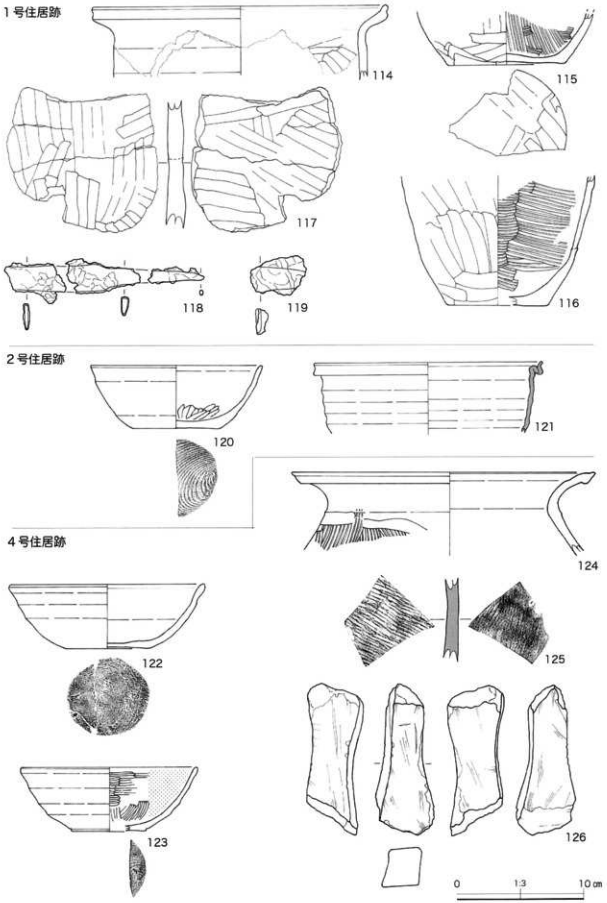


第48図　八天坂遺跡・久田Ⅱ遺跡検出遺構（5）

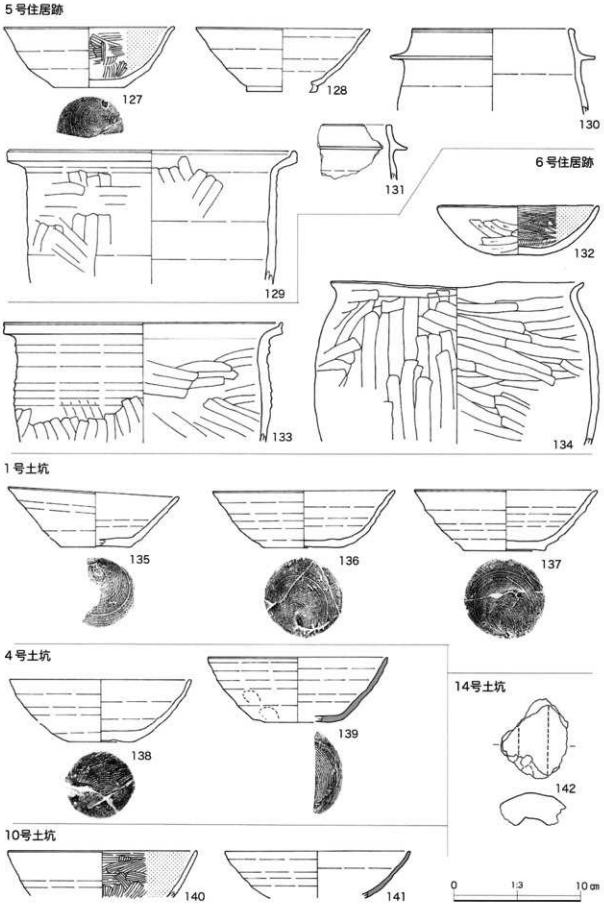
1号住居跡



第49図　八天坂遺跡・久田Ⅱ遺跡出土遺物（1）



第50図　八天坂遺跡・久田Ⅱ遺跡出土遺物（2）



第51図　八天坂遺跡・久田Ⅱ遺跡出土遺物（3）

遺物観察表（1）発掘調査

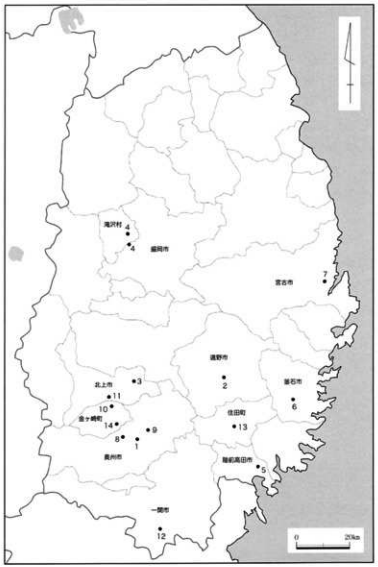
番号	遺跡名	図版	出土地点	層位	種別	器種	特徴	時代	時期	備考
1	鳩岡崎下通	3	3号土坑	埋土	須恵器	甕	頸部に自然釉。	平安時代		
2	鳩岡崎下通	3	遺構外	黒色土	土師器	坏	内面黒色処理、ミガキ。	平安時代		
3	鳩岡崎下通	3	3号土坑	埋土	土師器	坏	回転糸切痕。	平安時代		
4	鳩岡崎下通	3	遺構外	黒色土	土師器	坏	回転糸切痕。	平安時代		
5	鳩岡崎下通	3	遺構外	黒色土	須恵器	坏	回転糸切痕。	平安時代		
6	鳩岡崎下通	3	遺構外	黒色土	土師器	甕	底面に静止糸切痕か。	平安時代		
7	土川Ⅱ	6	1号住居跡	埋土	縄文土器	深鉢		縄文時代	後期	
8	土川Ⅱ	6	1号住居跡	埋土	縄文土器	壺		縄文時代	後期	
9	上平Ⅲ	12	調査区南側	Ⅱ層	縄文土器	深鉢		縄文時代		
10	上平Ⅲ	12	調査区南側	Ⅱ層	縄文土器	深鉢	原体圧痕。	縄文時代		
11	上平Ⅲ	12	調査区南側	Ⅱ層	縄文土器	深鉢	斜縄文。	縄文時代		
12	上平Ⅲ	12	調査区南側	Ⅱ層	縄文土器	深鉢		縄文時代		
13	上平Ⅲ	12	調査区南側	Ⅱ層	石器	剥片				
14	上平Ⅲ	12	調査区南側	Ⅱ層	石器	磨石				
15	中野A	20	調査区西側	攪乱	縄文土器	深鉢	口縁部に不整撚糸文。	縄文時代	前期	
16	中野A	20	調査区西側	攪乱	縄文土器	深鉢		縄文時代	前期	
17	中野A	20	調査区西側	攪乱	縄文土器	深鉢	不整撚糸文。	縄文時代	前期	
18	中野A	20	調査区西側	攪乱	縄文土器	深鉢	不整撚糸文。	縄文時代	前期	
19	中野A	20	調査区西側	攪乱	縄文土器	深鉢	不整撚糸文。	縄文時代	前期	
20	中野A	20	調査区西側	攪乱	縄文土器	深鉢	不整撚糸文。	縄文時代	前期	
21	中野A	20	調査区西側	攪乱	縄文土器	深鉢	不整撚糸文。	縄文時代	前期	
22	中野A	20	調査区西側	攪乱	縄文土器	深鉢		縄文時代	前期	
23	谷地	29	1号住居跡	カマド埋土	土師器	甕	小型。ロクロメ。回転糸切痕。	平安時代		
24	谷地	29	1号住居跡	煙道部埋土	土師器	甕	小型。ロクロメ。回転糸切痕。	平安時代		
25	谷地	29	1号住居跡	南壁際床面	須恵器	坏	焼成不良。回転糸切痕。	平安時代		
26	谷地	29	1号住居跡	カマド脇床面	須恵器	坏	焼成不良。回転糸切痕。	平安時代		
27	谷地	29	1号住居跡	カマド脇床面	須恵器	坏	回転糸切痕。	平安時代		廃棄Ｂ⑦
28	谷地	29	1号住居跡	カマド埋土	須恵器	坏	口縁部に欠け。回転糸切痕。	平安時代		廃棄Ｂ④接合
29	谷地	29	1号住居跡	カマド埋土	須恵器	坏	器形に歪み。回転糸切痕。	平安時代		
30	谷地	29	1号住居跡	カマド埋土	須恵器	坏	底部付近、強いナデにより凹み。回転糸切痕。	平安時代		
31	谷地	29	1号住居跡	床面直上	須恵器	坏	焼成不良。器表面に亀裂。回転糸切痕。	平安時代		
32	谷地	29	1号住居跡	床面直上	須恵器	坏	焼成不良。回転糸切痕。	平安時代		
33	谷地	29	1号住居跡	床面直上	須恵器	坏	回転糸切痕。	平安時代		
34	谷地	30	1号住居跡	床面直上	須恵器	坏	器形に歪み。回転糸切痕。	平安時代		廃棄Ｂ⑥
35	谷地	30	1号住居跡	床面直上	須恵器	坏	回転糸切痕。	平安時代		
36	谷地	30	1号住居跡	床面直上	須恵器	坏	焼成不良。回転糸切痕。	平安時代		
37	谷地	30	1号住居跡	床面直上	須恵器	坏	焼成不良。回転糸切痕。	平安時代		廃棄Ｂ④接合
38	谷地	30	1号住居跡	カマド周辺	須恵器	坏	底面に亀裂。回転糸切痕。	平安時代		
39	谷地	30	1号住居跡	カマド周辺	須恵器	坏	器形に歪み。回転糸切痕。	平安時代		
40	谷地	30	1号住居跡	カマド周	須恵器	坏	焼成不良。回転糸切痕。	平安時代		
41	谷地	30	1号住居跡	Pit 2埋土	須恵器	坏	焼成不良。回転糸切痕。	平安時代		

番号	遺跡名	図版	出土地点	層位	種別	器種	特徴	時代	時期	備考
42	谷地	30	1号住居跡	床直～埋土下	須恵器	坏	還元が不充分。回転糸切痕。	平安時代		
43	谷地	30	1号住居跡	床直～埋土下	須恵器	坏	回転糸切痕。	平安時代		
44	谷地	30	1号住居跡	床直～埋土下	須恵器	坏	焼成不良。回転糸切痕。	平安時代		
45	谷地	30	1号住居跡	床直～埋土下	須恵器	坏	焼成不良。回転糸切痕。	平安時代		
46	谷地	30	1号住居跡	埋土上部	須恵器	坏	器表面に亀裂。回転糸切痕。	平安時代		
47	谷地	30	1号住居跡	埋土上部	須恵器	坏	焼成不良。回転糸切痕。	平安時代		
48	谷地	31	1号住居跡	埋土上部	須恵器	坏	器形に歪み。回転糸切痕。	平安時代		
49	谷地	31	1号住居跡	埋土上部	須恵器	坏	器表面に凹み。回転糸切痕。	平安時代		
50	谷地	31	1号住居跡	埋土上部	須恵器	坏	回転糸切痕。	平安時代		
51	谷地	31	1号住居跡	埋土	須恵器	坏	回転糸切痕。	平安時代		廃棄Ｂ⑥
52	谷地	31	1号住居跡	埋土	須恵器	坏	器表面に亀裂。回転糸切痕。	平安時代		
53	谷地	31	1号住居跡	埋土	須恵器	坏	焼成不良。回転糸切痕。	平安時代		
54	谷地	31	1号住居跡	Pit 2埋土	須恵器	鉢	器表面に亀裂。カキメ、ヘラナデ。底部再調整。	平安時代		
55	谷地	31	1号住居跡	煙道部埋土	須恵器	鉢	器形に歪み。カキメ、ケズリ。	平安時代		廃棄Ｂ⑦接合
56	谷地	31	1号住居跡	床面直上	須恵器	壺	口縁部に歪み。カキメ、ケズリ。内面ハケメ、カキメ。	平安時代		廃棄Ｂ⑥
57	谷地	31	1号住居跡	床面直上	須恵器	壺	焼成不良で半分が未還元。口縁部歪み。ロクロメ。	平安時代		
58	谷地	32	1号住居跡	煙道部埋土	須恵器	壺	後円部に歪み。カキメ、ナデ。内面にハケメ、ナデ。底部再調整。底面にヘラ書きの沈線（刻書か）。	平安時代		pit2・4埋土と接合
59	谷地	32	1号住居跡	カマド周辺床面直上	須恵器	壺	口縁部に歪み。カキメ、ヘラケズリ。	平安時代		廃棄Ｂ①
60	谷地	32	1号住居跡	埋土	須恵器	壺	ロクロメ、ヘラナデ。上げ底。底部再調整（蓮弁状）。	平安時代		
61	谷地	32	1号住居跡	床面直上	須恵器	蓋	欠損。器形に歪み。	平安時代		
62	谷地	32	1号住居跡	カマド火床部	須恵器	甕	焼成不良。ハケメ、ヘラケズリ。	平安時代		63と同一個体
63	谷地	32	1号住居跡	カマド埋土	須恵器	甕	焼成不良。ハケメ、ヘラケズリ。	平安時代		62と同一個体
64	谷地	32	1号住居跡	カマド埋土	須恵器	甕	カキメ、ケズリ。内面ハケメ。	平安時代		
65	谷地	33	1号住居跡	カマド脇床面	須恵器	甕	カキメ、ケズリ。内面ナデ。	平安時代		廃棄Ｂ③接合
66	谷地	33	1号住居跡	カマド脇床面	須恵器	甕	ハケメ、カキメ、ケズリ。	平安時代		
67	谷地	33	1号住居跡	カマド脇床面	須恵器	甕	カキメ、ケズリ。	平安時代		
68	谷地	33	1号住居跡	カマド脇床面	須恵器	甕	カキメ、ナデ。	平安時代		
69	谷地	33	1号住居跡	カマド脇床面	須恵器	甕	ハケメ、カキメ、ケズリ。	平安時代		廃棄Ｂ⑦接合
70	谷地	33	1号住居跡	煙道部埋土	須恵器	甕	カキメ、ナデ。内面にハケメ。	平安時代		廃棄Ｂ③接合
71	谷地	33	1号住居跡	煙道部埋土	須恵器	甕	焼成不良。カキメ、ヘラナデ。	平安時代		
72	谷地	34	1号住居跡	床面直上	須恵器	甕	カキメ、ケズリ。内面ハケメ。	平安時代		廃棄Ｂ③・④
73	谷地	34	1号住居跡	床面直上	須恵器	甕	カキメ、ケズリ。内面ハケメ。	平安時代		廃棄Ｂ③
74	谷地	34	1号住居跡	床面直上	須恵器	甕	ハケメ、カキメ。	平安時代		廃棄Ｂ①②③接合
75	谷地	34	1号住居跡	床面直上	須恵器	甕	カキメ、ケズリ。内面ハケメ。	平安時代		廃棄Ｂ④
76	谷地	34	1号住居跡	床面直上	須恵器	甕	ロクロメ。口縁部が折り返し、屈曲。	平安時代		
77	谷地	34	1号住居跡	床面直上	須恵器	甕	ロクロメ。	平安時代		
78	谷地	34	1号住居跡	埋土下部	須恵器	甕	ロクロメ。	平安時代		

番号	遺跡名	図版	出土地点	層位	種別	器種	特徴	時代	時期	備考
79	谷地	35	1号住居跡	床面直上	須恵器	大甕	口縁部に2段の小波状沈線が巡る。タタキメ。	平安時代		廃棄Ⅱ①
80	谷地	35	1号住居跡	床面直上	須恵器	大甕	タタキメ。	平安時代		廃棄Ⅱ①④接合
81	谷地	36	1号住居跡	床面直上	須恵器	大甕	タタキメ。	平安時代		廃棄Ⅱ①④接合
82	谷地	36	1号住居跡	床面直上	須恵器	大甕	タタキメ。	平安時代		廃棄Ⅱ③
83	谷地	36	1号住居跡	Pit 2埋土	石器	石鏃	基部付近の両側から抉入。いわゆる「アメリカ式石鏃」。	弥生時代		
84	谷地	36	1号住居跡	カマド焚口	土製品	土錘	長軸方向に貫通孔あり、管状。	時期不明		
85	谷地	36	1号住居跡	埋土上部	土製品	土鈴状	手捏ね。用途不明。	時期不明		平安時代か
86	谷地	36	1号住居跡	埋土上部	土製品	土鈴状	手捏ね。用途不明。	時期不明		平安時代か
87	谷地	36	1号住居跡	埋土上部	土製品	不明	焼成粘土塊。手捏ね。	時期不明		平安時代か
88	谷地	36	1号住居跡	埋土上部	土製品	不明	焼成粘土塊。手捏ね。	時期不明		平安時代か
89	谷地	36	1号住居跡	埋土上部	石製品	垂飾	長方形の板状。長軸片側に貫通孔1箇所。	時期不明		
90	谷地	36	1号住居跡	床面直上	鉄製品	刀子	錆化。欠損、3分割。	平安時代		
93	谷地	37	3号溝	埋土	石器	削器		縄文～弥生		
94	谷地	37	遺構外		石器	石鏃	無茎。	縄文～弥生		
91	谷地	37	1号溝	埋土	石器	石斧	磨製石斧の未成品。製作工程で欠損したものか。	縄文～弥生		
92	谷地	37	1号溝	埋土	石器	敲石	長軸片側末端に敲打痕。	縄文～弥生		
95	谷地	37	遺物集中区？	上位？	石器	敲石	長軸片側末端および腹面に敲打痕。	縄文～弥生		
96	谷地	37	西側調査区	砂層	弥生土器	鉢	波状口縁。波頂部は二又変形工字文。	弥生時代	前半	
97	谷地	37	遺構外	砂層	弥生土器	鉢	変形工字文。	弥生時代	前半	
98	谷地	37	遺構外	砂層	弥生土器	深鉢		弥生時代		
99	谷地	37	遺構外	砂層	弥生土器	深鉢	口縁部に無文帯。	弥生時代		
100	久田Ⅱ	50	1号住居跡	カマド埋土	土師器	坏	回転糸切痕。	平安時代		
101	久田Ⅱ	50	1号住居跡	カマド埋土	土師器	坏	回転糸切痕。	平安時代		
102	久田Ⅱ	50	1号住居跡	埋土下位	土師器	坏	回転糸切痕。	平安時代		
103	久田Ⅱ	50	1号住居跡	埋土下位	土師器	坏	回転糸切痕。	平安時代		
104	久田Ⅱ	50	1号住居跡	埋土下位	土師器	坏	回転糸切痕。	平安時代		
105	久田Ⅱ	50	1号住居跡	埋土	土師器	坏	回転糸切痕。	平安時代		
106	久田Ⅱ	50	1号住居跡	埋土	土師器	坏	内面ミガキ、黒色処理。回転糸切痕。	平安時代		
107	久田Ⅱ	50	1号住居跡	埋土	土師器	坏	ナデ。回転糸切痕。			
108	久田Ⅱ	50	1号住居跡	カマド支脚	土師器	甕	回転糸切痕。	平安時代		
109	久田Ⅱ	50	1号住居跡	カマド埋土	土師器	甕	ロクロ痕。	平安時代		
110	久田Ⅱ	50	1号住居跡	カマド埋土	土師器	甕	ロクロ痕。	平安時代		
111	久田Ⅱ	50	1号住居跡	カマド埋土	土師器	甕	外面ヘラケズリ。	平安時代		
112	久田Ⅱ	50	1号住居跡	カマド埋土	土師器	甕	外面ハケメ。	平安時代		
113	久田Ⅱ	50	1号住居跡	カマド埋土	土師器	甕	外面ハケメ、ヘラナデ。	平安時代		
114	久田Ⅱ	51	1号住居跡	埋土	土師器	甕	ヘラナデ。	平安時代		
115	久田Ⅱ	51	1号住居跡	カマド埋土	土師器	甕	外面ヘラナデ、内面ハケメ。底面ナデ。	平安時代		
116	久田Ⅱ	51	1号住居跡	カマド埋土	土師器	甕	外面ヘラナデ、内面ハケメ。	平安時代		
117	久田Ⅱ	51	1号住居跡	カマド埋土	土師器	甕	ヘラナデ。	平安時代		
118	久田Ⅱ	51	1号住居跡	埋土	鉄製品	刀子	刃先欠損。茎長約75㎜。			
119	久田Ⅱ	51	1号住居跡	埋土	鉄製品	刀子	刀身の破片。			

番号	遺跡名	図版	出土地点	層位	種別	器種	特徴	時代	時期	備考
120	久田Ⅱ	51	2号住居跡	貼床層	土師器	坏	内面ヘラミガキ。回転糸切痕。	平安時代		
121	久田Ⅱ	51	2号住居跡	カマド埋土	須恵器	鉢	折返し口縁。	平安時代		
122	八天坂	51	4号住居跡	埋土	土師器	坏	回転糸切痕。	平安時代		
123	八天坂	51	4号住居跡	埋土	土師器	坏	内面ヘラミガキ、黒色処理。回転糸切痕。	平安時代		
124	八天坂	51	4号住居跡	埋土	土師器	甕	外面ハケメ、ヘラナデ。	平安時代		
125	八天坂	51	4号住居跡	埋土	須恵器	甕	タタキメ。	平安時代		
126	八天坂	51	4号住居跡	埋土	石製品	砥石	前面に擦痕。	平安時代		
127	八天坂	52	5号住居跡	埋土	土師器	坏	内面ヘラミガキ、黒色処理。回転糸切痕。	平安時代		
128	八天坂	52	5号住居跡	埋土	土師器	坏	台付。	平安時代		
129	八天坂	52	5号住居跡	埋土	土師器	甕	ヘラナデ。	平安時代		
130	八天坂	52	5号住居跡	埋土	土師器	羽釜		平安時代		
131	八天坂	52	5号住居跡	埋土	土師器	羽釜		平安時代		
132	八天坂	52	6号住居跡	埋土	土師器	坏	外面ヘラケズリ、内面ヘラミガキ、黒色処理。	奈良時代か		
133	八天坂	52	6号住居跡	埋土	土師器	甕	ヘラナデ。ロクロ成形。	平安時代		
134	八天坂	52	6号住居跡	埋土	土師器	甕	ヘラナデ。胴が膨らむ球胴形。	平安時代		
135	久田Ⅱ	52	1号土坑	埋土	土師器	坏	回転糸切痕。	平安時代		
136	久田Ⅱ	52	1号土坑	埋土	土師器	坏	回転糸切痕。	平安時代		
137	久田Ⅱ	52	1号土坑	埋土	土師器	坏	回転糸切痕。	平安時代		
138	八天坂	52	4号土坑	埋土	土師器	坏	回転糸切痕。	平安時代		
139	八天坂	52	4号土坑	埋土	須恵器	坏	外面に指頭圧痕状の窪み。回転糸切痕。	平安時代		
140	八天坂	52	10号土坑	埋土	土師器	坏	内面ヘラミガキ、黒色処理。	平安時代		
141	八天坂	52	10号土坑	埋土	須恵器	坏	ロクロ痕。	平安時代		
142	八天坂	52	14号土坑	埋土	土製品	羽口		時期不明		

Ⅱ　試掘調査



試掘調査

1　熊之堂遺跡（奥州市水沢区）
2　新里間木野遺跡（遠野市）
3　中村遺跡（北上市）
4　穴口遺跡（盛岡市）
　　狼久保Ⅲ遺跡（滝沢村）
5　瓜畑遺跡（陸前高田市）
6　不動ノ滝遺跡（釜石市）
7　松山館遺跡（宮古市）
8　漆町遺跡（奥州市胆沢区）
9　石山遺跡（奥州市江刺区）
10　赤石遺跡（金ヶ崎町）
11　久田Ⅱ遺跡・高田坂遺跡・
　　伍大坂Ⅰ遺跡・欠ノ下台地
　　遺跡（北上市）
12　石畑遺跡（一関市花泉町）
13　下清水遺跡（住田町）
14　揚場遺跡（金ヶ崎町）

1　一般国道４号水沢東バイパス

熊之堂遺跡（NE27－0048）

所在地：奥州市水沢区朝日町182－１地内ほか

事業者：国土交通省東北地方整備局

岩手河川国道事務所

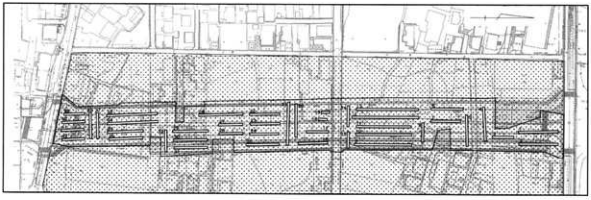
調査期日：平成22年８月23日(月)～８月24日(火)

第52図　熊之堂遺跡位置

熊之堂遺跡はＪＲ東北線水沢駅の東南東約1.6㎞、水沢区市街中心域の東側に位置する。遺跡の立地する地形面は胆沢扇状地上の高位段丘（水沢段丘）縁辺部に分類される。当遺跡北側は国道397号によって区切られ、国道北側には杉の堂遺跡が隣接している。今回の調査は国道４号水沢東バイパス建設に係り、工事計画範囲について試掘を実施したものである。調査地は全域が遺跡範囲に含まれており、遺跡西側を縦断する形となっている。調査地の現況は、宅地跡、果樹園跡、市道である。

調査地に42箇所のトレンチを設定した。調査地北側のＴ１～３では、表土直下で地山（Ⅴ層）が確認されており、その周辺部分は削平されていると思われる。一方、Ｔ４以南では表土下に黒褐色土（Ⅱ層）の堆積が見られるものの、中央付近のＴ22～28付近に向かって地山面が緩やかに上がっている様相が観察された。現況では比較的平坦な地形であるが調査地内には東西方向に延びる小支谷が存在しているようである。地山（Ⅳ・Ⅴ層）面で遺構確認を行なったが、多数の倒木痕が確認されたのみで、遺構は検出されなかった。遺物はＴ７のⅡ層から縄文土器片１点のみ出土したが、他所からの流入と思われる。その他の遺物は確認されていない。

今回調査地から連続する地形面である杉の堂遺跡南端付近（国道397号北側隣接地）では、土坑や小ピット類が検出されているが、竪穴住居跡は検出されず、遺構分布が希薄であることが確認されている。一方、奥州市教育委員会が当遺跡北半の中央から東側を調査し、奈良～平安時代の竪穴住居跡群を検出しているが、今回調査区に近い地点の試掘調査では遺構・遺物ともに検出されていない。また、今回調査地付近が地形改変を被っていることは確かであるが、その影響が少ないと思われる範囲でも遺構・遺物は確認されていない。これらの点から、今回調査地には遺構が希薄ないしは存在していなかったと考えられ、遺跡の中心はより東側の段丘縁寄り（現住宅地周辺）にあるものと推測される。



第53図　熊之堂遺跡調査地点

2　東北横断自動車道秋田釜石線
新里間木野遺跡（ME53－0391）

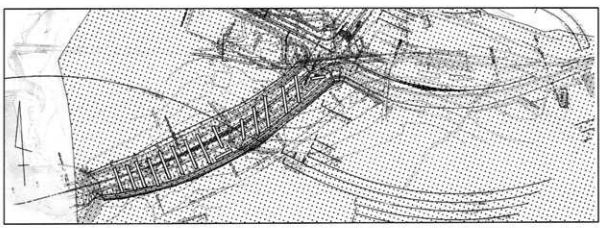
所在地：遠野市綾織町　ほか
事業者：国土交通省東北地方整備局
　　岩手河川国道事務所
調査期日：平成22年11月11日(木)～11月12日(金)

第54図　新里間木野遺跡位置

新里間木野遺跡は、ＪＲ釜石線遠野駅の西南西約2.2㎞、綾織町新里に所在する。遺跡は物見山の北側裾野と猿ヶ石川に挟まれた緩斜面地に立地し、北側は県道遠野住田線に接している。当遺跡については、遠野ダム建設や県道付替工事に係り遺跡北側縁辺部について試掘調査が行われ、陥し穴１基が検出されている。今回の調査は東北横断自動車道釜石秋田線（遠野～東和間）建設に係り実施したもので、対象は22年度に実施した県道付替に係る調査区の北側に接続し遺跡北西部を斜行する範囲である。調査地はごく緩く北へ傾斜する草地で、かつては果樹林として利用されていた。

調査地に16箇所のトレンチを設定した。西側の谷沿いのＴ１～５では、表土層下で黒褐色土（Ⅱ層）・黒色土層（Ⅲ層）が見られた。Ⅱ層中には転石が多く含まれ、局所的に地山ブロックが混入している。Ⅱ層は人為的な堆積層であると推測され、この部分は地形改変されたと考えられる。Ｔ６～８ではⅡ・Ⅲ層が無い、若しくはごく薄い状況で、表土直下で地山（Ⅴ層）が確認された。この部分は削平されているものと推測される。Ｔ９・10～12付近はⅢ層がやや厚くなり、花崗岩の巨礫が多数混入していた。等高線の様子から埋没沢と思われる。なお、Ｔ12で中撫火山灰と思われる黄橙色パミスがブロック状に堆積する様相が見られた。埋没沢の窪みに二次堆積したものと思われる。調査地北東のＴ13～16では表土下が地山となり、この部分もまた削平されているものと思われる。各トレンチのⅤ層面で遺構確認を行ったが検出されず、遺物も出土しなかった。

調査地は現況では起伏の乏しい緩斜面であるが、トレンチの土層を見ると、本来の地形を改変していることが判明した。今回の調査では遺構・遺物は確認されなかったが、遺跡の主体は、北側の一段高位の地形面にあるものと推測される。


第55図　新里間木野遺跡調査地点

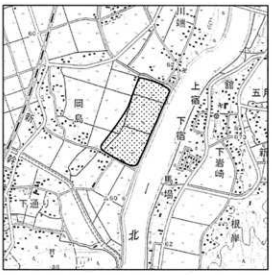
3　北上川中部治水対策事業二子地区

中村遺跡（ME56－1385）

所在地：北上市二子町字中村地内

事業者：国土交通省東北地方整備局
岩手河川国道事務所

調査期日：平成23年11月15日(火)～16日(水)



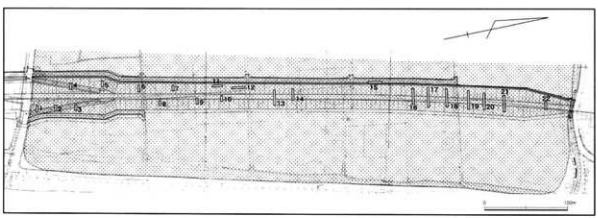
第56図　中村遺跡位置

中村遺跡はＪＲ東北線北上駅の北東約3.9km、北上川右岸段丘面縁辺の自然堤防上に立地している。今回の調査は二子地区の北上川築堤工事に係るもので、調査対象範囲は遺跡を幅30～50mの帯状に南北縦断する延長約750m、総面積約24,300㎡である。調査地の現況は概ね畑地であるが、この地区特産の長芋栽培により深くまで攪乱されており、各トレンチの地山面で交錯する筋状の攪乱が多数見られた。遺跡の載る地形面は自然堤防上であるが、表土下には洪水に起因する砂質土の厚い堆積層（Ⅱ～Ⅳ層）が見られる。遺跡北側では砂質土層の下に粘土質の地山と思われる面（Ⅴ層）を確認したが、南側では上位層で遺構が検出されたこともあってⅤ層を確認できなかった。当遺跡の南側には、縄文時代から古代の遺跡である千苅遺跡が隣接している。

調査地が広くかつ砂層の堆積が厚いと予想されたため、主に遺跡全体の様相を掴むことを目的として22箇所のトレンチを設定した。その結果、調査地全体に古代（平安時代）の集落跡が広がっていることを確認した。南側T3・4のⅢ層面およびT6・7・10・16～22のⅣ～Ⅴ層面において竪穴住居跡が合計13棟検出され、土師器・須恵器が出土した。またT8・13・16・20では、埋土に焼土・炭化物を伴う長楕円形の土坑が検出された。その他、柱穴状の小ピット、埋土に白色火山灰ブロック（十和田a火山灰か）を含む溝跡（畝間状遺構の可能性あり）等が検出されている。出土遺物から見て、それらの検出遺構は平安時代のものである可能性が高い。

調査の結果から、調査範囲は全体に平安時代の集落跡が広がることが確認された。なお、今回調査ではより古い時代の遺構・遺物は確認されていないが、南隣の千苅遺跡の調査成果から類推すれば、砂層およびその下層に縄文～弥生時代の遺構・遺物が存在している可能性があると思われる。

（平成26年度、発掘調査予定）



第57図　中村遺跡調査地点

4　一般国道４号盛岡北道路

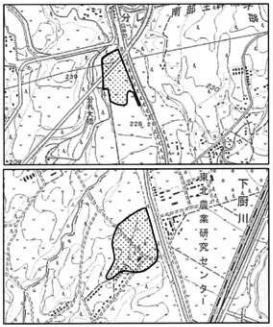
穴口遺跡（NF86－2165）

狼久保Ⅲ遺跡（KE76－2049）

所在地：盛岡市下厨川字穴口地内
　　岩手郡滝沢村滝沢字巣子地内

事業者：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

調査期日：平成23年12月5日(月)～6日(火)

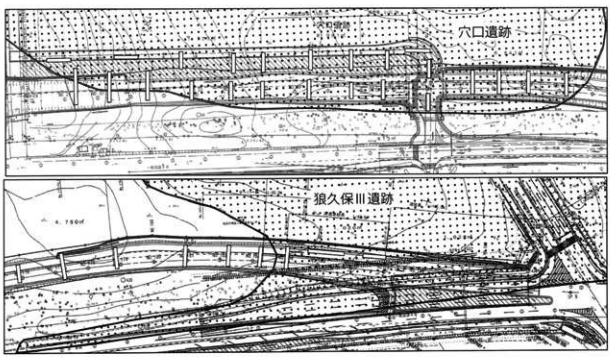


第58図　穴口遺跡・狼久保遺跡位置

今回の調査は、盛岡北道路の下り線新設工事に係るもので、工事予定範囲の南端付近に穴口遺跡、北端付近に狼久保Ⅲ遺跡が含まれるため試掘調査を行ったものである。調査地は家畜改良センター岩手牧場の敷地内にあり、現況は両遺跡ともになだらかな低丘陵が連続する牧草地である。

南の穴口遺跡およびその周辺にはトレンチ25箇所、北の狼久保Ⅲ遺跡とその隣接地にはトレンチ11箇所を設定した。堆積土層は両遺跡ともにほぼ同様で、表土（Ⅰ層・10～40cm）、黒色土（Ⅱ層・10～50cm）、赤褐色パミスを含む黄褐色土（Ⅲ層・地山）という層序である。Ⅱ層は自然堆積層とも思われるが、地点により厚みが異なっており、削平を被っているものと思われる。現在のなだらかな地形は人為的な改変によるもので、旧地形はより起伏に富んでいたと推測される。各トレンチともに遺構・遺物は確認されなかった。

調査結果からみて両遺跡ともに牧草地造成に際して削られて、遺構・遺物が失われてしまったのではないかと考えられる。



第59図　穴口遺跡・狼久保遺跡調査地点

5　一般国道45号高田道路

瓜畑遺跡（NF57－2241）

所在地：陸前高田市高田町字大隅地内

事業者：国土交通省東北地方整備局
三陸国道事務所

調査期日：平成23年11月1日(火)

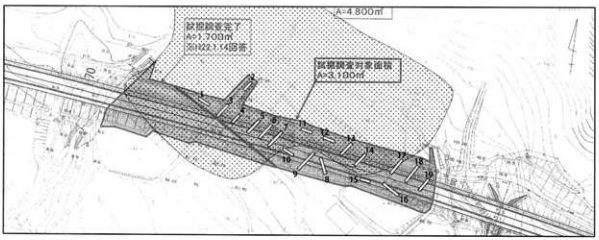
第60図　瓜畑遺跡位置

瓜畑遺跡は、陸前高田市役所現庁舎の東北東約1.3km、津波により流出したJR大船渡線陸前高田駅の北西約2.5km、市街中心部北側に面する山稜裾部の南西向き緩斜面の中腹部分に位置している。市街中心部は東日本大震災・津波により被災しているが、遺跡周辺は標高90～100mの高台にあって津波被害は全く受けていない。

今回の調査は高田道路建設によるもので、当事業に係る試掘調査は平成21年度に遺跡南西部について既に実施しており、今回は残りの部分について試掘を行ったものである。調査地は、西側から中央付近は道路、なだらかな草地および畑地であるが、西端および北東側は棚田となっている。また、調査地内の各所に転石と思われる巨礫が散見された。

調査地内にトレンチ19箇所を設定した。T2～10を設定した道路・草地・畑地部分は現況地形から地形改変の度合いが少ないものと見えたが、トレンチ掘削の結果、一部を除いて、表土（Ⅰ層）直下で礫を含む黄褐色土層（Ⅳ層）となり、自然堆積層が削り取られて消失していた。現況地形は人為的に造成されたものと思われる。黒褐色～暗褐色土（Ⅱ・Ⅲ層）が残存していたのはT8であるが、遺物は出土しなかった。一方、棚田のT1・11～19では、地山面まで削平されていた。T11ではⅡ層が僅かに残っていたが、同層中には遺物は含まれていなかった。各トレンチのⅣ層面で遺構確認したが、遺構は検出されなかった。

各トレンチの様相から見て、調査地全体が地形改変を被っており、埋蔵文化財が包蔵されている可能性はないものと判断される。



第61図　瓜畑遺跡調査地点

6　東北横断自動車道釜石秋田線
不動ノ滝遺跡（MG70－2207）

所在地：釜石市甲子町大畑地内
事業者：国土交通省東北地方整備局
　　三陸国道事務所
調査期日：平成24年3月26日（月）

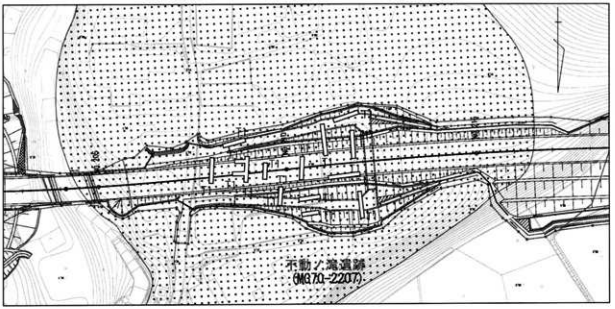
第62図　不動ノ滝遺跡位置

不動ノ滝遺跡はＪＲ釜石線松倉駅の西南西約1kmの山麓の段丘面（標高80m前後）に立地している。釜石市教育委員会が平成17年度に実施した調査では、縄文時代（前期～晩期）および古代の遺物が出土している。今回は東北横断自動車道釜石秋田線の建設工事に係り、当遺跡が計画路線に係るため試掘調査を実施した。調査地の現況は休耕田である。

堆積土の層序は、Ⅰ層：表土（層厚5～25cm）、Ⅱ層：暗褐色土（10～60cm。遺物を含む）、Ⅲ層：黄褐色砂質土（層厚不明。角礫を含む。地山）となっている。

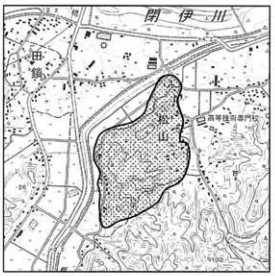
工事に係る遺跡範囲のうち、掘削可能な範囲約4,400㎡についてトレンチ15箇所を設定した。調査地の中央から西側については遺構・遺物は確認されなかったが、東側に設定したT12において土坑２基を検出した。土坑は２基とも同規模（径約１m）で、うち１基の埋土上面から弥生土器が数点出土した。土坑が検出されたT12付近は休耕田ではあるが、Ⅲ層面が削平されておらず、水田造成の影響が小さかったと思われる。今回確認されなかったが、T12周辺に遺構が遺存している可能性が高く、工事に先立って当該範囲についての発掘調査が必要になると判断された。

（平成25年度、発掘調査予定）



第63図　不動滝遺跡調査地点

7　地域連携道路整備事業一般県道106号
　宮古西道路
松山館遺跡（LG33－0011）
所在地：宮古市田鎖、松山地内
事業者：沿岸広域振興局土木部宮古土木センター
調査期日：平成23年10月27日(木)～10月28日(金)



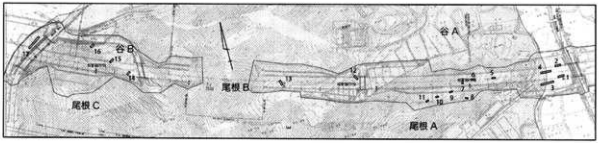
第64図　松山館遺跡位置

松山館遺跡はＪＲ山田線千徳駅の南約1.3km、閉伊川支流の永沢川右岸に面する丘陵先端部分であり、城主は白根氏と伝えられる。調査は宮古西道路建設に係り実施したもので、遺跡中央付近を南東―北西方向に貫く幅25～60mほどの範囲を対象とした。遺跡の現況は山林で、丘陵から張り出す小高い尾根３本（便宜的に東から尾根Ａ・Ｂ・Ｃと呼称する）と小規模な谷（同様に谷Ａ・Ｂと呼称する）となっている。現況の地形観察では、尾根上には複数段の平場が認められる。

東側の尾根Ａ頂部平場のＴ５～11では、表土から20～40㎝ほどで風化花崗岩（マサ土）となった。Ｔ５・６・９で小径の柱穴が検出され、平坦面が普請によるものである可能性ありと考えられた。平場と思われる箇所は６箇所あり、その規模や位置関係から見て館の副郭や帯曲輪・腰曲輪にあたるものと推測される。遺物は、Ｔ９で土師器片、Ｔ６で磨石１点が出土している。また、尾根Ｂの西側斜面には谷に面する平坦面が、尾根Ｃの頂部にも小規模な平坦面が、それぞれ見られる。これらの部分にはトレンチを設定できなかったが、地形的に見て普請による人工的な平場で遺構が存在している可能性もあると推測される。一方、尾根裾部および谷部にＴ12～16を設定した。谷Ａ北側緩斜面のＴ13で、黒色土の長楕円形の広がりが検出され、羽口の破片が出土した。この土坑状の遺構は製鉄炉跡と推測され、谷に落ち込む尾根裾に製鉄関連遺構群が存在している可能性が考えられる。谷Ａ・Ｂの Ｔ12・14～16では湿地環境となり遺構・遺物ともに検出されなかった。谷部は館の縄張りから考えれば堀的な機能を有したと推測されるが、自然地形を縄張りに利用したものであると推測される。なお、Ｔ１～４およびＴ17では遺構・遺物ともに確認されなかった。遺跡範囲は丘陵に接する東西両側の低位面までは広がっていないと判断される。

今回は掘削範囲が狭い限定的なトレンチ調査であったが、尾根部で遺構・遺物が確認された。調査結果および現況の地形観察（縄張調査）から、尾根上および斜面に中世の館跡関連遺構（平場・切岸・帯曲輪等）、尾根裾に製鉄遺構が存在しているものと推測される。また、尾根上で土師器が出土しており、古代の遺構が存在する可能性もある。

（平成24年度、県埋文センターにより発掘調査を実施済み）



第65図　松山館遺跡調査地点

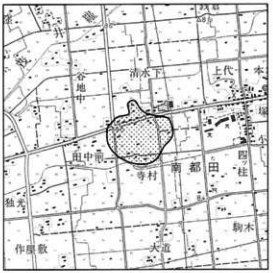
8　経営体育成基盤整備事業都鳥３期地区
漆町遺跡（NF15－2187）

所在地：奥州市胆沢区南都田字漆町地内

事業者：県南広域振興局農政部農村整備室

調査期日：平成23年10月24日(月)～10月26日(水)

漆町遺跡はＪＲ東北線水沢駅の西約６km、胆沢扇状地の扇央部北縁に立地している。扇状地北縁には胆沢川により複数の段丘面が形成されるが、遺跡は低位段丘（水沢段丘）面に載っている。今回の調査はほ場整備工事に係り、周知の遺跡範囲および西側隣接地について試掘調査を実施した。



第66図　漆町遺跡位置

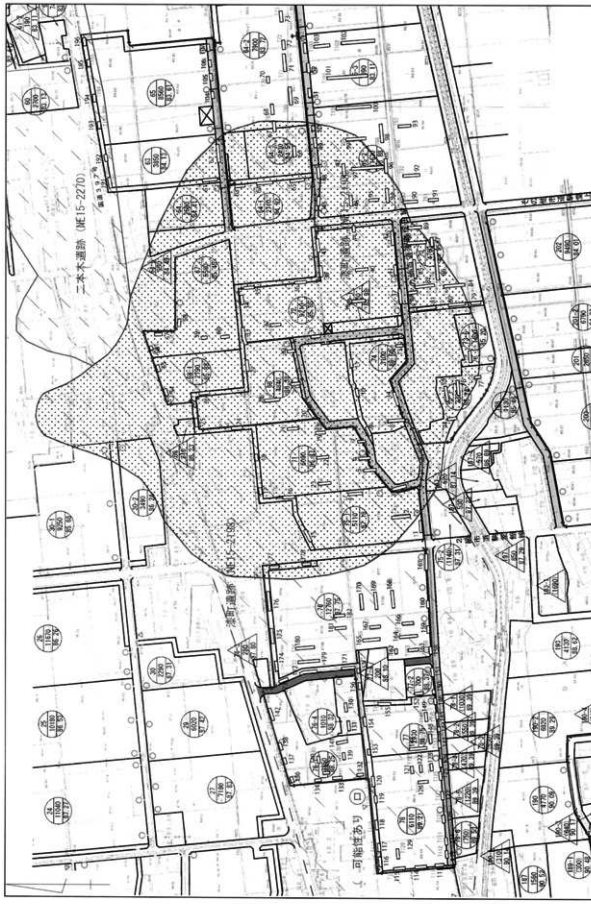
遺跡範囲および東側隣接地に179箇所のトレンチを設定した。その結果、遺跡中央南寄りの宅地周辺の微高地を中心として古代の遺構・遺物が高密度で検出され、かつ周知の遺跡範囲外にも遺構・遺物が分布することが確認された。

竪穴住居跡と思われる黒色土の方形の広がりは、現宅地周辺を中心にＴ１・３・７・14・34・35・37・38・65・66・69・80～82・84・86・88・95・99で検出された。また、竪穴住居跡は遺跡範囲外の西側隣接地のＴ122・166でも検出されている。検出した竪穴住居跡の総数は28棟で、中には一辺７ｍ規模と推測される大形のものも含まれる。また他の遺構は、溝跡45条、堀跡（環濠か）１条、土坑14基、柱穴55個等、多数検出されている。埋土に土師器・須恵器が含まれるものもあり、住居跡と同時期の古代に属する遺構が多くあると思われる。

出土遺物は遺構の数・密度に照らせば少ないと言える。その大部分は遺構埋土から出土した土師器・須恵器片である。なお、調査地は以前のほ場整備により削平されており、トレンチの大部分では、水田耕作土（Ⅰ層）の直下が黄褐色粘質土（Ⅲ層）や砂礫（Ⅳ層）の地山、という層序を示すが、旧表土と思われる黒褐色土（Ⅱ層）が残存する箇所も部分的にある。Ⅱ層には土師器等が含まれるが散発的で、硬らな遺物包含層となっている。

今回の調査結果から、当遺跡の主体は古代集落跡であり、遺跡範囲は東西両側にさらに広がっていることが確認された。今回調査のトレンチ設定状況から考えれば、宅地周辺を中心として相当数の住居跡が存在しており、当遺跡には大規模な集落が形成されていたと推測される。その詳細な所属時期については、遺物が少ないため明確にはできなかったが、平安時代を中心として一部７世紀代まで遡る可能性もあると考えられる。

（平成24年度、県埋文センターにより発掘調査を実施。25年度継続調査予定）



第67図　漆町遺跡調査地点

9　経営体育成基盤整備事業古城２期地区
石山遺跡（NF18－0011）

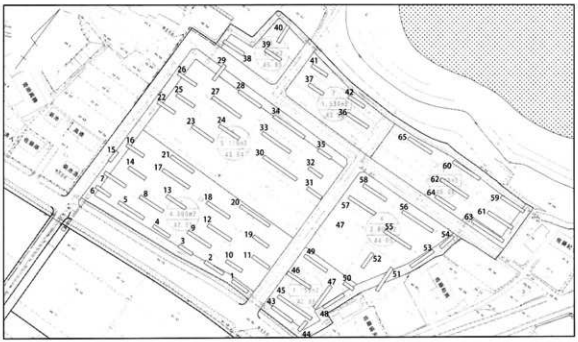
所在地：奥州市江刺区田原字大日前地内
事業者：県南広域振興局農政部農村整備室
調査期日：平成23年10月21日(木)～22日(金)

今回の調査は石山地区のほ場整備工事に係るもので、調査地は東北新幹線水沢江刺駅の北東約2.1kmに位置しており、石山遺跡南側の水田面である。

第68図　石山遺跡位置

調査地内に65箇所のトレンチを設定した。調査地中央から西側においては、最も標高低い国道沿いの田面で遺構・遺物が検出された。T2・6では長楕円形を呈する土坑が検出された。T2のものは残りが悪かったが、T6のものは埋土に焼土・炭化物粒が含まれており、土師器・須恵器が10数点出土した。平面形状および埋土の様相から土器焼成に係る古代の土坑ではないかと思われる。調査地は全般的に以前の耕地整理の際に削平されており、耕作土直下で粘土層が露出するが、一部で暗褐色土層が残っている箇所では土師器小破片が疎らに出土した（T3～5・11）。一方、やや標高が高い調査地東側の田面では、南東部および北東隅の田面で遺構・遺物が検出された。T51で土坑２基、T44・45・48では柱穴10個が検出された。柱穴の時期は不明であるが、T45で土師器・須恵器の破片が出土しており、古代に属するものである可能性が考えられる。また最も標高高い北東隅の田面に設定したT59では、土坑１基が検出された（時期不明）。これらの田面も著しく削平されているが、本来は東に隣接する宅地から連続する一段高い地形面だったと推測され、遺構は調査地東側に隣接する宅地部分に展開していると考えられる。なお、T62の沢跡状の落込から縄文土器片が出土しており、周囲に縄文時代の遺跡が存在する可能性を示唆している。

（平成24年度、県埋文センターにより発掘調査実施済み）



第69図　石山遺跡調査地点

10　経営体育成基盤整備事業和賀中部六原地区

赤石遺跡（ME85－1041）

所在地：胆沢郡金ヶ崎町六原赤石地内

事業者：県南広域振興局農政部農村整備室

調査期日：平成23年11月29日(火)

第70図　赤石遺跡位置

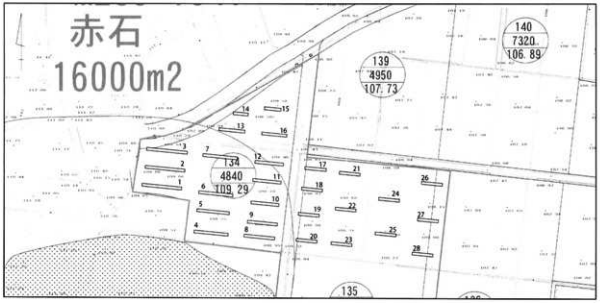
調査地は東北自動車道金ヶ崎ICの南西1.2kmに位置する微高地面で、赤石遺跡の北東側の隣接地である。調査地の現況は水田および休耕田である。

調査地にトレンチ28箇所を設定した。各トレンチの堆積土層は、水田耕作土（Ⅰ層）、造成土（Ⅱ層）、黄褐色土（Ⅲ層）となっており、かつてのほ場整備によって旧表土は削平されたと推測される。現況では平坦な田面となっているが、実際には、調査地の西縁部分には旧河道の落ち込みがあり、中央付近には湿地状の低みが存在していた。

多くのトレンチではⅢ層上面そのものも削られていたが、唯一、Ｔ７において土坑１基が検出された。土坑は平面の輪郭がはっきりしないが隅丸方形状（長辺約60cm）で、埋土には焼土や炭化物の粒が多量に含まれている。遺物は確認されなかったため時期が明らかではないが、埋土の様相等から見て古代に属する可能性がある。また、Ｔ２北側の旧河道部分のⅠ層で陶器片が出土した。小破片であるため判然としないが常滑産の壺と思われる。その他の遺物は出土しなかった。

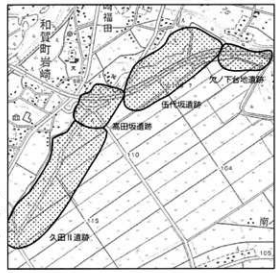
調査地はほぼ全面が削平されており、遺構・遺物は既に失われたと思われるが、一部に遺構が残存していることが確認された。このことから、赤石遺跡の範囲は調査地まで広がっていたと推測される。

（平成24年度、当課が発掘調査を実施済み）



第71図　赤石遺跡調査地点

11　経営体育成基盤整備事業和賀中部第四地区
久田Ⅱ遺跡（ME64－0207）
高田坂遺跡（ME64－2350）
伍大坂Ⅰ遺跡（ME64－2335）
欠ノ下台地遺跡（ME65－2020）
所在地：北上市和賀町岩崎地内
事業者：県南広域振興局農政部農村整備室
調査期日：平成23年11月28日(月)～29日(火)

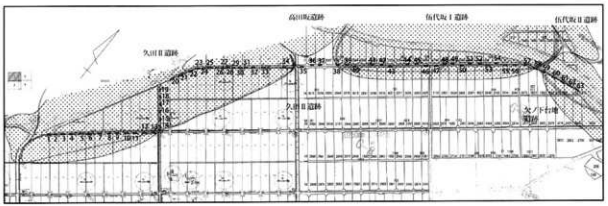


第72図　久田Ⅱ遺跡ほか位置

今回の調査は農業用水パイプライン埋設工事に係るもので、調査地は岩崎地区の既存農道路肩部分である。調査地は和賀川支流の夏油川右岸の台地上である。この台地の縁辺には周知の遺跡が密集している。それらの遺跡は「岩崎台地遺跡群」と総称されており、東北横断自動車道秋田線建設に係り路線内の遺跡群が調査されて、縄文時代から中世までの夥しい遺構・遺物が確認されている。そのうち久田Ⅱ遺跡・伍大坂Ⅰ遺跡・欠ノ下台地遺跡および高田坂遺跡隣接地が今回調査地に含まれている。

合計63箇所のトレンチを設定、掘削した結果、今回調査を実施した現道部分は道路設置時に大部分が削平および盛土されていることが判明した。道路盛土（Ⅰ層）は厚さ0.8～2.2mであり、一部に自然堆積の黒色土（Ⅱ層）が僅かに残るものの、殆どのトレンチでⅠ層直下が地山である黄褐色粘土層（Ⅲ層）・砂礫層（Ⅳ層）となっていた。遺構・遺物ともに全く検出されなかった。

今回調査と同事業に係り22年度に当課直営で発掘調査を行った八天坂遺跡では、台地縁辺側を調査し、古代の竪穴住居跡や土坑等、多数の遺構を検出している（Ⅰ－（9）参照）。今回調査地は同様の台地縁辺ではあるがより奥側に寄っていたためか、予想に反する結果となった。ただし、造成の影響が少ない北側の台地縁に近い部分には、遺構・遺物が多数残存しているものと推測される。



第73図　久田Ⅱ・高田坂・伍代坂Ⅰ・欠ノ下台地遺跡調査地点

12　経営体育成基盤整備事業日形地区

石畑遺跡（OE38－0359）

所在地：一関市花泉町日形地内

事業者：県南広域振興局農政部

一関農村整備センター

調査期日：平成23年10月27日(木)～28日(金)

第74図　石畑遺跡位置

調査地は一関市役所花泉支所の東4km、石畑遺跡の県道21号を挟んだ北側隣接地である。調査地は周知の遺跡ではないが、当事業に係る分布調査の結果、包蔵地である可能性ありと判断されたことから試掘調査を行った。付近は北上川右岸の水田が広がる沖積地であるが、遺跡の載る地形面は南から張り出す丘陵先端の緩斜面地（標高13～16m）で田面より1～2m程度高く、現況は休耕田である。

調査地にトレンチ50箇所を設定した。堆積土層は、水田耕作土（Ⅰ層）、暗褐色土（Ⅱ層）、地山である黄褐色粘土（Ⅲ層）、という層序となっている。各トレンチの堆積土層を見ると、全般的に過去のほ場整備による影響を受けていると思われるが、比較的削平の度合いの軽微な田面で遺構が検出された。検出遺構は、溝跡12条（T2・5・7・9・10・21・22・26・28・33）、土坑５基（T3・9・32・33・37）、柱穴状土坑約30個、焼土等である。遺物はごく少なく、T27のⅡ層から土師器坏の破片が出土したのみである。遺物をともなわないため、各遺構の時期は特定できなかった。ごく僅かに土師器が出土していることから古代に属する可能性もあるが、判然としない。また土坑とした中に、不確かながら近世の井戸跡と推測されるものも含まれており、該期遺構も含まれているものと思われる。

今回調査地は削平を被ってはいるものの、遺構・遺物が遺存していることが確認された。周知の石畑遺跡の範囲が調査地まで広がるものと思われる。

（平成24年度、県埋文センターにより発掘調査を実施済み）

第75図　石畑遺跡調査地点

13　中山間地域総合整備事業西風高瀬地区
下清水遺跡（NF05－1261）
所在地：気仙郡住田町下有住字高瀬地内
事業者：沿岸広域振興局農林部
　　大船渡農林振興センター
調査期日：平成23年12月13日(火)
　　平成24年3月6日(火)～9日(金)

第76図　下清水遺跡位置

下清水遺跡は住田町役場の北北西4.4km、気仙川左岸の段丘面上に立地している。当地区のほ場整備工事に係り分布調査を実施したところ、遺跡範囲およびその周辺隣接地において、数点ではあるが縄文土器片が採取されたため、当該範囲を対象として試掘調査を実施したものである。調査地は西側の気仙川に向かって徐々に下る棚田である。旧地形は西へ向斜する斜面だったものと思われる。

調査地にトレンチ44箇所を設定した。遺跡範囲にあたる標高高い田面（T27～33）では耕作土（Ⅰa層）直下で礫を含む黄褐色砂質土層（Ⅲ層）となるが、西側の低い田面に行くに従って、耕作土直下に盛土整地層（Ⅰb層）が顕著に見られた。一部のトレンチでは、盛土層の下に最大20cmの黒色土層（Ⅱ層）が見られる。なお、整地層はT43－39－46－45のライン付近から急激に厚みを増し、確認した範囲では1.2m以上を測った。この付近が本来の段丘崖にあたり、それ以西は気仙川に沿う氾濫低地で、盛土により嵩上げされたものと推測される。

各トレンチのⅢ層面で遺構の確認を行ったが、全く検出されなかった。また遺物はT11のⅡ層から縄文土器片（後期）が少量出土したのみである。

今回調査の結果、調査地、特にも周知の遺跡範囲は耕作土直下で地山となり、既に著しく削平されて旧表土層は残っていない状況が確認された。表採された土器片は既に原位置を保つものではなく、また一部で見られたⅡ層は造成の際に削られずに僅かに残ったものと考えられる。以上より、遺跡西半については開田によりほぼ壊滅している可能性が高いと思われる。

第77図　下清水遺跡調査地点

14　県南青少年の家職員公舎売却

揚場遺跡（NE05－0356）

所在地：胆沢郡金ヶ崎町　　地内

事業者：岩手県教育委員会事務局教育企画室

調査期日：平成24年2月17日（金）

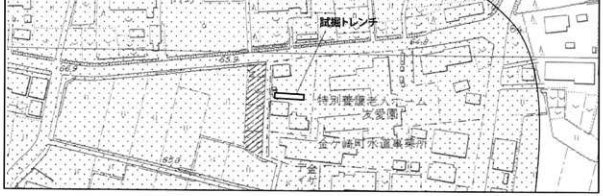
揚場遺跡は金ヶ崎町役場の南西約1.4km、胆沢川との合流点に近い黒沢川左岸段丘面に立地している。

今回の調査は、県南青少年の家職員宿舎敷地の売却および建物新築に係るものである。当地は宿舎建設（昭和56年）時点では遺跡範囲外であり、昭和57年に範囲拡大の形で遺跡範囲に含まれている。今回、宿舎跡地が売却され建物新築が計画される中、当該地が未調査であることが判明したため、売却先の同意を得て急遽試掘を実施したものである。

第78図　揚場遺跡位置

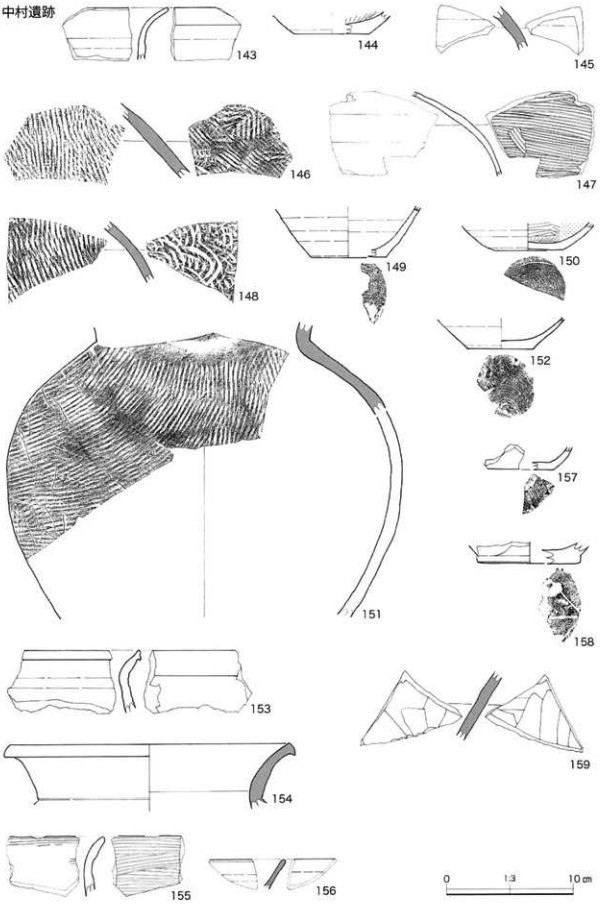
調査地の南側部分は宿舎建物本体が建っていた場所で、調査時点では建物は既に撤去されており更地となっていたが、建物基礎により大きく攪乱されていると予想された。そこで建物の影響が少ないと思われる北側部分（駐車場として使用されていた範囲）にトレンチを設定した。この部分は現状でアスファルト舗装されていたため、重機により舗装を除去した後、掘削を行った。舗装下には平均60cm程度の盛土がなされており、嵩上げされていた。盛土を除去すると旧表土に由来すると思われる黒褐色土層（Ⅱ層）が見られたが、層中には黄褐色粘土ブロックが混入して汚れており、旧地形の自然堆積層ではなく人為的に動かされている様相が認められた。地山の粘土層（Ⅲ層）については、層上面がほぼ平坦な状況であった。これらのことから、調査部分は地山上面まで削剥されており、地山の上に載っているⅠ・Ⅱ層はいずれも盛土層であると思われる。Ⅲ層面で遺構確認を行ったが、検出されなかった。また各層ともに遺物は全く出土しなかった。

今回の調査地は周囲の水田面や畑地よりも一段高い地形面と思われたが、実際には宿舎建設の際の盛土整地地業の所産であり、遺構・遺物を包蔵していた旧地形面は削平により失われていると推測される。

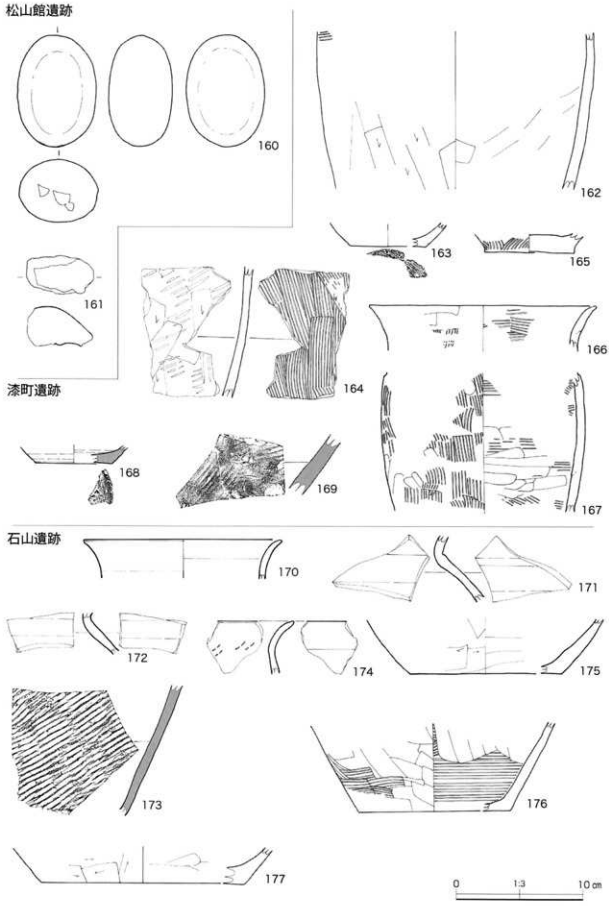


第79図　揚場遺跡調査地点

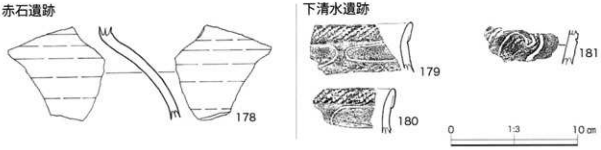
中村遺跡



第80図　試掘調査出土遺物（1）



第81図　試掘調査出土遺物（2）

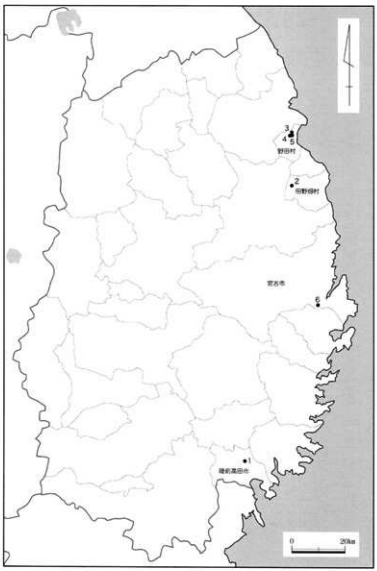


第82図　試掘調査出土遺物（3）

遺物観察表（2）試掘調査

番号	遺跡名	図版	出土地点	層位	種別	器種	特徴	時代	時期	備考
143	中村	91	T 1　住居跡	埋土上面	土師器	甕		平安時代		
144	中村	91	T 1　住居跡	埋土上面	土師器	坏	内面黒色処理。底部再調整。	平安時代		
145	中村	91	T 1　住居跡	埋土上面	須恵器	壺		平安時代		陶器か
146	中村	91	T 1　住居跡	埋土上面	須恵器	大甕	タタキメ。当て具痕。	平安時代		
147	中村	91	T 2　住居跡	埋土上面	土師器	壺	外面に朱彩。	平安時代		
148	中村	91	T 4　住居跡	埋土上面	須恵器	大甕	タタキメ。当て具痕（青海波文）。	平安時代		
149	中村	91	T 7	Ⅱ層下位	土師器	甕	回転糸切痕。	平安時代		
150	中村	91	T 7	Ⅱ層下位	土師器	坏	内面ヘラミガキ、黒色処理。回転糸切、再調整。	平安時代		
151	中村	91	T 7　住居跡	埋土上面	須恵器	大甕	タタキメ。内面強いナデ（ケズリか）。	平安時代		
152	中村	91	T 4　住居跡	埋土上面	土師器	坏	内面黒色処理。回転糸切痕。	平安時代		
153	中村	91	T 4　住居跡	埋土上面	土師器	甕	口縁部が突帯状。	平安時代		
154	中村	91	T 4　住居跡	埋土上面	須恵器	甕	ハケメ。口縁部が突帯状。	平安時代		
155	中村	91	T 7　住居跡	埋土上面	土師器	甕	ハケメ。	平安時代		
156	中村	91	T 8	暗褐色～黄褐色土	須恵器	坏		平安時代		
157	中村	91	T 8	暗褐色～黄褐色土	須恵器	坏	底部に回転糸切痕。	平安時代		
158	中村	91	T 8	暗褐色～黄褐色土	土師器	壺	底部に木葉痕。	平安時代		
159	中村	91	T 8	暗褐色～黄褐色土	須恵器	壺	ケズリ。	平安時代		陶器か
160	松山館	92	T 2	表土	石器	磨石	弱い敲き・磨り痕跡。	縄文時代か		
161	松山館	92	T12	Ⅱ層黒色土	土製品	羽口	比熱により脆弱化。	時期不明		製鉄遺構か
163	諏町	92	T13　土坑	埋土上面	土師器	坏	内面黒色処理。回転糸切痕。	平安時代		
162	諏町	92	T13　住居跡	埋土上面	土師器	甕	外面ヘラケズリ。内面ヘラナデ。	平安時代		
164	諏町	92	T23	Ⅱ層	土師器	甕	内外面ハケメ。	平安時代		
165	諏町	92	T23	Ⅱ層	土師器	甕	ハケメ。底部再調整。	平安時代		
166	諏町	92	T46	Ⅱ層	土師器	甕	ヘラナデ。ハケメ。	平安時代		
167	諏町	92	T46	Ⅱ層	土師器	甕	内外面ともハケメ→ナデ。	平安時代		
168	諏町	92	田区 65-2	攪乱	須恵器	坏	底部に回転糸切痕。	平安時代		
169	諏町	92	T49	Ⅱ層	須恵器	甕	タタキメ。	平安時代		陶器か
170	石山	92	T 1　土坑	埋土上面	土師器	甕	磨滅。	平安時代		
171	石山	92	T 3	Ⅱ層	陶器	壺	ロクロメ。	中世		常滑産か
172	石山	92	T 3	Ⅱ層	陶器	壺	ロクロメ。外面に自然釉。	中世		常滑産か
173	石山	92	T 3	Ⅱ層	須恵器	大甕	タタキメ。	平安時代		
174	石山	92	T 6　土坑	埋土上面	土師器	甕		平安時代		
175	石山	92	T 6　土坑	埋土上面	土師器	甕	表面が調溶。	平安時代		
176	石山	92	T 6　土坑	埋土上面	土師器	甕	ハケメ、ナデ。	平安時代		
177	石山	92	T12	盛土層	土師器	甕	ヘラケズリ。	平安時代		
178	赤石	93	T2	1層	陶器	壺	ロクロメ。	中世		常滑産か
179	下清水	93	T12	B1河道埋土	縄文土器	深鉢	沈線文、磨り消し、地文LR。	縄文時代	後期	
180	下清水	93	T12	B1河道埋土	縄文土器	深鉢	沈線文、磨り消し、地文LR。	縄文時代	後期	
181	下清水	93	T12	B1河道埋土	縄文土器	深鉢	沈線文、磨り消し、無節L。	縄文時代	後期	

Ⅲ　市町村支援



市町村支援
1　本宿館遺跡（陸前高田市）
2　田代タテ遺跡（田野畑村）
3　新館遺跡（野田村）
4　中平遺跡（野田村）
5　大平野遺跡（野田村）
6　荷竹目向１遺跡（宮古市）

平成23年度、当教育委員会では、震災・津波により被災した陸前高田市、田野畑村、野田村、宮古市からの要請を受けて、埋蔵文化財調査の支援を行った。

陸前高田市では、市の埋蔵文化財保護に長く携わった専門職員が津波の犠牲となった。市では震災前の平成22年度から神社移設工事に係る本宿館遺跡の発掘調査を実施しており、23年度も調査継続予定となっていた。市教委では嘱託調査員１名が調査を担当することとしたが、開発事業に係る埋蔵文化財の調整についても対応せざるを得ず、発掘調査に専従できない状況であった。田野畑村では、学芸員１名が埋蔵文化財を担当してきたが、震災後に退職したため担当者不在となった。そんな中、村道改築にともない工事予定範囲に含まれる周知の遺跡について試掘調査を行う必要が生じたが、村教委では対応できない状況であった。野田村は震災前から専門職員が未配置であり、平成21～22年には村事業にともなう中平遺跡の発掘調査について調査支援を実施してきた経緯がある。震災後、一般住宅建設や集落高台移転計画等にともなって試掘調査を実施する必要が生じたため、当教育委員会へ支援要請があった。宮古市では、震災後、個人の一般住宅建設に係る試掘調査が増加し、市教委で対応しきれない状況となったため、当教育委員会が調査支援を行った。

1　神社社殿移設工事

本宿館（横田城）遺跡（NF46－2272）

所在地：陸前高田市横田町字本宿地内

事業者：（陸前高田市教育委員会）

調査期日：平成23年5月16日（月）～6月16日（木）

第83図　本宿館遺跡位置

本宿館遺跡は陸前高田市役所の北北西約5.6km、気仙川左岸の氾濫平野へと張り出す舌状丘陵地に立地している。遺跡は中世の城館跡とされており、現況の地形観察により複数の平場とその周囲に配される空堀・土塁と思われる痕跡が見られる。当遺跡の西端付近の小規模な平場面にある熊野神社社殿の移設計画にともなって、移設先の造成工事が行われるため、陸前高田市教育委員会は当該部分について発掘調査が必要と判断し発掘調査を実施した。調査は年度内に終了せず、平成23年度に継続調査となったが、市教委が震災によって充分な調査体制がとれない状況に陥ったため、当課が約１ヶ月にわたって支援を行った。

調査地は神社東側の一段高い平場面とそれに連続する南向き緩い斜面である。調査の結果、平場面の奥側に空堀が検出された。また、堀外側には堀に沿う土塁状の礫の積み上げ（石塁？）が検出された。平場面では柱穴群が確認され、「石塁」の下にも柱穴が見られたことから、当該「石塁」はより新しいものと判断される。柱穴や「石塁」は遺物を伴わないため、具体の時期判断が難しい。柱穴は城館にともなう遺構と思われ、中世まで遡ると思われるが、「石塁」は城館に関わる遺構かどうか不明である。また、緩斜面には大規模な掘削痕が多数あるが、城館にともなうものではなく、近世以降の採掘跡と推測される。

2　社会資本総合交付金事業村道沼袋田代線改良工事

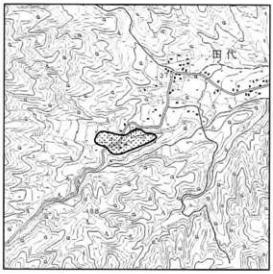
田代タテ遺跡（KG10－2323）

所在地：下閉伊郡田野畑村田代地内

事業者：田野畑村

調査期日：平成23年9月8日(木)

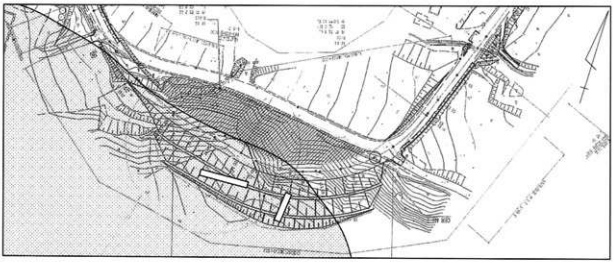
田代タテ遺跡は田野畑村役場の東南東約7.5㎞、田野畑村北部の田代地区に所在している。今回の調査は村道改築工事に係るもので、工事範囲が遺跡東端付近にかかることから村教育委員会からの調査依頼を受けて実施したものである。調査地は現村道の南側隣接地であるが、遺跡は標高400～405mの丘陵上に所在しており、調査地付近では現道から10m以上高い面に載っている。調査地はかつて畑地として利用されていたが、現況では草地となっている。



第84図　田代タテ遺跡位置

工事により切土される遺跡東端の緩斜面部にトレンチ２箇所を設定した。基本層序は、Ⅰ層：暗褐色土（層厚20㎝）、Ⅱ層：黄褐色土（層厚不明。花崗岩礫が少量混入。地山）となっている。掘削の結果、薄い表土の直下で地山面が露出した。地山面では遺構は確認されず、遺物も出土しなかった。

当遺跡については村教育委員会の分布調査で縄文時代（前期～晩期）の土器・石器が採取されており、遺物から判断すると比較的長期にわたる遺跡であると推測されるが、今回の調査では埋蔵文化財は確認されなかった。遺跡の中心は今回調査地より西側の丘陵奥側にあるものと思われる。



第85図　田代タテ遺跡調査地点

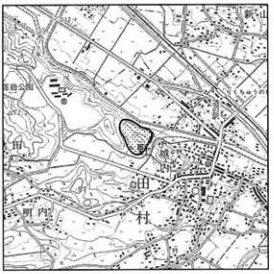
3　高台移転予定地

新館遺跡（JG50－2327）

所在地：九戸郡野田村大字野田字場内地内

事業者：野田村

調査期日：平成24年1月31日(火)

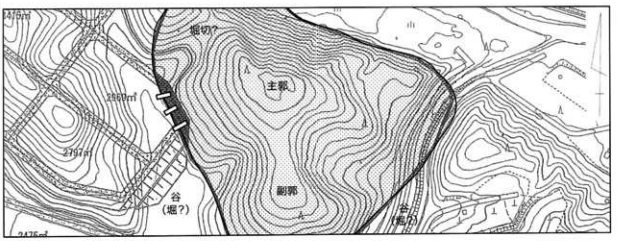


第86図　新館遺跡位置

新館遺跡は野田村役場の北西約0.5kmに位置する。遺跡は宇部川に沿って東へと舌状に張り出す丘陵部に所在する。丘陵は南西から抉入する谷により３つに分割されているが、そのうち中央に位置する丘陵が城館跡であると考えられている。当遺跡は、天正20（1592）年の「南部大膳大夫分国之内諸城破却書上之事」に記された破却される城名の中に見える「野田城」の擬定地の一つとされている。「新館」という呼称は、もともと南の字三日市場地内の「古館」に拠っていた野田領主が、城破り後に当地に移った、との伝承による。

今回の調査は震災復興に係る高台移転予定地の造成工事範囲が遺跡の一部に及ぶため、当該範囲について試掘を実施したものである。調査対象は、遺跡西側を区切る谷の法面部分である。谷は南側から丘陵基部から断ち切る形で抉入しており、この谷自体は自然の地形と捉えられるが、谷の法面が普請による人為的な急斜面（切岸）であるか、また斜面に城館に関連する遺構がないか等について確認した。調査地の堆積土は、Ⅰ層：表土（層厚10～20cm）、Ⅱ層：褐色土（30cm。礫を多く含む。斜面上部からの崩落土か）、Ⅲ層：黄褐色土（層厚不明。地山）、Ⅳ層：岩体（層厚不明。地山）、という層序を示している。谷の法面にトレンチ３箇所を設定したところ、薄い表土層や斜面崩落土の下位に、地山の粘土層または岩体が確認された。普請の痕跡は見られず、城館に関係する遺構は確認されなかった。この状況からみて、今回調査範囲の急斜面は人為的なものではなく自然地形であると推測される。なお、遺物は全く出土しなかった。以上から工事による遺跡への影響はないと判断した。

※平成24年度、域内地区の高台移転計画が変更され、当初は工事範囲から外れていた、主郭を含む城館のほぼ全域が工事される形となった。当課では計画変更に対応して再度の試掘調査を実施し、その結果を承けて主に頂部平場について発掘調査を実施した。



第87図　新館遺跡調査地点

4　一般住宅建設

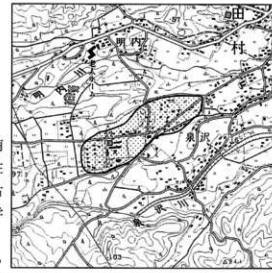
中平遺跡（JG60－0258）

所在地：九戸郡野田村野田第22地割ほか

事業者：個人

調査期日：平成23年5月20日(金)、8月8日(火)

平成24年2月8日(水)



第88図　中平遺跡位置

中平遺跡は九戸郡野田村の北東部、野田村役場の南西約1.8㎞、明内川と泉沢川に挟まれた台地上に所在している。当遺跡は昭和20年代の発掘調査の結果、古代の大規模集落跡であると推測され、一部（野田中学校の西側隣接地）は昭和29年に県史跡に指定された。当遺跡については、村事業（公共下水道整備）にともなって当課が試掘・発掘調査を実施し、竪穴住居跡や土坑等の遺構を検出している。今回の試掘調査は、遺跡内で一般住宅の建設が計画されたことにともない、野田村教育委員会からの依頼を受けて代行したもので、合計３地点で実施した。

調査地①：野田中学校の西側に隣接する宅地である。周辺は既に区画整理されており、南側２区画目が調査地③である。トレンチ５箇所を設定したが、いずれのトレンチでも表土直下で暗褐色の地山が見られた。遺構・遺物は確認されなかった。

調査地②：遺跡の西側、野田中学校と村道を挟んで北側に隣接する畑地497㎡である。現況は宅地および畑地で、一部には建物のコンクリート基礎が残存している。住宅建設予定部分を中心に、トレンチ５箇所を設定した。土層の堆積状況を見ると、旧表土（黒褐色土、10～20㎝）がごく薄く、漸移層を挟んで地表下25～35㎝で地山が露出する。調査の結果、土坑１基が検出されたが、ビニール片を含むもので現代のゴミ焼き穴と判明した。他に遺構と推測される痕跡は検出されず、遺物も全く出土しなかった。

調査地③：野田中学校の西側に隣接する宅地で、調査区①の２区画北側にあたる575㎡である。トレンチ４箇所を設定したところ、表土下で最大50㎝程の盛土層が確認された。盛土は北西方向で厚みを増しており、黄褐色砂質土の地山が北西側の谷に向けて落ち込んでいる状況が見られ、現地形が造成によるものであると判明した。盛土層から縄文土器数点が出土したのみで、他の遺構・遺物は検出されなかった。

今回調査した３地点ともに、程度に差はあれ地形改変を被っており、遺構・遺物は殆ど検出されなかった。

第89図　中平遺跡調査地点

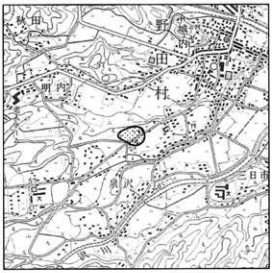
5　保育所建設予定地

大平野遺跡（JG60－0306）

所在地：九戸郡野田村野田第15値割ほか

事業者：野田村

調査期日：平成23年8月9日(火)

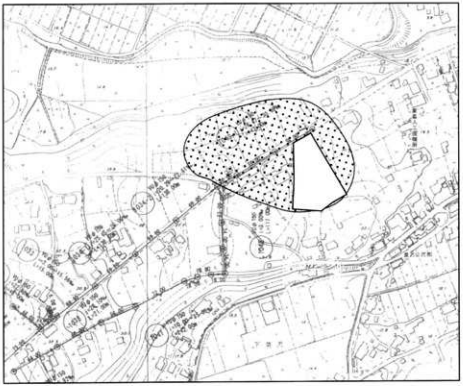


第90図　大平野遺跡位置

大平野遺跡は九戸郡野田村の北東部、野田村役場の南西約0.7㎞、明内川と泉沢川に挟まれた台地上に所在している。当遺跡の西側には、県史跡野田竪穴住居跡群を含む中平遺跡が隣接しているが、当遺跡の載る地形面は中平遺跡より僅かに低い面である。当遺跡については、公共下水道管理設や村道拡幅工事に係り発掘調査が実施されており、陥し穴や土坑・溝跡等が検出されている。今回の試掘調査は、遺跡内で保育所建設が計画されたことにともない、野田村教育委員会からの依頼を受けて実施したものである。調査地は遺跡中央付近、村道南側に隣接する草地である。調査地は北側がやや高く、中央から南側へと緩やかに傾斜している。なお、北側には立木が多数残っていたため、当該部分については掘削可能な範囲で調査を行った。

調査地全体にトレンチ16箇所を設定した。層序は、Ⅰ層：表土（層厚20～40cm。草根多量に混入）、Ⅱ層：黒褐色土（0～30cm。地山ブロック多量に包含し、南側斜面下方で見られる。人為層か）、Ⅲ層：黒褐色～黒色土（0～20cm。北側村道脇付近で見られる）、Ⅳ層：黄褐色粘質土（層厚不明。地山）となっているが、全般に調査地の土層堆積は浅く、基本的に表土直下がⅣ層（地山）という様相であった。南側のT12～16で整地層（Ⅱ層）、北辺付近で自然堆積層（Ⅲ層）がそれぞれ見られることから、調査地が地形改変されていることがわかる。

調査の結果、T２で竪穴住居跡が検出された。検出面が表土下約20cm程度と浅かったため、検出時にほぼ床面付近まで掘り下げてしまったが、床面と思われる面で炭化材や焼土が確認された。焼失住居と思われる。埋土から土師器・須恵器の小片が少量出土しており、平安時代に属するものと推測される。一方、T４・６・11で土

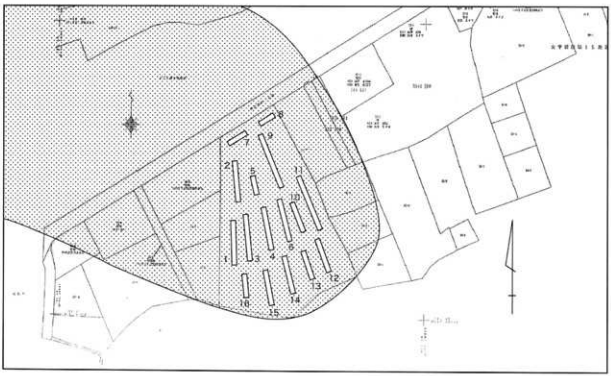


第91図　大平野遺跡調査地点

坑、T３・６・10・11で陥し穴がそれぞれ検出された。土坑は径50～80㎝の円形を呈するもので、時期不明である。また陥し穴は幅25～60㎝の溝状を呈しており、その形態から縄文時代に属するものと推測される。なお、南側（斜面下方）のT12～16では遺構は検出されなかった。

調査の結果、北側の微高位面に住居跡・土坑等の遺構が存在するが、緩斜面下方では次第に希薄となっていくことが判明した。中平遺跡から連続する古代集落の広がりは今回調査地の北側にまで及んでいると思われる。

（平成23年度、当課直営で発掘調査を実施済み）



第92図　大平野遺跡試掘トレンチ位置

6　一般住宅建設

荷竹日向Ⅰ遺跡（LG63－0231）

所在地：宮古市津軽石第16地割荷竹日向地内

事業者：個人

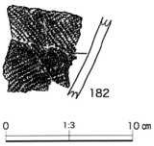
調査期日：平成23年9月12日(月)～9月14日(水)

荷竹日向Ⅰ遺跡は宮古市役所の南南西約9.3km、北東へと流れる七田川左岸の丘陵裾の緩斜面部分に立地している。調査は個人住宅建設に係る試掘であるが、宮古市教育委員会からの支援要請を受けて当課が調査を実施したものである。住宅用地全体にトレンチを設定して掘削した。調査地は遺跡南西側にあたり、現況は畑地である。調査地には表土（Ⅰ層）直下で黒色土の厚い堆積（Ⅱ層）が見られる。斜面下方（南東側）ではⅡ層直下に淡黄色のパミスが厚い層をなしていた（Ⅲ層）。当該パミスは中掫浮石に相当するものと思われる。パミス層の下は、黒褐色土（Ⅳ層）を挟んで黄褐色土の地山（Ⅴ層）となる。

第93図　荷竹日向Ⅰ遺跡位置

調査の結果、縄文時代と推測される陥し穴状遺構２基が検出された。２基ともに溝状の陥し穴である。検出面はⅤ層上面である。より上位層から掘り込まれていたと思われるが確認できなかった。また、当遺跡の別地点で市教育委員会が実施した調査において縄文時代早期の遺物が出土していることから、Ⅳ層で縄文時代前期以前の遺物が出土すると予想されたが、出土しなかった。

調査成果からみて、今回調査地は縄文時代の狩り場だったと推測される。



遺物観察表（３）市町村支援

番号	遺跡名	図版	出土地点	層位	種別	器種	特徴	時代	時期	備考
182	中平	95	調査地③	盛土	縄文土器	深鉢	井結束羽状縄文。	縄文時代	前期	

第94図　市町村支援関連調査出土遺物

調査一覧

（1）発掘調査

※ アミフセ部分はⅠ・Ⅲ章で記載したもの

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地	検出遺構
1	平成23年4月25日～27日	一般県道南笹間黒沢尻線 滑田地区歩道設置工事	県南広域振興局土木部 北上土木センター	鳩岡崎下通遺跡	北上市	土坑3、柱穴1、土師器
2	平成23年8月3日～5日	畑地帯総合整備事業 (担い手育成型)	県北広域振興局農政部二戸農林 振興センター農村整備室長	土川Ⅱ遺跡	二戸市	竪穴住居1、柱穴4、縄文土器
3	平成23年8月23日～26日	津付ダム建設事業	沿岸広域振興局土木部 大船渡土木センター 津付ダム建設事務所	子飼沢高炉跡	住田町	土坑2
4	平成23年9月26日～28日	畑地帯総合整備事業 (担い手育成型)	県北広域振興局農政部二戸農林 振興センター農村整備室	上平田遺跡	二戸市	土坑2、縄文土器、石器
5	平成23年10月11日～14日	経営体育成基盤整備事業 和賀中部六原地区	県南広域振興局農政部 農村整備室	可能性あり ①～③	金ヶ崎町	なし
6	平成23年11月1日～2日	経営体育成基盤整備事業 古城第2期地区	県南広域振興局農政部 農村整備室	古城林遺跡	奥州市	溝1
7	平成24年1月23日～2月8日	保育園舎建設工事	野田村	大平野遺跡	花巻市	竪穴住居、土坑、柱穴、溝、土師器
8	平成24年2月29日～3月1日	経営体育成基盤整備事業 古城第2期地区	県南広域振興局農政部 農村整備室	古城林遺跡	奥州市	柱穴
9	平成24年3月12日～14日	やさわの園整備事業	保健福祉部 障がい保健福祉課	中野A遺跡	花巻市	縄文土器

（2）試掘調査

※アミフセ部分はⅡ・Ⅲ章で記載したもの

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地
1	平成23年5月9日	鶏舎建設	住田フーズ	すい沢遺跡	住田町
2	平成23年5月11日	一般国道45号　高田道路	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所	可能性あり①、②	陸前高田市
3	平成23年5月20日	一般住宅建設	個人	中平遺跡	野田村
4	平成23年5月26日	畑地帯総合整備事業（担い手支援型）	県北広域振興局農政部二戸農林振興センター 農村整備室	大畑田遺跡隣接地	一戸町
5	平成23年5月26日	畑地帯総合整備事業（担い手支援型）	県北広域振興局農政部二戸農林振興センター 農村整備室	土川Ⅱ遺跡隣接地	二戸市
6	平成23年6月20日	河川総合開発事業（津付ダム建設事業）	沿岸広域振興局土木部大船渡土木センター 津付ダム建設事務所	子飼沢Ⅰ遺跡隣接地	住田町
7	平成23年6月20日	北上川中流部治水対策事業（立花地区）	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	立花南遺跡	北上市
8	平成23年6月21日	一般国道46号盛岡西バイパス	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	松島遺跡隣接地	盛岡市
9	平成23年6月27日	総合流域防災事業	盛岡広域振興局土木部	百目木遺跡隣接地	盛岡市
10	平成23年6月27日	地方特定道路整備事業	県南広域振興局土木部花巻土木センター	三坊木館遺跡 黒岩城跡隣接地	北上市
11	平成23年6月30日	一般国道4号水沢東バイパス	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	瀬之堂遺跡	奥州市
12	平成23年7月7日～8日	東北横断自動車道釜石秋田線	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	新里間木野遺跡	遠野市
13	平成23年7月12日～13日	砂利採取計画	葛巻町教育委員会教育	五日市遺跡	葛巻町
14	平成23年7月15日	経営体育成基盤整備事業　都鳥3期地区	県南広域振興局農政部農村整備室	作屋敷遺跡	奥州市
15	平成23年7月19日～20日	一関遊水地事業（磐井川堤防改修）	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	可能性あり①	一関市
16	平成23年7月28日	緊急地方道路整備事業	県南広域振興局土木部遠野土木センター	宮野目Ⅱ・上宮野目遺跡隣接地	遠野市
17	平成23年8月8日	一般住宅建設	個人	中平遺跡	野田村
18	平成23年8月9日	保育所建設	野田村教育委員会教育	大平野遺跡	野田村
19	平成23年8月19日	地域連携道路整備事業一般国道282号 西根バイパス	盛岡広域振興局土木部岩手土木センター	東部落Ⅱ遺跡隣接地	八幡平市
20	平成23年9月8日	社会資本総合交付金事業 (村道沼袋田代線改良工事)	田野畑村教育委員会教育	田代タテ遺跡	田野畑村
21	平成23年9月12日～14日	一般住宅建設	宮古市教育委員会	磯竹日向Ⅰ遺跡	宮古市
22	平成23年9月20日	個人住宅新築	藤沢町教育委員会	新町塚	藤沢町
23	平成23年9月28日	地域連携道路整備事業	県南広域振興局土木部遠野土木センター	柄内野崎遺跡	遠野市
24	平成23年10月3日	簗川ダム建設事業	盛岡広域振興局土木部簗川ダム建設事務所	細野A遺跡	盛岡市
25	平成23年10月3日～4日	北上川上流流域下水道事業　雫宿幹線築造3・4工区（管渠工）工事	北上川上流流域下水道事務所	戸沢遺跡、戸沢館跡遺跡	雫石町
26	平成23年10月7日	一般国道45号　高田道路	国土交通省東北整備局三陸国道事務所長	可能性あり①	陸前高田市
27	平成23年10月11日	古舘地区予防治山事業	県南広域振興局農政部花巻農林振興センター	大迫城遺跡	花巻市
28	平成23年10月19日	経営体育成基盤整備事業　和賀中部第四地区	県南広域振興局農政部北上農村整備センター	南部領伊達領境塚	北上市

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地
29	平成23年10月21日	経営体育成基盤整備事業　夏川3期地区	県南広域振興局農政部一関農村整備センター	涌ヶ崎遺跡	一関市
30	平成23年10月24日～26日	経営体育成基盤整備事業	県南広域振興局農政部農村整備室	藤町遺跡 二本木遺跡 可能性あり	奥州市
31	平成23年10月27日～28日	経営体育成基盤整備事業	県南広域振興局農政部一関農村整備センター	可能性あり①	一関市
32	平成23年10月27日～28日	地域連携道路整備事業一般国道106号 宮古西道路	沿岸広域振興局土木部宮古土木センター	松山館遺跡	宮古市
33	平成23年10月31日	一般県道清水野村崎野線飯豊地区 歩道整備事業	県南広域振興局土木部北上土木センター	中大堰川遺跡および隣接地	北上市
34	平成23年10月31日 11月8日	主要地方道一関北上線荒谷地区 道路改良工事	県南広域振興局土木部	荒谷遺跡 可能性あり②	奥州市
35	平成23年11月1日	経営体育成基盤整備事業　古城2期地区	県南広域振興局農政部農村整備室	古城林遺跡 可能性あり②	奥州市
36	平成23年11月2日	経営体育成基盤整備事業　裏新田地区	県南広域振興局農政部農村整備室	霞ヶ森B遺跡 可能性あり①～③	奥州市
37	平成23年11月7日～8日	一般国道45号　吉浜道路	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所	中井遺跡	大船渡市
38	平成23年11月9日	一般国道45号　高田道路	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所	瓜畑遺跡	陸前高田市
39	平成23年11月10日	防火水槽整備事業	田野畑村	浜岩泉II遺跡	田野畑村
40	平成23年11月10日	村道沼袋7号線道路改良舗装事業	田野畑村	坂の下遺跡	田野畑村
41	平成23年11月11日	平成23年度戸別所得補償円滑化基盤事業 二戸広域第2地区	県北広域振興局農政部二戸農林振興センター 農村整備室	可能性あり①、②	一戸町
42	平成23年11月14日	中山間地域総合整備事業	盛岡広域振興局農政部農村整備室	寺田遺跡隣接地	葛巻町
43	平成23年11月14日	経営体育成基盤整備事業 和賀中部第四地区	県南広域振興局農政部北上農村整備センター	南部領伊達領境塚	北上市
44	平成23年11月15日～16日	北上川中流部治水対策事業（二子地区）	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	中村遺跡	北上市
45	平成23年11月16日 11月28日～29日	経営体育成基盤整備事業 和賀中部第四地区	県南広域振興局農政部北上農村整備センター	三十人町I遺跡 三十人町II遺跡 久田II遺跡 高田坂遺跡隣接地 佐大坂I遺跡 矢ノ下台地遺跡	北上市
46	平成23年11月21日～22日	経営体育成基盤整備事業	県南広域振興局農政部農村整備室長	石山遺跡	奥州市
47	平成23年11月24日	経営体育成基盤整備事業 和賀中部六原地区	県南広域振興局農政部農村整備室長	可能性あり③	金ヶ崎町
48	平成23年11月25日～29日	経営体育成基盤整備事業	県南広域振興局農政部農村整備室長	赤石遺跡隣接地 可能性あり⑫、⑯、⑰、⑱、⑳	金ヶ崎町
49	平成23年12月5日	一般国道4号　盛岡北道路	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	穴口遺跡及び隣接地 狼久保III遺跡	盛岡市
50	平成23年12月7日	中山間地域総合整備事業	県南広域振興局農政部北上農村整備センター	西部遺跡	花巻市
51	平成23年12月12日	畑地帯総合整備事業（担い手支援型）	県北広域振興局農政部二戸農林振興センター 農村整備室	大加口遺跡 上家向遺跡	一戸町
52	平成23年12月13日	中山間地域総合整備事業西風高瀬地区	沿岸広域振興局農林部大船渡農林振興センター	下清水遺跡	住田町
53	平成23年12月14日	一般国道46号七ッ森遺跡事業	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	七ッ森遺跡	雫石町
54	平成23年12月14日	経営体育成基盤整備事業（通作条件整備型）	沿岸広域振興局農林部大船渡農林振興センター	神の沢II遺跡 上細根遺跡 新田III遺跡 新堀遺跡	陸前高田市
55	平成23年12月21日、27日	災害公営住宅整備事業	県土整備部建築住宅課	吉里吉里II遺跡 および隣接地	大槌町
56	平成24年1月16日	一般国道45号　高田道路	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	可能性あり①	陸前高田市
57	平成24年1月18日	経営体育成基盤整備事業　古城2期地区	県南広域振興局農政部農村整備室	古城林遺跡	奥州市
58	平成24年1月19日	地域自主戦略事業（交通安全） 一般県道前沢東山線	県南広域振興局土木部	田高II遺跡	奥州市
59	平成24年1月31日	高台移転予定地	野田村教育委員会	新館遺跡	野田村
60	平成24年2月8日	一般住宅建設	野田村教育委員会	野田堅穴遺跡	野田村
61	平成24年2月14日	地域特定道路整備事業　楢ノ木～射葛地区	沿岸広域振興局土木部岩泉土木センター	可能性あり④	岩泉町
62	平成24年2月16日	中山間地域総合整備事業　中居地区	県南広域振興局農政部北上農村整備センター	下中居I遺跡 下中居III遺跡隣接地	花巻市
63	平成24年2月17日	県南青少年の家職員公舎売却	県教育委員会教育企画室	揚場遺跡	金ヶ崎町
64	平成24年2月29日	一般国道45号　吉浜道路	国土交通省東北整備局三陸国道事務所	吉浜城遺跡	大船渡市
65	平成24年3月6日～9日	中山間地域総合整備事業西風高瀬地区	沿岸広域振興局農林部大船渡農林振興センター	下清水遺跡	住田町
66	平成24年3月26日	東北横断自動車道釜石秋田線	国土交通省東北整備局三陸国道事務所	不動ノ滝遺跡	釜石市

（3）分布調査

1　緊急地方道路整備事業主要地方道花巻北上線島地区　　県南広域振興局土木部花巻土木センター

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1	ME36-0218	高木中館遺跡	縄文・古代		散布地	花巻市東十二丁目地内	平成 23 年 4 月 19 日	周知
2		高木中館遺跡隣接				花巻市東十二丁目地内	平成 23 年 4 月 19 日	
3	ME36-2377	大木遺跡	縄文・古代		散布地	花巻市東十二丁目地内	平成 23 年 4 月 19 日	周知

2　一関遊水地事業（第2管理用通路）　　国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1	NE76-1279	館岡Ⅱ遺跡	縄文・中近世		散布地、城館跡	平泉町長島字館岡	平成 23 年 5 月 10 日	周知
2	NE76-1279	館岡Ⅱ遺跡隣接地				平泉町長島字館岡	平成 23 年 5 月 10 日	可能性あり
3	NE76-1383	小島館遺跡	縄文・中近世	縄文土器・土師器・主郭・堀	城館跡	平泉町長島字古館	平成 23 年 5 月 10 日	周知

3　集落基盤整備事業（地域用水型）　　盛岡広域振興局農政部農村整備室

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1	LE15-1160	太田郷夷森古墳群	奈良		古墳、散布地	盛岡市上太田地内	平成 23 年 5 月 16 日	
2	LE15-2317	志渡城跡	平安	土師器片	城館跡	盛岡市下太田地内	平成 23 年 5 月 16 日	
3	LE16-2081	上越場Ａ遺跡	古代		集落跡	盛岡市本宮地内	平成 23 年 5 月 16 日	

4　集落基盤整備事業（地域用水型）　　盛岡広域振興局農政部農村整備室

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1	LE15-0188	櫛田遺跡	平安		散布地	盛岡市上太田地内	平成 23 年 5 月 16 日	
2	LE15-1239	上野屋敷遺跡	古代		散布地	盛岡市上太田地内	平成 23 年 5 月 16 日	
3	LE15-0292	松ノ木遺跡	平安		集落跡	盛岡市上太田地内	平成 23 年 5 月 16 日	

5　集落基盤整備事業（地域用水型）　　盛岡広域振興局農政部農村整備室

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1						岩手町沼宮内地内他	平成 23 年 6 月 7 日	

6　一級河川横川筋治水施設整備事業　　県南広域振興局土木部北上土木センター

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1						西和賀町沢内字只沢地内	平成 23 年 5 月 27 日	

7　広域河川改修事業一級河川北上川　　盛岡広域振興局土木部岩手土木センター

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1						岩手町沼宮内地内他	平成 23 年 6 月 7 日	

8　緊急地方道路整備事業　　盛岡広域振興局土木部岩手土木センター

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1						八幡平市竜ヶ森地内	平成 23 年 6 月 7 日	

9　北上川狭隘地区治水対策事業　　国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1						藤沢町小日形地区	平成 23 年 6 月 21 日	

10　森林管理道畑編線開設工事、森林管理道鈴峠1号線開設工事　　盛岡広域振興局林務部

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1						葛巻町田部・葛巻町江刈	平成 23 年 6 月 22 日	

11　中山間地域総合整備事業江刈地区　　盛岡広域振興局農政部農村整備室

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1						葛巻町江刈地内	平成 23 年 6 月 22 日	

12　経営体育成基盤整備事業（通作条件整備型）　　沿岸広域振興局農林部大船渡農林振興センター

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考

1	NF57-1003	仲の沢Ⅱ遺跡	縄文		散布地	陸前高田市竹駒町地内	平成23年6月28日	周知
2	NF57-1041	上細根遺跡	縄文・弥生		散布地	陸前高田市竹駒町地内	平成23年6月28日	周知
3	NF57-1010	新規				陸前高田市竹駒町地内	平成23年6月28日	新規
4	NF56-1308	新田畑遺跡隣接地	縄文		散布地	陸前高田市竹駒町地内	平成23年6月28日	周知
5	NF56-0388	北平遺跡	縄文		散布地	陸前高田市竹駒町地内	平成23年6月28日	周知

13　経営体育成基盤整備事業（通作条件整備型）　　沿岸広域振興局農林部大船渡農林振興センター

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1	MF86-0064	新田山Ⅰ遺跡	縄文		散布地	住田町上有住新田山開拓地地内	平成23年6月29日	周知
2	MF86-0081	新田山Ⅱ遺跡	縄文		散布地	住田町上有住新田山開拓地地内	平成23年6月29日	周知
3	MF86-0396	新田山Ⅲ遺跡	縄文		散布地	住田町上有住新田山開拓地地内	平成23年6月29日	周知
4	MF86-1084	老の洞遺跡	縄文		散布地	住田町上有住新田地内	平成23年6月29日	周知

14　道路環境改善事業（防雪、凍雪害防止）　　県南広域振興局土木部北上土木センター

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1		可能性あり				西和賀町且沢地内	平成23年7月1日	

15　経営体育成基盤整備事業（六原地区）　　県南広域振興局農政部農村整備室

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1	ME75-2156	上大谷地遺跡隣接地	奈良・平安	須恵器・土師器片		北上市相去町字上大谷地	平成23年7月4日～7日	
2	ME84-0363	新館遺跡隣接地				金ヶ崎町六原字新館地内	平成23年7月4日～7日	
3	ME85-0055	掘平遺跡隣接地				金ヶ崎町六原字掘平地内	平成23年7月4日～7日	
4	ME85-0191	二ノ町遺跡隣接地				金ヶ崎町六原字二ノ町	平成23年7月4日～7日	
5	ME85-0125	上井遺跡隣接地				北上市相去町字上井	平成23年7月4日～7日	
6	ME85-0188	前神沢遺跡隣接地				北上市相去町字前神沢	平成23年7月4日～7日	
7	ME85-1059	近所森館遺跡隣接地				金ヶ崎町六原字堂所森遺下	平成23年7月4日～7日	
8	ME85-1041	赤石遺跡及び隣接地	奈良・平安		散布地	金ヶ崎町六原字赤石地内	平成23年7月4日～7日	周知
9		可能性あり9		須恵器・土師器片		金ヶ崎町六原字上ノ町	平成23年7月4日～7日	
10		可能性あり10		須恵器片		北上市相去町上大谷地	平成23年7月4日～7日	
11		可能性あり11				金ヶ崎町六原字内ノ町	平成23年7月4日～7日	
12		可能性あり12				金ヶ崎町六原字二ッ森	平成23年7月4日～7日	
13		可能性あり16				金ヶ崎町六原字穴持	平成23年7月4日～7日	
14		可能性あり17				金ヶ崎町六原字二ノ町	平成23年7月4日～7日	
15		可能性あり18				金ヶ崎町六原字平道下	平成23年7月4日～7日	
16		可能性あり19				北上市相去町字上井	平成23年7月4日～7日	
17		可能性あり20		土師器・須恵器片		金ヶ崎町六原字赤坂	平成23年7月4日～7日	

16　治山事業重染寺地区　　県南広域振興局林務部

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1						奥州市江刺区重染寺地内	平成23年7月19日	

17　地域づくり緊急改善事業緒帯地区　　県北広域振興局土木部二戸土木センター

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1						一戸町姥帯地内	平成23年8月5日	

18　除雪機械等整備事業一般国道106号区界地区除雪機械格納車敷地造成　　沿岸広域振興局土木部宮古土木センター

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1						宮古市区界地内	平成23年8月8日	

19　一般国道106号　都南川目道路　　国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

No.	遺跡コード	遺跡名	時代・遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1	LE-27-1168	新道Ⅰ遺跡	縄文・古代	集落跡	盛岡市手代森第6地割新道地内	平成23年8月8日	周知
2	LE-28-1021	田ノ沢Ⅱ遺跡	縄文	散布地	盛岡市川目第8地割地内	平成23年8月8日	周知

20　平成23年度戸別所得補償実施円滑化基盤整備事業　　社団法人岩手県農業公社

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1		可能性あり①				一戸町西田子地内	平成23年8月9日	
2		可能性あり②				一戸町西田子地内	平成23年8月9日	

21　経営体育成基盤事業石山地区　　県南広域振興局農政部農村整備室

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1	NE18-0111	石山遺跡隣接地	古代	須恵器　敷点	散布地	奥州市江刺区田原字大日前地内	平成23年8月10日	
2	MF17-0347	御免遺跡隣接地	縄文	須恵器　敷点	散布地	奥州市江刺区田原字御免地内	平成23年8月10日	
3	NE17-0367	松川遺跡および隣接地	縄文	須恵器、縄文土器、石器、剥片	散布地	奥州市江刺区田原字大日前地内	平成23年8月10日	周知

22　簡川ダム建設事業（付替県道盛岡大迫東和線及び付替林道）　　盛岡広域振興局土木部簡川ダム建設事務所

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1	LE39-0352	樋野A遺跡	縄文		散布地	盛岡市根田茂字樋野地内	平成23年8月18日	周知

23　経営体育成基盤整備事業黄新田地区　　県南広域振興局農政部農村整備室

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1	NE45-1336	黄ヶ森B遺跡	縄文		散布地	奥州市前沢区黄新田地内	平成23年8月29日	周知
2		可能性あり①				奥州市前沢区黄新田地内	平成23年8月29日	
3		可能性あり②				奥州市前沢区黄新田地内	平成23年8月29日	
4		可能性あり③				奥州市前沢区黄新田地内	平成23年8月29日	

24　北上川治水対策事業（前沢地区、白山地区）　　国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1	NE56-2108	大桜遺跡隣接地				奥州市前沢区字大桜地内	平成23年8月29日	周知
2		可能性あり1				奥州市前沢区字鳥地内	平成23年8月29日	
3		可能性あり2				奥州市前沢区字宿～中村地内	平成23年8月29日	
4		可能性あり3				奥州市前沢区字大通地内	平成23年8月29日	

25　経営体育成基盤整備事業次丸地区　　県南広域振興局農政部農村整備室

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1						奥州市江刺区玉山	平成23年8月30日	

26　経営体育成基盤整備事業藤里北部地区　　県南広域振興局農政部農村整備室

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1						奥州市江刺区藤里地内	平成23年8月30日～31日	

27　県単交通安全施設整備事業湯本地区　　県南広域振興局土木部花巻土木センター

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1						花巻市湯本地内	平成23年9月7日	

28　県単交通安全施設整備事業小通地区　　県南広域振興局土木部花巻土木センター

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1						花巻市東和町小通地内	平成23年9月7日	

29　県単交通安全施設整備事業平良木地区　　県南広域振興局土木部花巻土木センター

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1						花巻市平良木地内	平成23年9月7日	

30　林業地域総合整備事業（地域自主戦略交付金）森林基幹道安藤・平糠線　　県北広域振興局農政部二戸農林振興センター林務室

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1						葛巻町葛巻第50地割字前方地内	平成23年9月7日	

31　農地整備事業（経営体育成型）川又地区　　県北広域振興局農政部二戸農林振興センター農村整備室

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1	JE15-2303	馬洗場IX遺跡	縄文	縄文土器	散布地	二戸市浄法寺町馬洗場地内	平成23年9月9日	周知
2		可能性あり1				二戸市浄法寺町馬洗場地内	平成23年9月9日	

32　農地整備事業（経営体育成型）鳥海地区　　県北広域振興局農政部二戸農林振興センター農村整備室

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1		可能性あり1（出6町遺跡隣接地）				一戸町出6町地内	平成23年9月12日～13日	
2		可能性あり2（51屋敷遺跡隣接地）				一戸町月居地内	平成23年9月12日～13日	
3		可能性あり3（内ノ沢遺跡隣接地）				一戸町月居地内	平成23年9月12日～13日	
4		可能性あり4（月居中坪遺跡隣接地）				一戸町月居地内	平成23年9月12日～13日	
5		可能性あり5（月居中坪II遺跡隣接地）				一戸町月居地内	平成23年9月12日～13日	
6		可能性あり6（柄上遺跡隣接地）				一戸町月居地内	平成23年9月12日～13日	
7		可能性あり7（居遺跡隣接地）				一戸町月居地内	平成23年9月12日～13日	
8		可能性あり8（柚子田遺跡隣接地）				一戸町中里地内	平成23年9月12日～13日	
9		可能性あり9（柚子田遺跡隣接地）				一戸町中里地内	平成23年9月12日～13日	
10		可能性あり10（小滝館遺跡隣接地）				一戸町～戸地内	平成23年9月12日～13日	
11		可能性あり11（小滝館遺跡隣接地）				一戸町～戸地内	平成23年9月12日～13日	

33　治山事業　西部地区　　県南広域振興局林務部

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	NE57-0129	西部遺跡	縄文・中世		散布地・城館跡	奥州市前沢区生母字西館地区	平成23年9月13日	

34　経営体育成基盤整備事業　夏川地区　　県南広域振興局農政部一関農村整備センター

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1						一関市花泉町油島地内	平成23年9月13日	

35　経営体育成基盤整備事業　夏川2期地区　　県南広域振興局農政部一関農村整備センター

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1						一関市花泉町油津地内	平成23年9月13日	

36　基幹水利施設ストックマネジメント事業岩手2期地区（滝本1工区排水路）　　県南広域振興局農政部北上農村整備センター

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1						花巻市鳥塚地内	平成23年10月4日	

37　一般国道45号釜石山田道路　　国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	MC33-0097	沢田遺跡	縄文・平安		散布地	大槌町大槌地内	平成23年10月5日	周知
2	MC23-2225	金敷畑遺跡		鉄滓	散布地	大槌町浪板地内	平成23年10月5日	周知
3	MC23-1279	白石遺跡			散布地	大槌町浪板地内	平成23年10月5日～6日	周知
4	MC23-1391	昌清ヶ沢遺跡	縄文		散布地	大槌町浪板地内	平成23年10月5日～6日 平成23年11月17日	周知
5	MC23-1373	田尾遺跡	縄文		散布地	大槌町浪板地内	平成23年10月5日～6日	周知
6	MC23-1354	惣磯遺跡	縄文		散布地	大槌町浪板地内	平成23年10月5日～6日 平成23年11月17日～18日	周知
7	MC24-0013	大沢川遺跡	縄文		散布地	山田町船越地内	平成23年10月6日 平成23年11月17日～18日	周知
8	MC14-2086	屋平遺跡および隣接地	縄文		散布地	山田町船越地内	平成23年10月6日 平成23年11月17日～18日	周知
9	MC14-1119	室の沢遺跡			散布地	山田町船越地内	平成23年11月18日、12月15日	周知
10		可能性あり				大槌町浪板地内	平成23年10月6日	

38　地域づくり緊急改善事業　　県南広域振興局農政部北上農村整備センター

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	NE05-1077	関田遺跡				金ヶ崎町横沢地区	平成23年10月7日	
2	NE05-2004	横沢遺跡				金ヶ崎町横沢地区	平成23年10月7日	
3	NE36-1297	北原遺跡				奥州市前沢区袋中新居駅前地区	平成23年10月7日	
4	NE36-1169	折居館遺跡隣接地				奥州市前沢区葉生沢地区	平成23年10月7日	
5	NE17-0347	御免遺跡隣接地				奥州市江刺区御免地区	平成23年10月7日	

39　交通安全施設整備事業　　県南広域振興局土木部

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	ME86-2137	谷地遺跡	古代	須恵器	散布地	奥州市江刺区福瀬子谷地地内	平成23年10月7日	周知
2	ME86-1186	谷地Ⅱ遺跡	平安		集落跡	奥州市江刺区福瀬子谷地地内	平成23年10月7日	周知
3	NE35-2018	上忠谷遺跡	縄文		散布地	奥州市胆沢区小山字上忠谷地内	平成23年10月7日	周知
4	NE05-1077	関田遺跡	中世		経塚	金ヶ崎町永沢地内	平成23年10月7日	周知
5		可能性あり①				金ヶ崎町永沢地内	平成23年10月7日	

40　交通安全施設整備事業　　県南広域振興局土木部

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	NE05-1134	春慶遺跡			散布地	金ヶ崎町永沢地内	平成23年10月14日	周知
2	NE05-0196	清水遺跡	弥生		散布地	金ヶ崎町永沢地内	平成23年10月14日	周知
3		可能性あり②				金ヶ崎町永沢地内	平成23年10月14日	
4	NE05-0282	黒沢遺跡	縄文		散布地	金ヶ崎町永沢地内	平成23年10月14日	周知

41　経営体育成基盤整備事業（通作条件整備型）　　県北広域振興局農政部二戸農林振興センター農村整備室

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	IF74-1316	貝王2遺跡	縄文		散布地	軽米町貝王地内	平成23年10月20日	周知
2		可能性あり①		土師器片数点		軽米町貝王地内	平成23年10月20日	

42　地域連携道路整備事業一般県道大川松草線本町～大広地区　　岩手県広域振興局土木部岩泉土木センター

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考

1		可能性あり					岩泉町大川地内	平成 23 年 10 月 21 日		
2	KF77-0260	寺屋遺跡	縄文・弥生			散布地	岩泉町大川地内	平成 21 年 10 月 21 日	周知	
3	KF77-0174	大川大正遺跡	縄文			散布地	岩泉町大川地内	平成 23 年 10 月 21 日	周知	

43　一関遊水地事業　　国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1						奥州市前沢区向谷起地内	平成 23 年 11 月 1 日	

44　一戸河川北上川水系和賀川災害対策等緊急推進事業　　県南広域振興局土木部北上土木センター

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1	MD28-1255	掘無遺跡隣接地	縄文		散布地	西和賀町沢内字新町地内	平成 23 年 11 月 4 日	周知
2	MD28-0139	堀田館遺跡	中世		城館跡	西和賀町沢内字前郷地内	平成 23 年 11 月 4 日	周知
3	MD70-2072	大杜沢沢Ⅵ遺跡	縄文		散布地	西和賀町沢内字川身地内	平成 23 年 11 月 4 日	周知

45　一般国道45号古浜道路　　国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1	NG11-1235	古浜城跡隣接地			散布地	大船渡市三陸町吉浜字中井地内	平成 23 年 11 月 8 日	

46　災害公営住宅整備事業　　県土整備部建築住宅課

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1	MG33-0397	古里古里Ⅱ遺跡			散布地	大槌町古里古里地内	平成 23 年 11 月 25 日	周知

47　災害復旧事業小白浜海岸地区　　沿岸広域振興局土木部

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1	MG92-0191	伝城跡	中世		城館跡	釜石市唐丹町字片岸地内	平成 23 年 11 月 25 日	周知

48　一般国道45号三陸沿岸道路（唐丹～陸前高田）　　国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1		可能性あり①'				陸前高田市気仙町地内	平成 24 年 2 月 9 日～ 10 日	
2		可能性あり②'				陸前高田市気仙町地内	平成 24 年 2 月 9 日～ 10 日	
3	NF76-1315	牧田田塚	縄文・奈良・平安		旧塚	陸前高田市気仙町字牧田	平成 24 年 2 月 9 日～ 10 日	周知
4		可能性あり③'				陸前高田市気仙町地内	平成 24 年 2 月 13 日～ 16 日	
5		可能性あり④'				陸前高田市気仙町地内	平成 24 年 2 月 13 日～ 16 日	
6		可能性あり⑤'				陸前高田市気仙町地内	平成 24 年 2 月 13 日～ 16 日	

49　一般国道45号　三陸沿岸道路（吉浜～釜石）　　国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1	NG11-1260	中尾遺跡隣接地	縄文		散布地	大船渡市吉浜地内	平成 24 年 2 月 20 日	周知
2		可能性あり①'				大船渡市吉浜地内	平成 24 年 2 月 20 日	
3	MG91-2369	荒川和山遺跡	縄文（前～晩期）・弥生（後期）		集落跡・旧塚	釜石市唐丹町荒川地内	平成 24 年 2 月 21 日	周知
4	MG92-2055	荒川砂子渕遺跡	縄文（前期・中期）		包含地	釜石市唐丹町荒川地内	平成 24 年 2 月 21 日	周知
5		可能性あり②'				釜石市唐丹町荒川地内	平成 24 年 2 月 22 日～ 23 日	
6	MG92-0133	小白浜遺跡	縄文（早～晩期）・弥生（前期）・近世		集落跡	釜石市唐丹町小白浜地内	平成 24 年 2 月 22 日～ 23 日	周知
7		可能性あり③'				釜石市甲子町向定内地内	平成 24 年 2 月 27 日～ 28 日	
8	MG71-2352	大沢２遺跡	縄文（中期）		散布地	釜石市甲子町向定内地内	平成 24 年 2 月 27 日～ 28 日	周知
9	MG71-2209	大沢１遺跡隣接地				釜石市甲子町向定内地内	平成 24 年 2 月 27 日～ 28 日	
10		可能性あり④'				釜石市甲子町向定内地内	平成 24 年 2 月 27 日～ 28 日	

50　一般国道45号三陸沿岸道路（釜石JCT～釜石中央IC）、一般国道283号釜石花巻道路（釜石～釜石西）　　国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1		可能性あり①'				釜石市甲子町坪内地内	平成 24 年 3 月 1 日	
2	MG70-2209	大畑堀地遺跡	縄文		散布地	釜石市甲子町大畑地内	平成 24 年 3 月 7 日	周知
3	MG70-2207	不動ノ滝遺跡	縄文（中～晩期）・古代以降		散布地	釜石市甲子町大畑地内	平成 24 年 3 月 8 日	周知

51　農地等災害復旧事業（土取場仮補地）　　沿岸広域振興局農林部大船渡農林振興センター

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1	NF66-0103	片地家屋遺跡	近世		城館跡	陸前高田市矢作町字片地家地内	平成 24 年 3 月 2 日	周知
2	NG11-2360	向浜Ⅱ遺跡	縄文		旧塚	大船渡市三陸町吉浜字横石地内	平成 24 年 3 月 2 日	周知
3	NG11-1260	中井遺跡	縄文		散布地	大船渡市三陸町吉浜字中井地内	平成 24 年 3 月 2 日	周知

52　一般国道45号三陸沿岸道路（山田～宮古）　　国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考

1	LG94-0024	沢田Ⅲ遺跡	縄文		城館跡	山田町	平成24年3月6日	周知
2	LG94-0025	間木戸Ⅲ遺跡	縄文、不明		散布地・製鉄	山田町	平成24年3月6日	周知
3	LG94-0005	間木戸Ⅲ遺跡	縄文		散布地	山田町	平成24年3月6日	周知
4	LG94-0007	間木戸Ⅲ遺跡	縄文		散布地	山田町	平成24年3月6日	周知
5	LG84-2096	間木戸Ⅳ遺跡	縄文・近世		集落・一里塚	山田町	平成24年3月6日	周知
6	LG84-2098	間木戸Ⅴ遺跡	縄文、不明		散布地・生産遺跡	山田町	平成24年3月6日	周知
7	LG73-1390	下田名部Ⅱ遺跡	縄文、不明		散布地・生産遺跡	山田町	平成24年3月6日	周知
8	LG94-0024	豊間根新田Ⅰ遺跡	縄文、不明		散布地・生産遺跡	山田町豊間根	平成24年3月6日	周知
9		可能性あり				山田町豊間根	平成24年3月6日	
10	LG63-2129	石峠Ⅱ遺跡	縄文、不明		散布地・生産遺跡	山田町豊間根	平成24年3月7日	周知
11	LG63-2109	内館遺跡	中世		城館跡	山田町豊間根	平成24年3月7日	周知
12	LG63-0280	荷竹日影Ⅱ遺跡	不明		散布地	宮古市	平成24年3月7日	周知
13	LG63-02131	荷竹日向Ⅰ遺跡	縄文・古代		散布地	宮古市	平成24年3月7日	周知
14	LG63-0200	払川Ⅲ遺跡	縄文・古代		散布地	宮古市	平成24年3月7日	周知
15	LG53-2291	払川Ⅱ遺跡	縄文・古代		集落跡	宮古市	平成24年3月7日	周知
16	LG53-2201	根井沢穴田Ⅳ遺跡	縄文		散布地	宮古市	平成24年3月7日	周知
17	LG53-1273	根井沢穴田Ⅰ遺跡	縄文・古代		散布地	宮古市	平成24年3月12～13日	周知
18	LG53-1266	沼里館遺跡	中世		城館跡	宮古市	平成24年3月12～13日	周知
19	LG53-1225	沼里遺跡	縄文・奈良		集落跡	宮古市	平成24年3月12～13日	周知
20	LG53-1207	津軽石大森遺跡	縄文		散布地	宮古市	平成24年3月12～13日	周知
21	LG53-0268	馬越Ⅰ遺跡	縄文・古代		散布地	宮古市	平成24年3月12～13日	周知
22		可能性あり2				宮古市	平成24年3月12～13日	
23	LG53-0313	金浜Ⅴ遺跡	縄文		散布地	宮古市	平成24年3月12～13日	周知
24		可能性あり3				宮古市	平成24年3月12～13日	
25	LG43-2363	金浜Ⅱ遺跡	古代		集落跡	宮古市	平成24年3月12～13日	周知
26		可能性あり4				宮古市	平成24年3月12～13日	
27	LG43-2209	賽の神Ⅲ遺跡	縄文・古代		集落跡	宮古市	平成24年3月12～13日	周知

53　北上川治水対策事業（廿木地区）　　国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1	LE77-2159	下川原Ⅰ遺跡	古代		散布地	紫波町南日詰字下川原地内	平成24年3月16日	周知
2		可能性あり （南日詰小路口Ⅰ遺跡隣接）				紫波町南日詰字小路口地内	平成24年3月16日	

54　一般国道45号三陸沿岸道路（宮古～田老、田老～岩泉）　　国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所

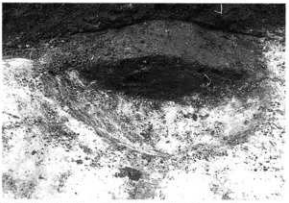
No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1	LG33-0197	千徳城遺跡群	奈良・平安・中世		城館跡	宮古市千徳	平成24年3月14～15日	周知
2	LG33-0138	近内寺本Ⅰ遺跡	縄文・古代		散布地	宮古市近内	平成24年3月14～15日	周知
3	LG33-0221	青猿Ⅰ遺跡	縄文・平安		集落・製鉄跡	宮古市近内・千徳	平成24年3月14～15日	周知
4		可能性あり①				宮古市山口	平成24年3月14～15日	
5	LG23-2244	山口駒込Ⅰ遺跡	縄文・奈良		集落跡	宮古市山口	平成24年3月14～15日	周知
6	LG23-1253	高根遺跡	縄文		土壙墓群	宮古市山口	平成24年3月28日	周知
7	LG23-1233	牛沢遺跡	縄文		散布地	宮古市山口	平成24年3月28日	周知
8	LG13-1316	一の渡Ⅰ遺跡	縄文		散布地	宮古市崎山	平成24年3月28日	周知
9		可能性あり②				宮古市田老	平成24年3月29日	
10		可能性あり③				宮古市田老	平成24年3月26日	
11	KG84-0069	乙部遺跡	縄文		散布地	宮古市田老	平成24年3月26日	周知
12	KG84-0110	小堀内遺跡	縄文		散布地	宮古市田老	平成24年3月27日	周知
13	KG74-2133	向新田Ⅲ遺跡	縄文・弥生		散布地	宮古市田老	平成24年3月27日	周知
14		可能性あり④				岩泉町小本	平成24年3月14～15日	

（4）工事立会

No.	調　査　期　日	事　業　名	事　業　者	遺　跡　名	所在地
1	平成23年4月12日	経営体育成基盤整備事業　江刺西部地区	県南広域振興局農政部農村整備室	五十瀬神社前遺跡	奥州市
2	平成23年9月7日	基幹水利施設ストックマネジメント事業 （花巻工区南幹線）	県南広域振興局農政部北上農村整備センター	鳥谷遺跡	花巻市
3	平成23年9月29日	経営体育成基盤整備事業（通作条件整備型）	盛岡広域振興局農政部農村整備室	下川原Ⅰ・Ⅱ遺跡	紫波町
4	平成23年10月4日	経営体育成基盤整備事業　都鳥3期地区	県南広域振興局農政部農村整備室	作屋敷遺跡	奥州市
5	平成23年10月14日	経営体育成基盤整備事業　六原地区	県南広域振興局農政部農村整備室	赤石遺跡	金ヶ崎町
6	平成23年10月19日	経営体育成基盤整備事業　和賀中部第4地区	県南広域振興局農政部北上農村整備センター	南部領伊達領境塚	北上市
7	平成23年11月24日	緊急地方道路整備事業（森下地区）	県南広域振興局土木部一関土木センター	瀬原Ⅱ遺跡	平泉町
8	平成23年12月5日	集落基盤整備事業（地域用水型）	盛岡広域振興局農政部農村整備室	太田蝦夷森古墳群	盛岡市
9	平成24年1月12日	津軽石地区県単治山工事	沿岸広域振興局農林部宮古農林振興センター林務室	山崎館遺跡	宮古市
10	平成24年1月27日	貯め池等整備事業	県南広域振興局農政部一関農村整備センター	小間木遺跡	一関市
11	平成24年3月6日	北上川中流域河川改修事業	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	千苅遺跡	北上市

鳩岡崎下通遺跡　1号土坑　全景（南東→）

鳩岡崎下通遺跡　1号土坑　断面（南東→）



鳩岡崎下通遺跡　2号土坑　断面（北西→）

鳩岡崎下通遺跡　3号土坑　全景（南→）

鳩岡崎下通遺跡　柱穴（南西→）

鳩岡崎下通遺跡　調査状況（南西→）

土川Ⅱ遺跡　1号住居跡　全景（北東→）

土川Ⅱ遺跡　柱穴群（北東→）

写真図版1　検出遺構・調査状況（1）

子飼沢高炉跡　1号土坑　全景（南東→）

子飼沢高炉跡　1号土坑　断面（南東→）

子飼沢高炉跡　2号土坑　全景（西→）

子飼沢高炉跡　2号土坑　断面（西→）

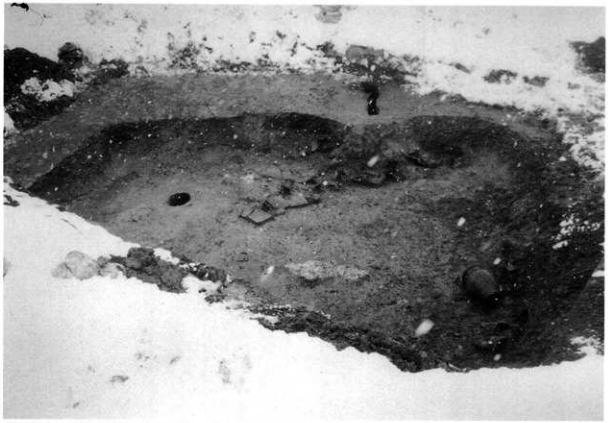
上平Ⅲ遺跡　1号土坑　全景（南東→）

古城林遺跡北調査区　1号溝跡　全景（西→）

古城林遺跡南調査区　柱穴群（北→）

中野Ａ遺跡　調査区西側　精査状況（南→）

写真図版２　検出遺構・調査状況（２）



谷地遺跡　1号住居跡　全景（南西→）

谷地遺跡　1号住居跡　断面（南東→）

谷地遺跡　1号住居跡　断面（南西→）

谷地遺跡　1号住居跡カマド　断面（南東→）

谷地遺跡　1号住居跡カマド煙道　断面（南東→）

写真図版３　検出遺構・調査状況（３）

谷地遺跡　1号住居跡カマド（南西→）

谷地遺跡　1号住居跡　遺物出土状況（南西→）

谷地遺跡　1号住居跡　遺物出土状況

谷地遺跡　1号住居跡　pit2 遺物出土

谷地遺跡　1号住居跡　精査状況

谷地遺跡　2号土坑　全景（南→）

谷地遺跡　3号溝跡　全景（南→）

谷地遺跡　3号溝跡　断面（南→）

写真図版 4　検出遺構・調査状況（4）

谷地遺跡　1号溝跡　全景（西→）

谷地遺跡　1号溝跡　断面（西→）

谷地遺跡　4号溝跡　全景（南西→）

谷地遺跡　2号溝跡　全景（西→）

谷地遺跡　5号溝跡　全景（南→）

谷地遺跡　柱穴群（南→）

写真図版5　検出遺構・調査状況（5）

久田Ⅱ遺跡　1号住居跡　全景（北西→）

久田Ⅱ遺跡　1号住居跡カマド（北西→）

久田Ⅱ遺跡　2号住居跡　全景（西→）

八天坂遺跡　3号住居跡　全景（北西→）

八天坂遺跡　4号住居跡　全景（南西→）

八天坂遺跡　6号住居跡　全景（北東→）

写真図版6　検出遺構・調査状況（6）

八天坂遺跡　5号住居跡　全景（南東→）

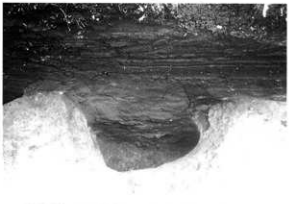
八天坂遺跡　7号住居跡　全景（北西→）

久田Ⅱ遺跡　1号土坑　全景（北西→）

八天坂遺跡　3号土坑　全景（北西→）

八天坂遺跡　7号土坑　全景（北→）

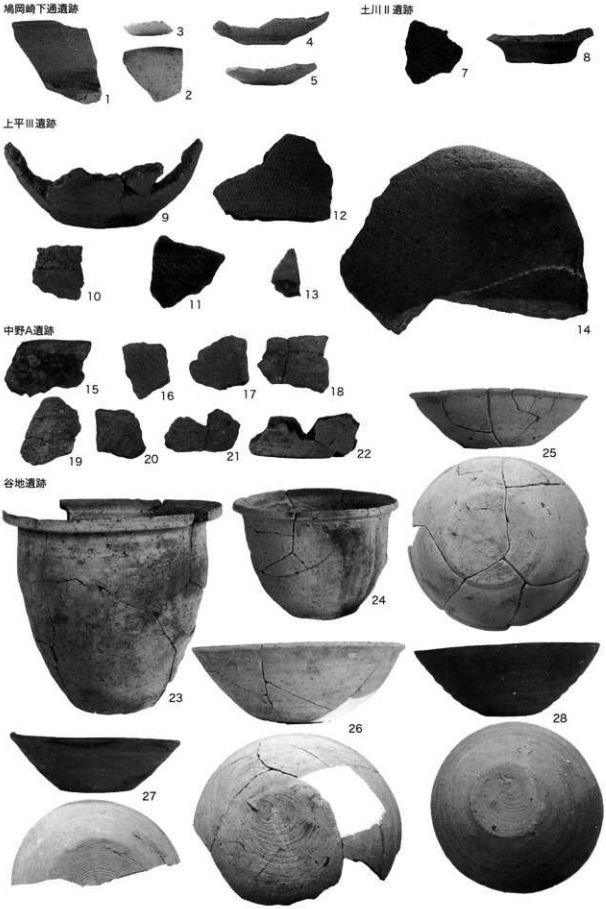
八天坂遺跡　9号土坑　全景（南→）



八天坂遺跡　13号土坑　全景（北西→）

八天坂遺跡　14号土坑　全景（南東→）

写真図版7　検出遺構・調査状況（7）



写真図版8　出土遺物（1）発掘調査

写真図版9　出土遺物（2）発掘調査

写真図版 10　出土遺物（3）発掘調査

写真図版11　出土遺物（4）発掘調査

70

71

73

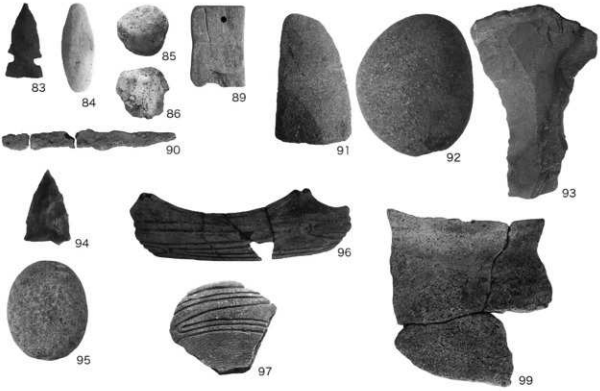
72

74

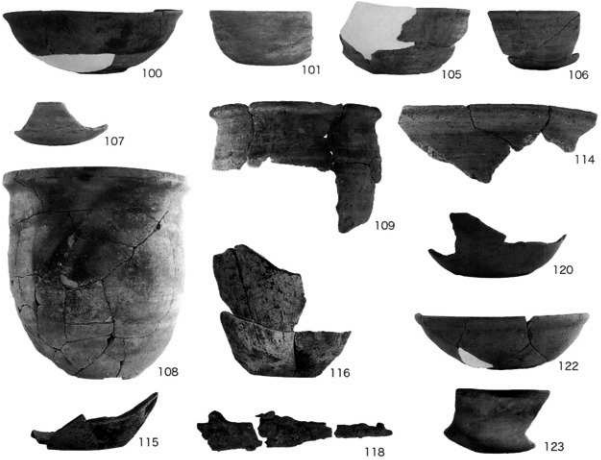
75

79

写真図版12　出土遺物（5）発掘調査



八天坂遺跡・久田Ⅱ遺跡



写真図版13　出土遺物（6）発掘調査

124

125

126

127

130

131

132

133

134

135

136

137

138

139

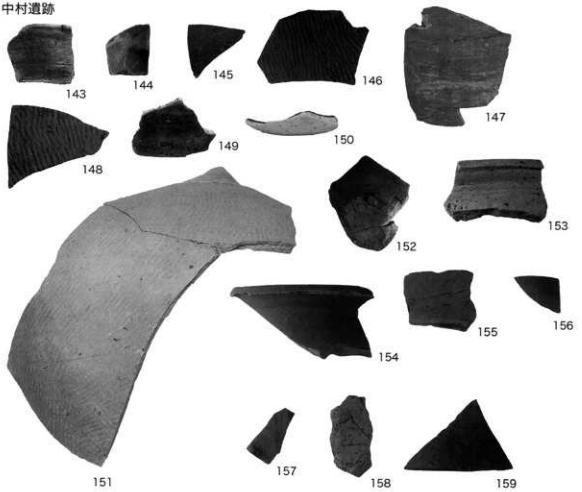
140

141

142

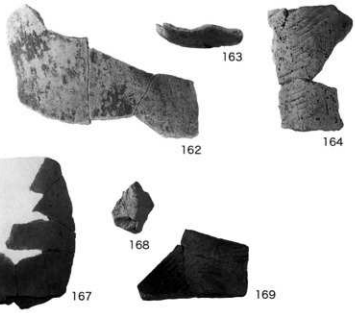
写真図版14　出土遺物（7）発掘調査

中村遺跡



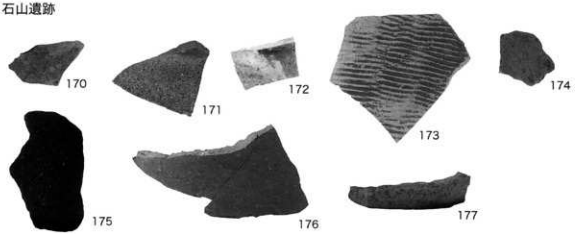
松山館遺跡

漆町遺跡



写真図版15　出土遺物（8）試掘調査

石山遺跡



赤石遺跡

下清水遺跡

中平遺跡

写真図版16　出土遺物（9）試掘調査・市町村支援

報告書抄録

ふりがな	いわてけんないいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	岩手県内遺跡発掘調査報告書
副書名	平成23年度
シリーズ名	岩手県文化財調査報告書
シリーズ番号	第136集
編著者名	岩手県教育委員会
編集機関	岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課
所在地	〒020－8570　岩手県盛岡市内丸10－1　TEL 019－629－6171
発行年月日	平成25年3月28日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
ほとおかざかしたおかだおり 鳩岡崎下通 いせき 遺跡	いわてけんきたかみしほとおかざか 岩手県北上市鳩岡崎 だいちわり 第4地割	032069	ME55－1186	39度18分42秒	141度4分54秒	20110425～0427	240㎡	県道拡幅工事（歩道設置）
きたかみにしやま 北川Ⅱ遺跡	いわてけんにのへ 岩手県二戸市 いしきりとうげおり 石切所上川	032131	JE09－1152	40度15分26秒	141度16分8秒	20110803～0805	150㎡	農業用給水管理設工事
こがいざわこうもんあと 子飼沢高ﾓﾝ跡	いわてけんぜんだくぐん 岩手県滝沢郡 すみたきょうせんまち 住田町世田米	034410	NF13－0143	39度9分29秒	141度70分97秒	20110823～0826	500㎡	国道改築工事
かみひらさんいせき 上平田遺跡	いわてけんにのへし 岩手県二戸市 おいずみちょうおり 米沢上野	032131	IE99－2218	40度16分41秒	141度17分24秒	20110926～0928	150㎡	農業用給水管理設工事
可能性あり ①・②・③	いわてけんしずかぐん 岩手県胆沢郡 かねがさきちょうろくはら 金ヶ崎町六原	033812		39度5分8秒	141度9分1秒	20111011～1014	㎡	ほ場整備工事
こじょうはやしいせき 古城林遺跡	いわてけんぜんだくぐん 岩手県奥州市 まえさわくこじょう 前沢区古城	032158	LE47－1169	39度5分8秒	141度9分1秒	20111101～1102 20120229～0301	350㎡	ほ場整備工事
なかたえいせき 中野A遺跡	いわてけんはなまきし 岩手県花巻市 たかまつだいななちわり 高松第7地割	032051	NF62－1157	39度22分56秒	141度9分37秒	20120312～0314	2,770㎡	県営施設建物改築工事
やちいせき 谷地遺跡	いわてけんおういんしゅう 岩手県奥州市 えさしこうりんはやしやち 江刺区稲瀬字谷地	032158	ME86－2137	39度13分22秒	141度7分42秒	20110111～0201	2,000㎡	堤防改築工事
はってんざかいせき 八天坂遺跡 きゅうたいないせき 久田Ⅱ遺跡	いわてけんきたかみし 岩手県北上市 いわさきしんでん 岩崎新田	032069	ME74－0252 0207	39度16分3秒	141度2分31秒	20100207～0218 20110228～0303	400㎡	農業用給水管理設工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鳩岡崎下通遺跡	集落跡	平安時代	土坑	土師器少量	
上川Ⅱ遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡、柱穴	縄文土器数点	
子飼沢高ﾓﾝ跡	生産遺跡	時期不明	土坑	なし	
上平田遺跡	集落跡	縄文時代	土坑	縄文土器少量	
可能性あり ①・②・③			なし	なし	
古城林遺跡	集落跡	平安時代 時期不明	柱穴 溝跡	土師器小片	
中野A遺跡	散布地	縄文時代	なし	縄文土器少量	
谷地遺跡	散布地 集落跡	弥生時代 平安時代	竪穴住居跡、土坑、溝	弥生土器、石器 土師器、須恵器	9世紀前半の竪穴住居から須恵器が多量に出土。
八天坂遺跡 久田Ⅱ遺跡	集落跡	平安時代	竪穴住居跡、土坑、溝	土師器、須恵器	9世紀後半の集落跡

岩手県文化財調査報告書　第136集

岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成23年度）

発行日　平成25年3月28日
発　行　岩手県教育委員会
〒020-8570　岩手県盛岡市内丸10−1
編　集　岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課
印　刷　小松総合印刷㈱
〒020-0827　岩手県盛岡市鉈屋町15−4

©岩手県教育委員会　2013